

Ⅱ 18 歳以上の区民の方が対象

～ 暮らし・保健・環境の分野など ～

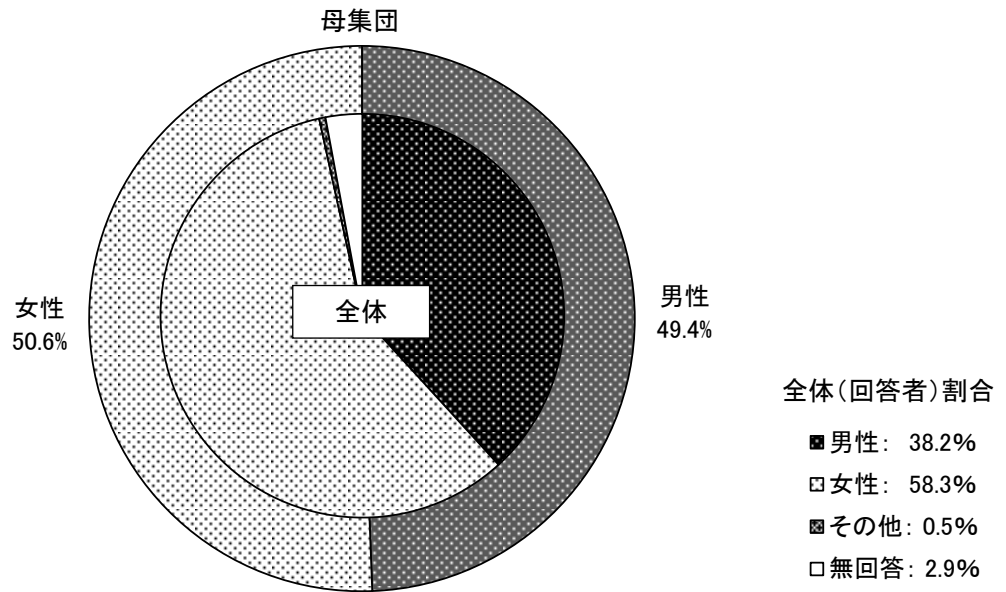
1 回答者の属性について

(1) 性別

母集団：大田区 18 歳以上の人口 (n=635, 100) 令和 4 年 1 月 1 日現在

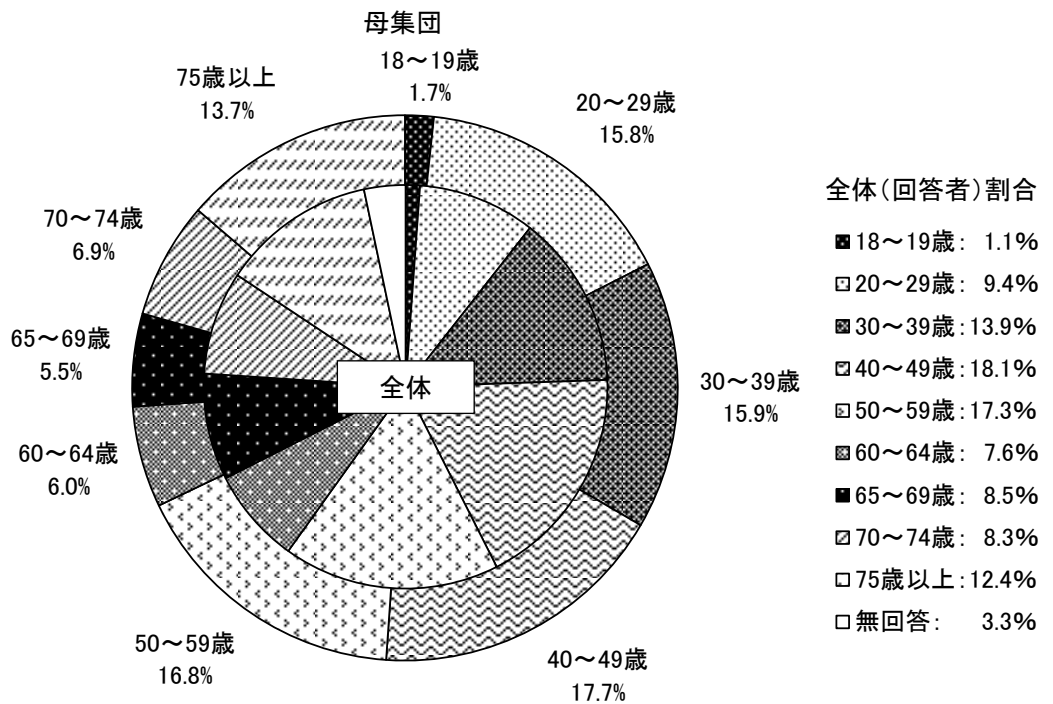
全 体：有効回収数 (n=785)

全体 n=785



(2) 年齢

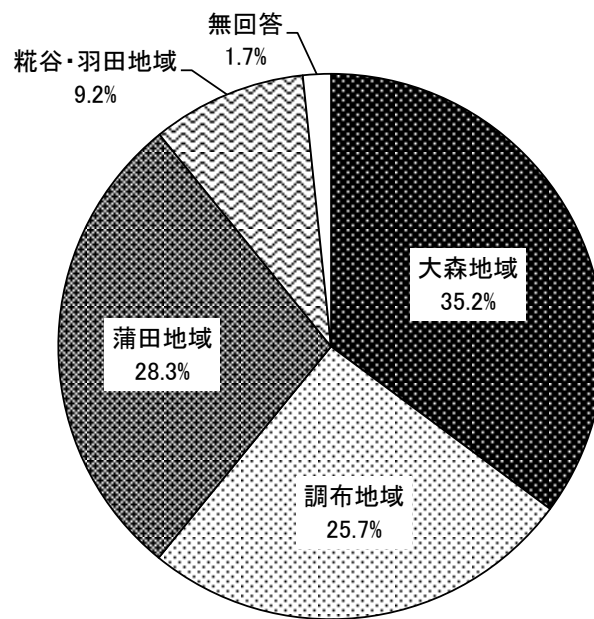
全体 n=785



【出典】大田区：年齢別人口報告表資料（日本人+外国人）令和 4 年 1 月 1 日現在

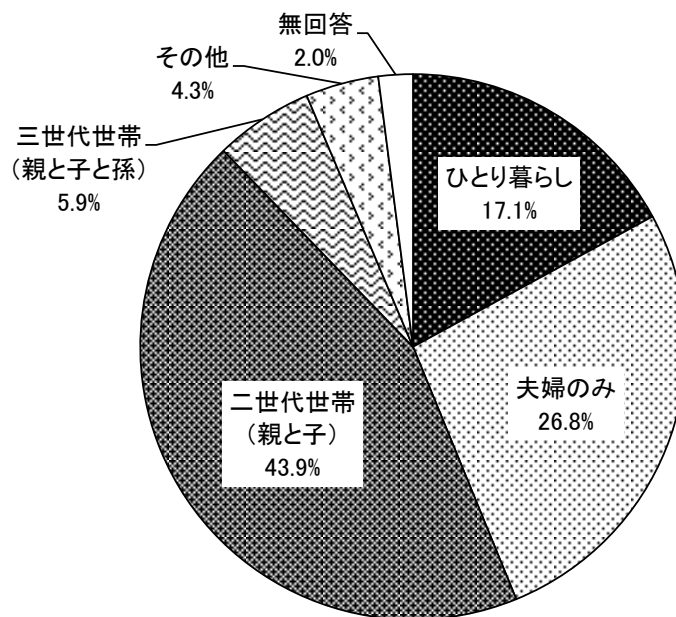
(5) 居住地域

全体 n=785



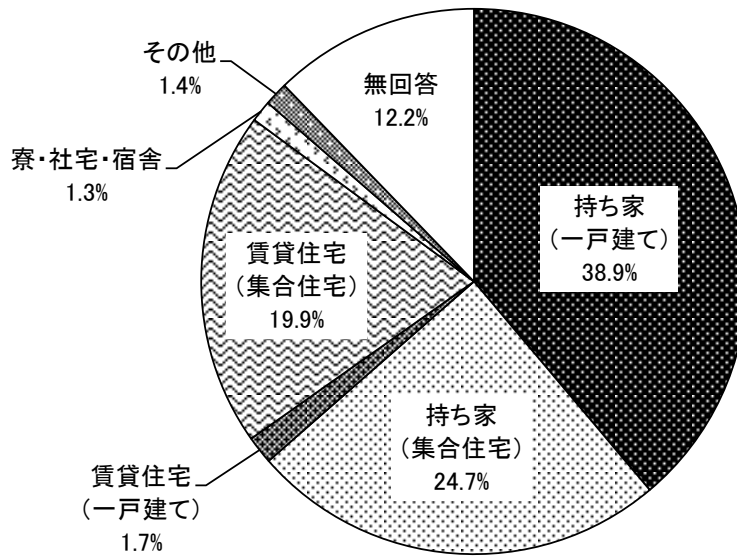
(6) 家族構成

全体 n=785

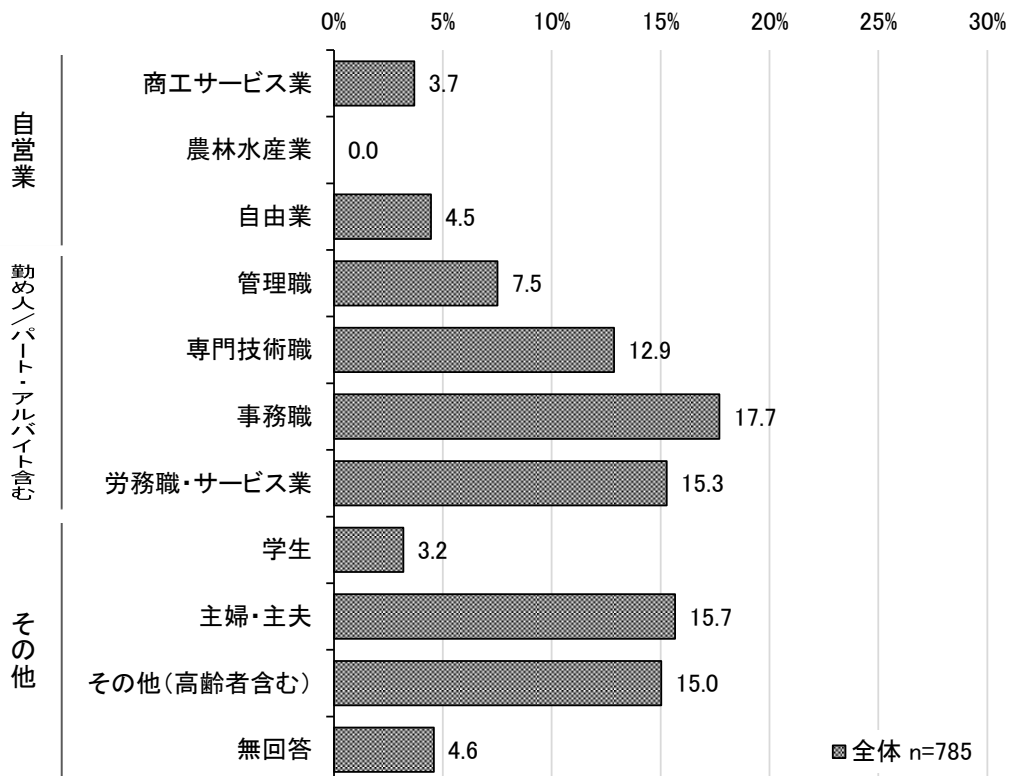


(7) 住まいの種類

全体 n=785

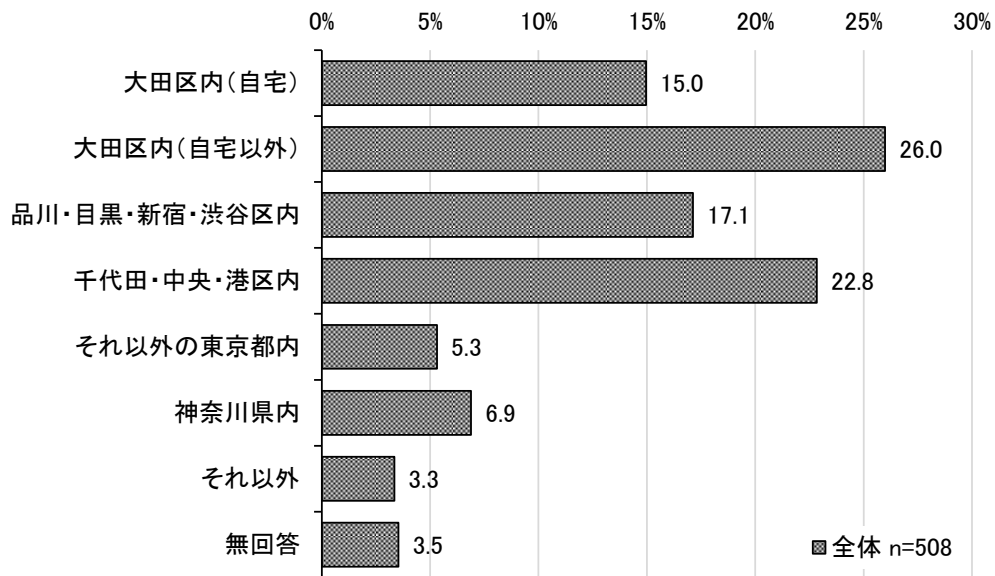


(8) 職業

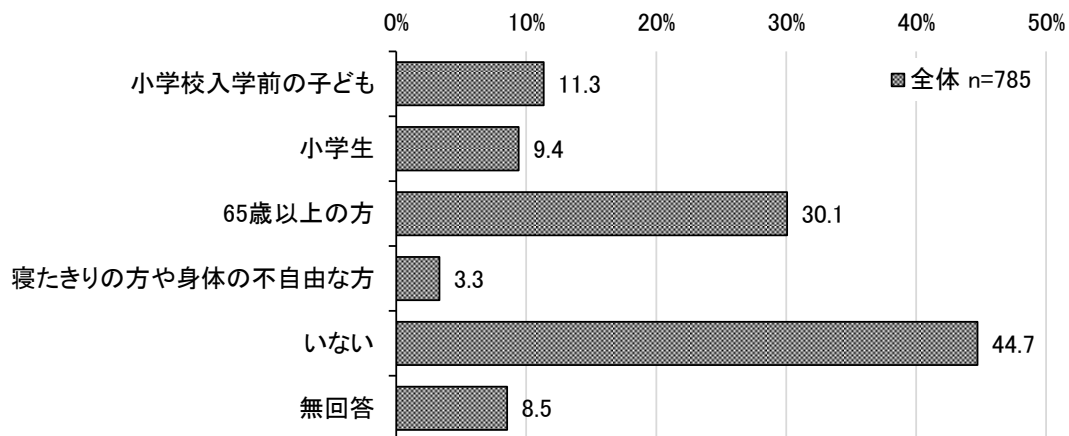


(9) 主な通勤・通学先

【(8) 職業で「自営業」「勤め人」「学生」と回答した方】

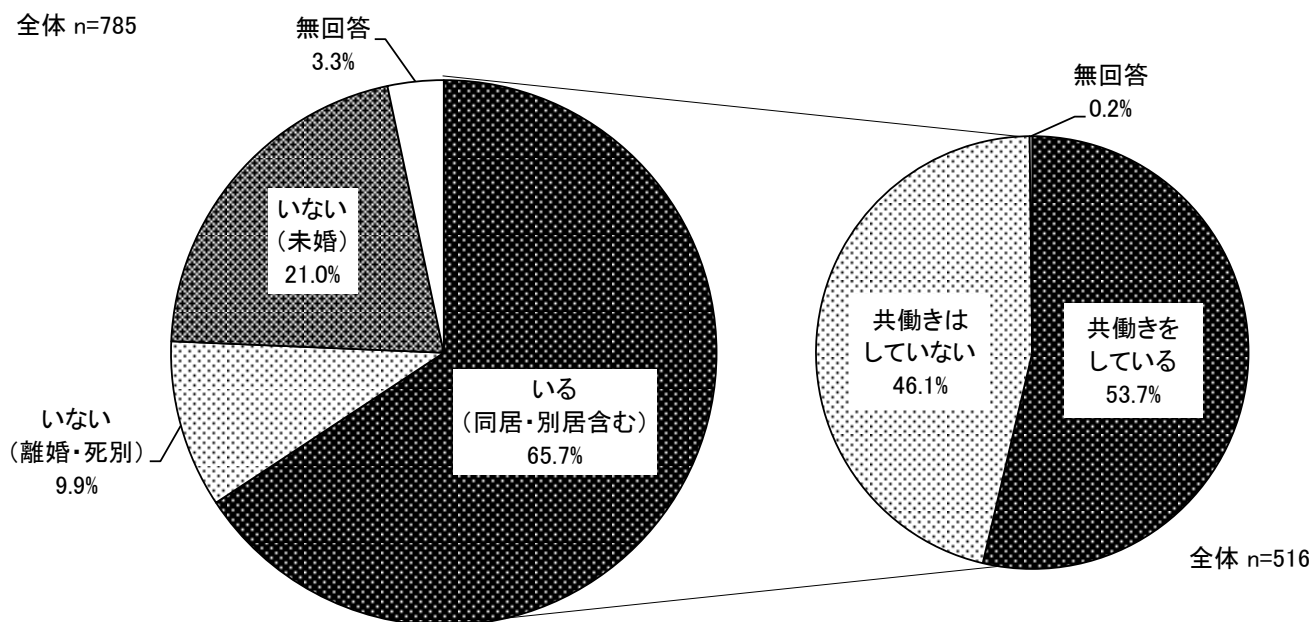


(10) 同居家族

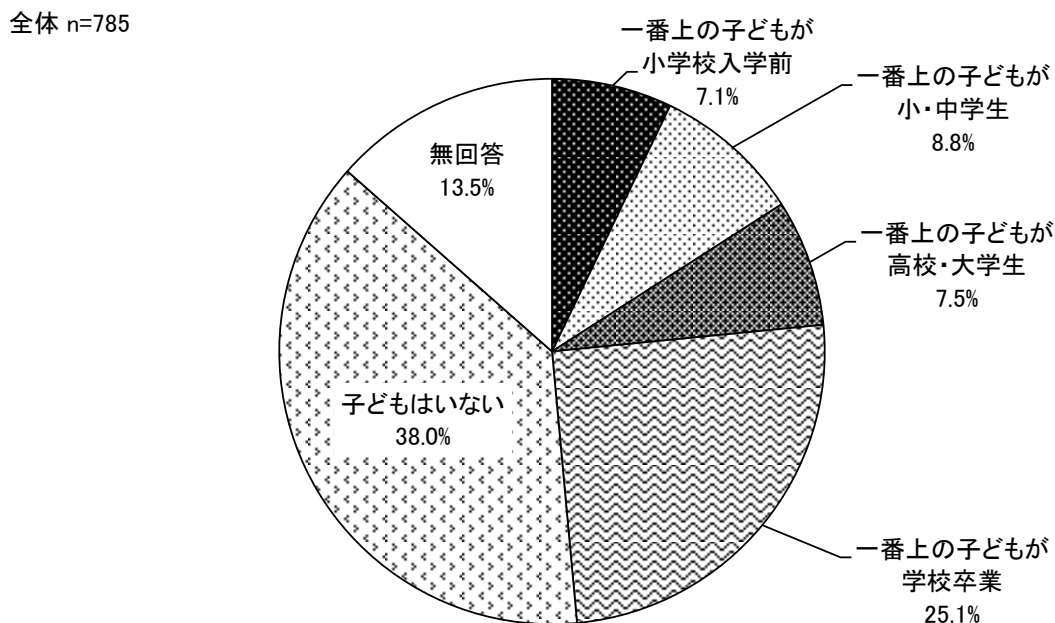


(11) 配偶者の有無及び (12) 共働きの状況

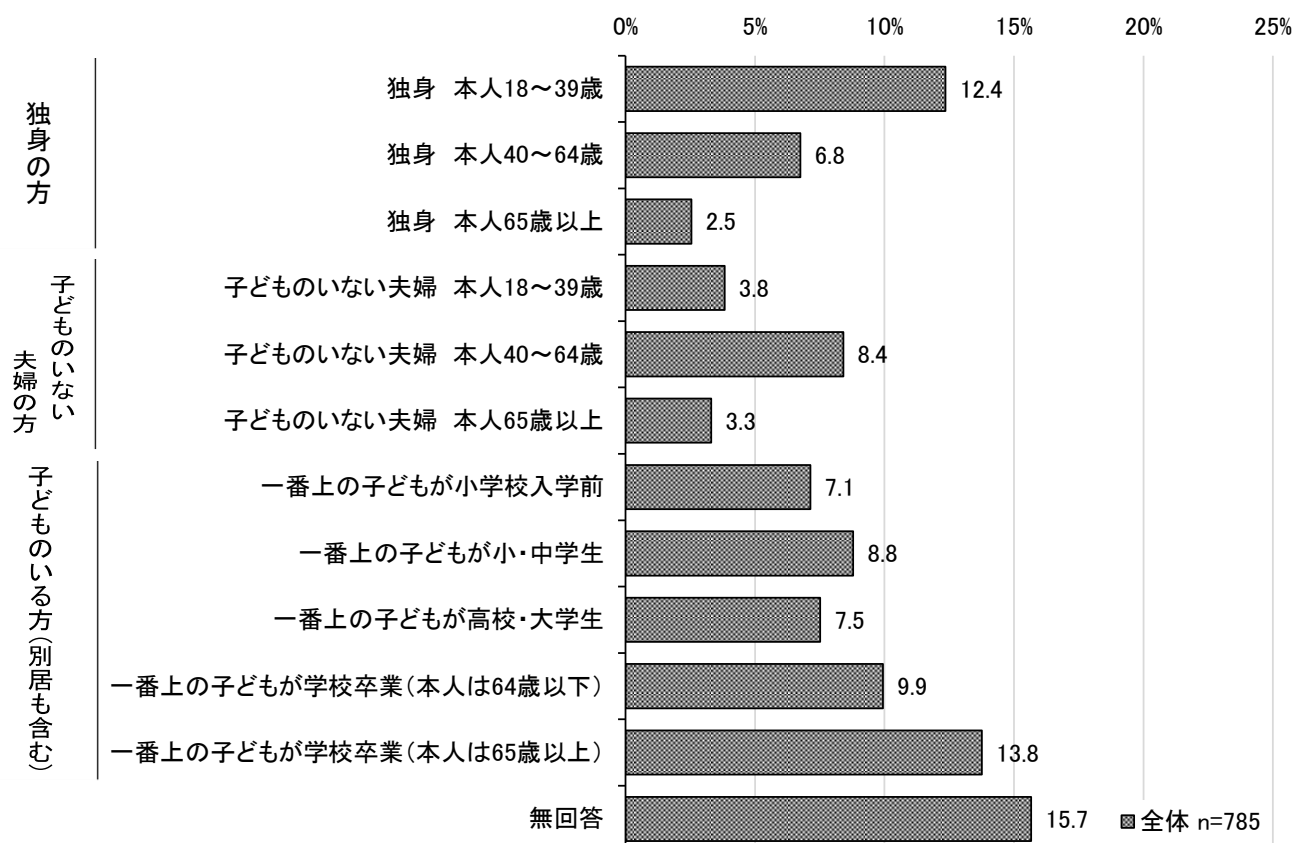
【(11) 配偶者の有無で「いる (同居・別居含む)」と回答した方】



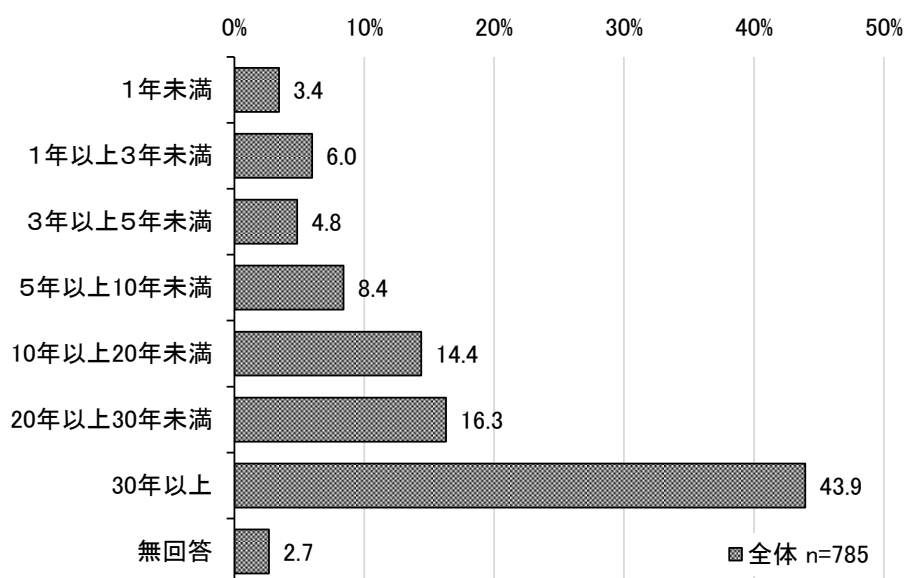
(13) 子どもの有無



(14) 自身のステージ



(15) 居住年数



2 各種認知度について

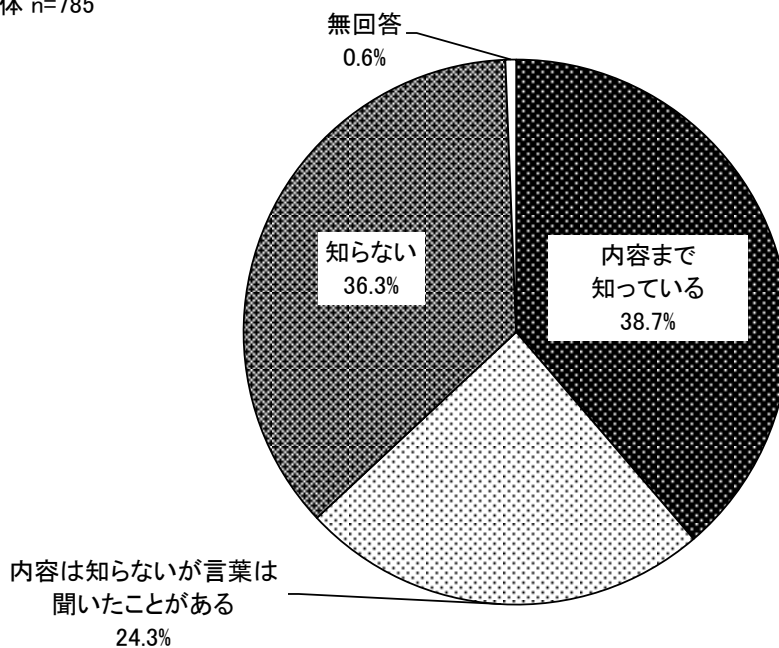
(1) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度

◇「内容まで知っている」は4割弱となっている

問1 「ワーク・ライフ・バランス」とは、「仕事と生活の調和」を意味する言葉ですが、あなたはこの言葉を知っていますか。(1つのみ)

“ワーク・ライフ・バランス”の認知度については、「内容まで知っている」が38.7%で最も高く、次いで「知らない」が36.3%、「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が24.3%となっている。

全体 n=785

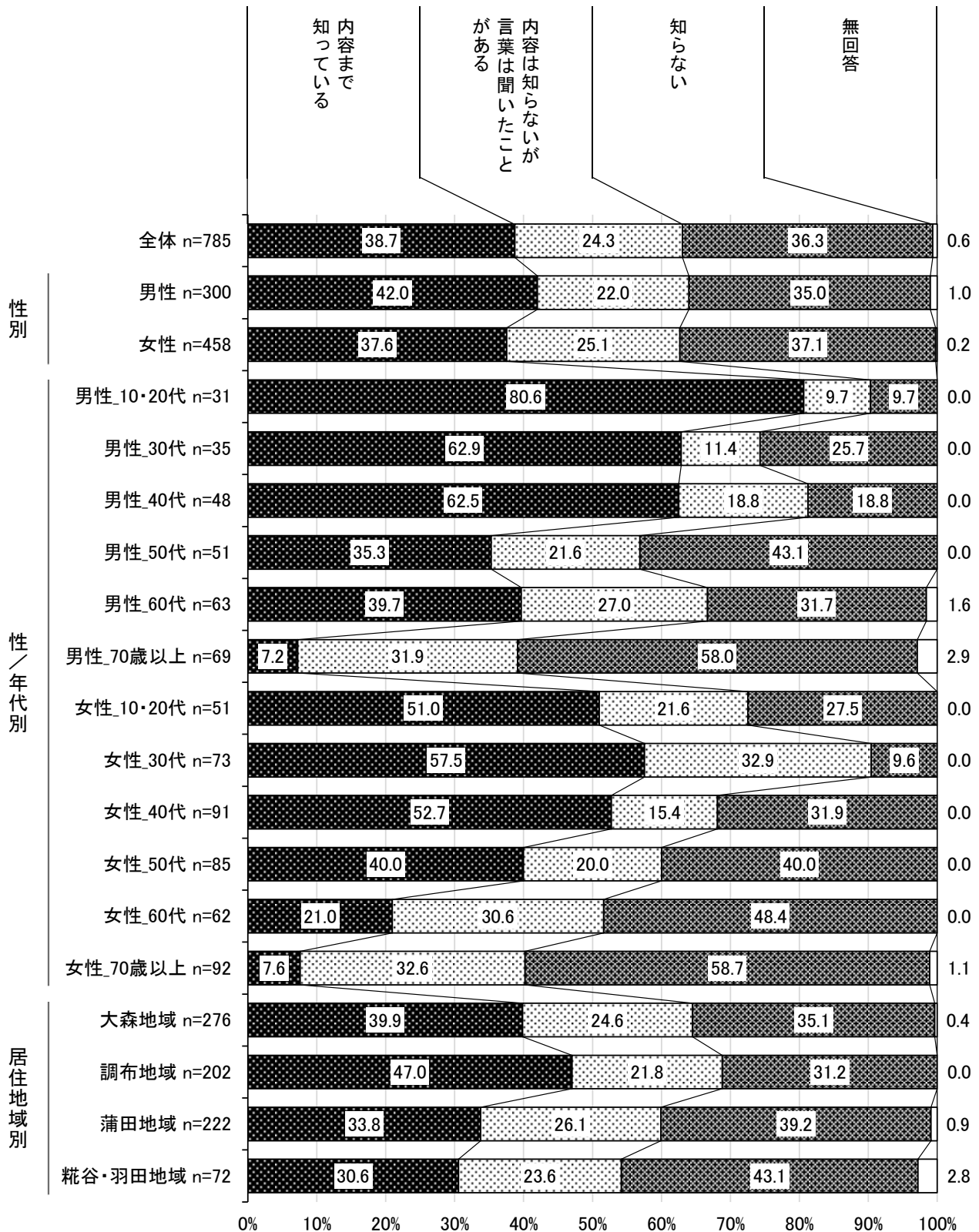


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、「内容まで知っている」は男性が42.0%、女性が37.6%と、男性が4.4ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「内容まで知っている」は男性では10・20代が約8割、30代、40代が6割台となっている。女性では10・20代から40代で5割台となっている。

居住地域別で見ると、「内容まで知っている」は調布地域で5割弱と高くなっている。



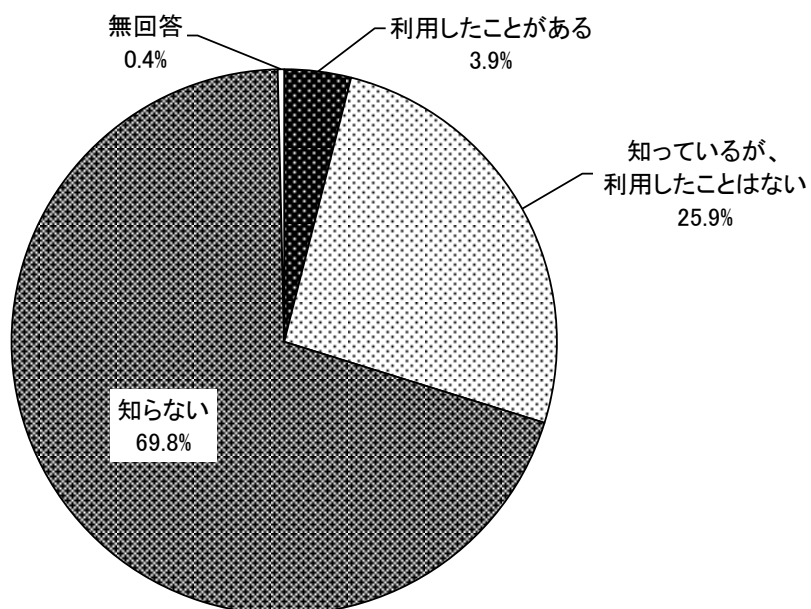
(2) 「エセナおおた」の認知度

◇ 《知っている》（「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値）は約3割となっている

問2 区では、男女共同参画社会の実現に向けた取組として様々な講座や展示などの事業を実施しています。これらを主に実施している施設である、男女平等推進センター「エセナおおた」を知っていますか。（1つのみ）

“エセナおおた”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》は29.8%である一方で、「知らない」が69.8%と、「知らない」が40.0ポイント上回っている。

全体 n=785

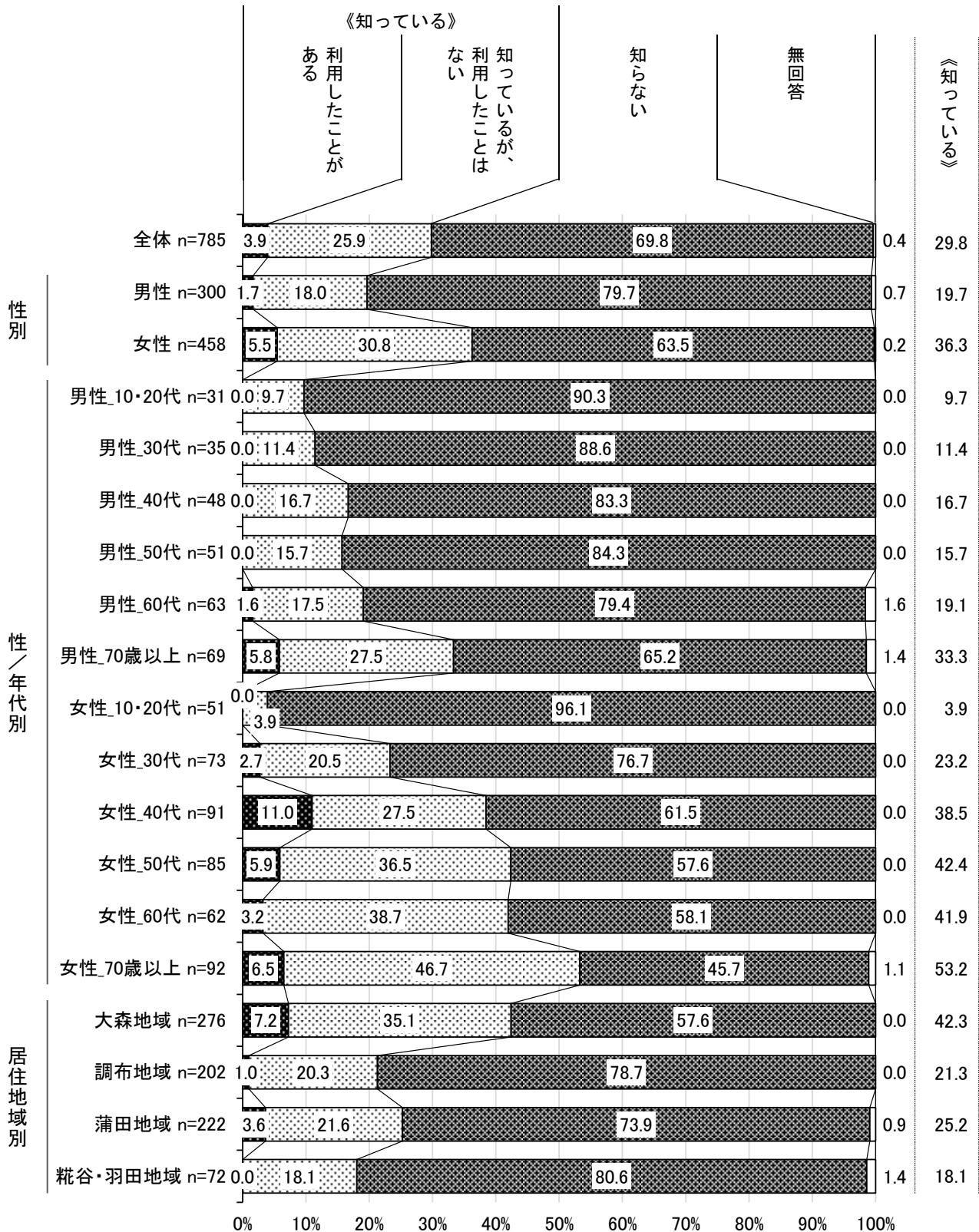


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が19.7%、女性が36.3%と、女性が16.6ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は年代が上がるにつれて増加傾向であり、男性70歳以上で3割前半、女性70歳以上で5割前半となっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域で4割前半と高くなっている。



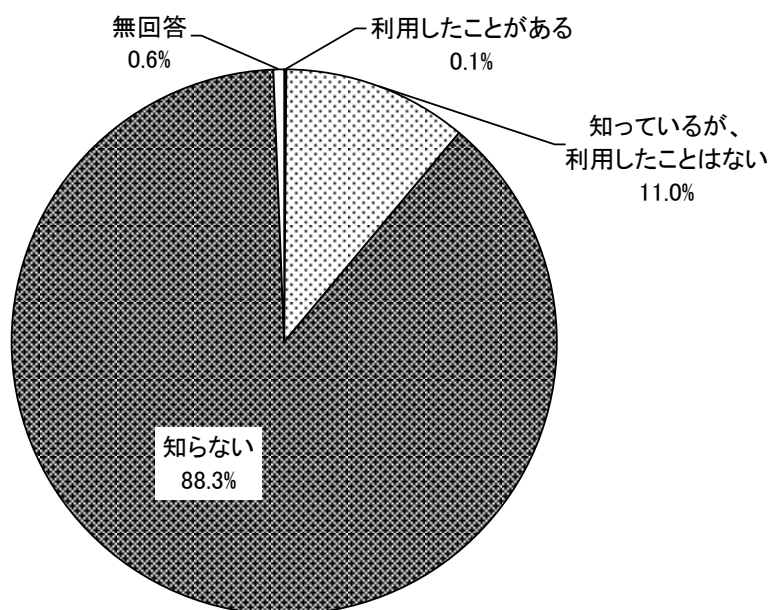
(3) 「女性のためのたんぽぽ相談」の認知度

◇ 《知っている》（「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値）は1割前半となっている

問3 男女平等推進センター「エセナおおた」では、「女性のためのたんぽぽ相談」で女性の様々な悩みに関する相談を受け付けていることを知っていますか。（1つのみ）

“女性のためのたんぽぽ相談”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》は11.1%である一方で、「知らない」が88.3%と、「知らない」が77.2ポイント上回っている。

全体 n=785

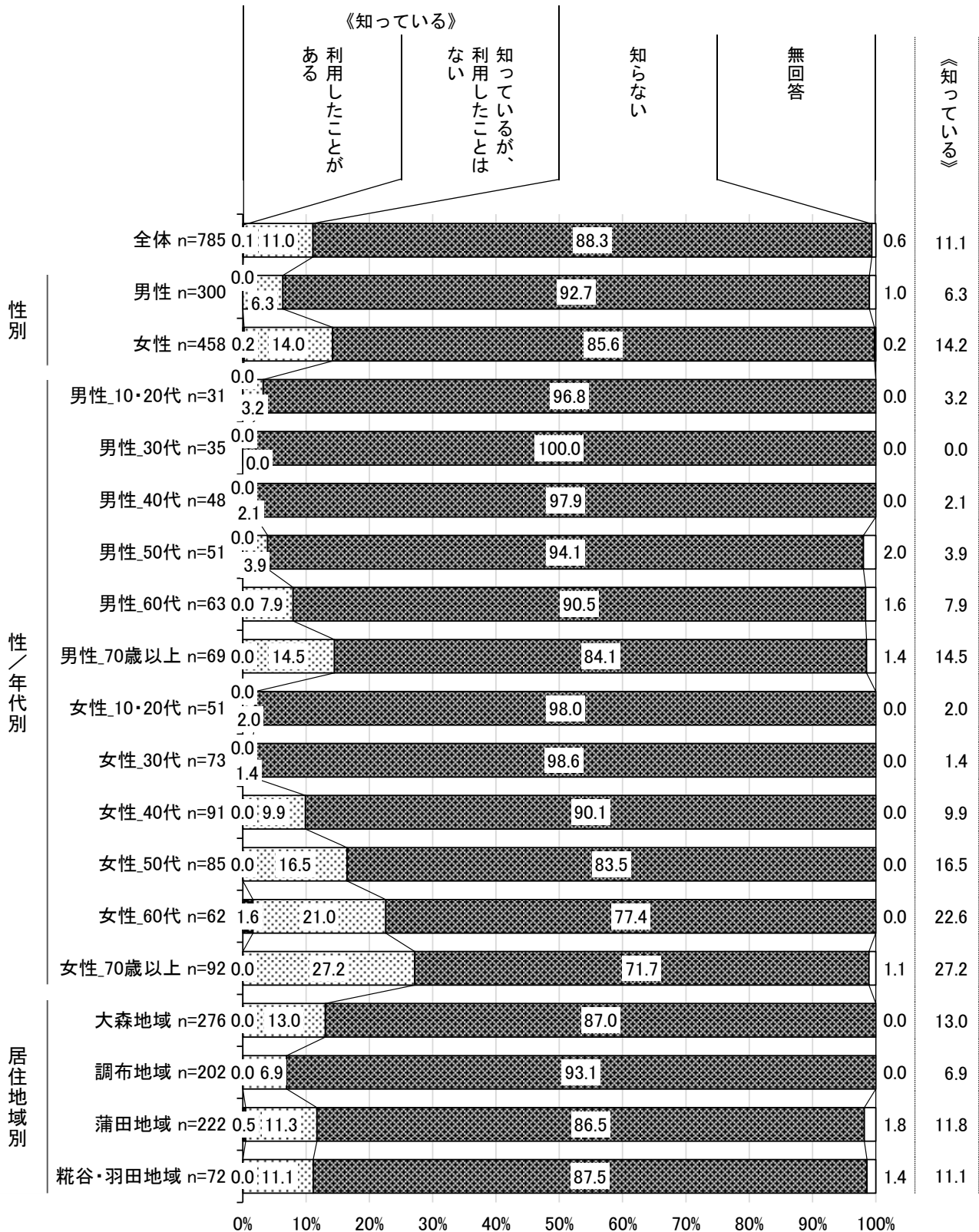


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が6.3%、女性が14.2%と、女性が7.9ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は年代が上がるにつれて増加傾向であり、男性70歳以上で1割半ば、女性70歳以上で3割弱となっている。

居住地域別でみると、《知っている》は大森地域、蒲田地域、糎谷・羽田地域で1割前半となっている。



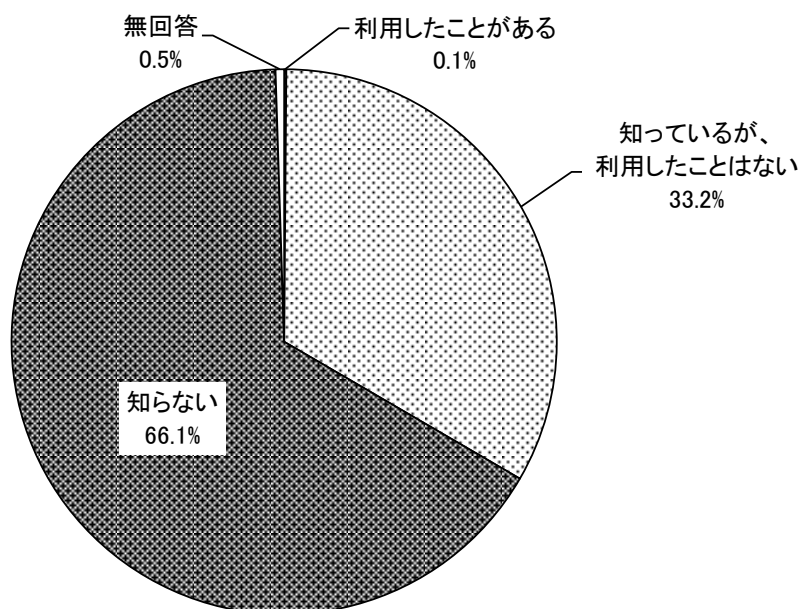
(4) 「大田区DV相談ダイヤル」の認知度

◇ 《知っている》（「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値）は3割前半となっている

問4 区では、「大田区DV相談ダイヤル」を設置し、配偶者やパートナーからの暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）に関する相談を受け付けていることを知っていますか。
(1つのみ)

“大田区DV相談ダイヤル”の認知度については、「利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の合計値《知っている》は33.3%である一方で、「知らない」が66.1%と、「知らない」が32.8ポイント上回っている。

全体 n=785

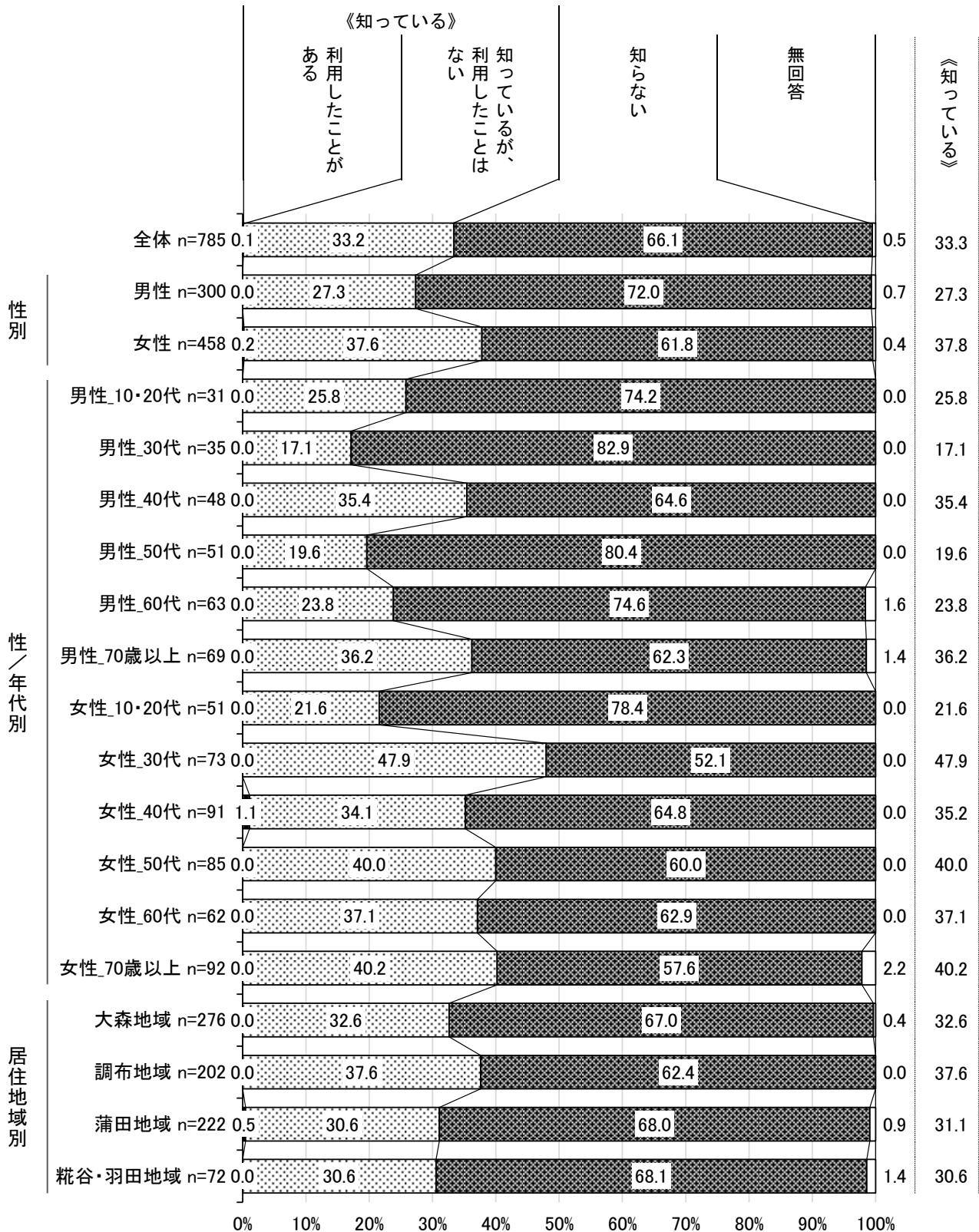


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が27.3%、女性が37.8%と、女性が10.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は男性40代、男性70歳以上で3割台、女性30代、女性50代、女性70歳以上で4割台となっている。

居住地域別でみると、《知っている》は調布地域で4割弱と高くなっている。



(5) 「成年後見制度」の認知度

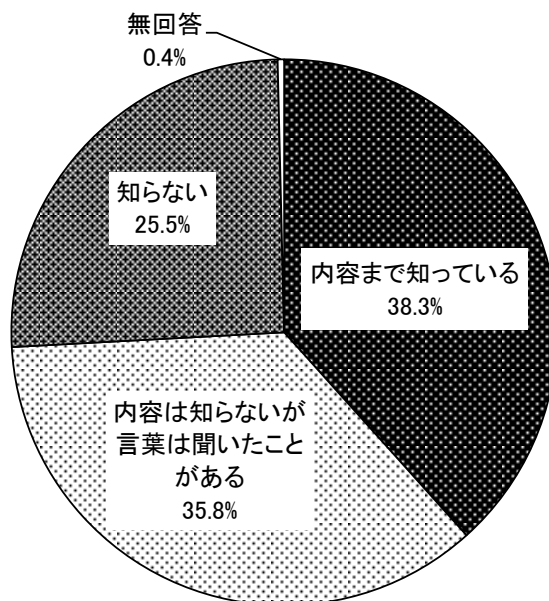
◇ 「内容まで知っている」は4割弱となっている

問5 「成年後見制度」を知っていますか。(1つのみ)

※認知症・知的障がい・精神障がいなどによって判断能力が不十分な方の支援者を選び、
法的に支援する制度。

“成年後見制度”の認知度については、「内容まで知っている」が38.3%で最も高く、次いで「内容は知らないが言葉は聞いたことがある」が35.8%、「知らない」が25.5%となっている。

全体 n=785

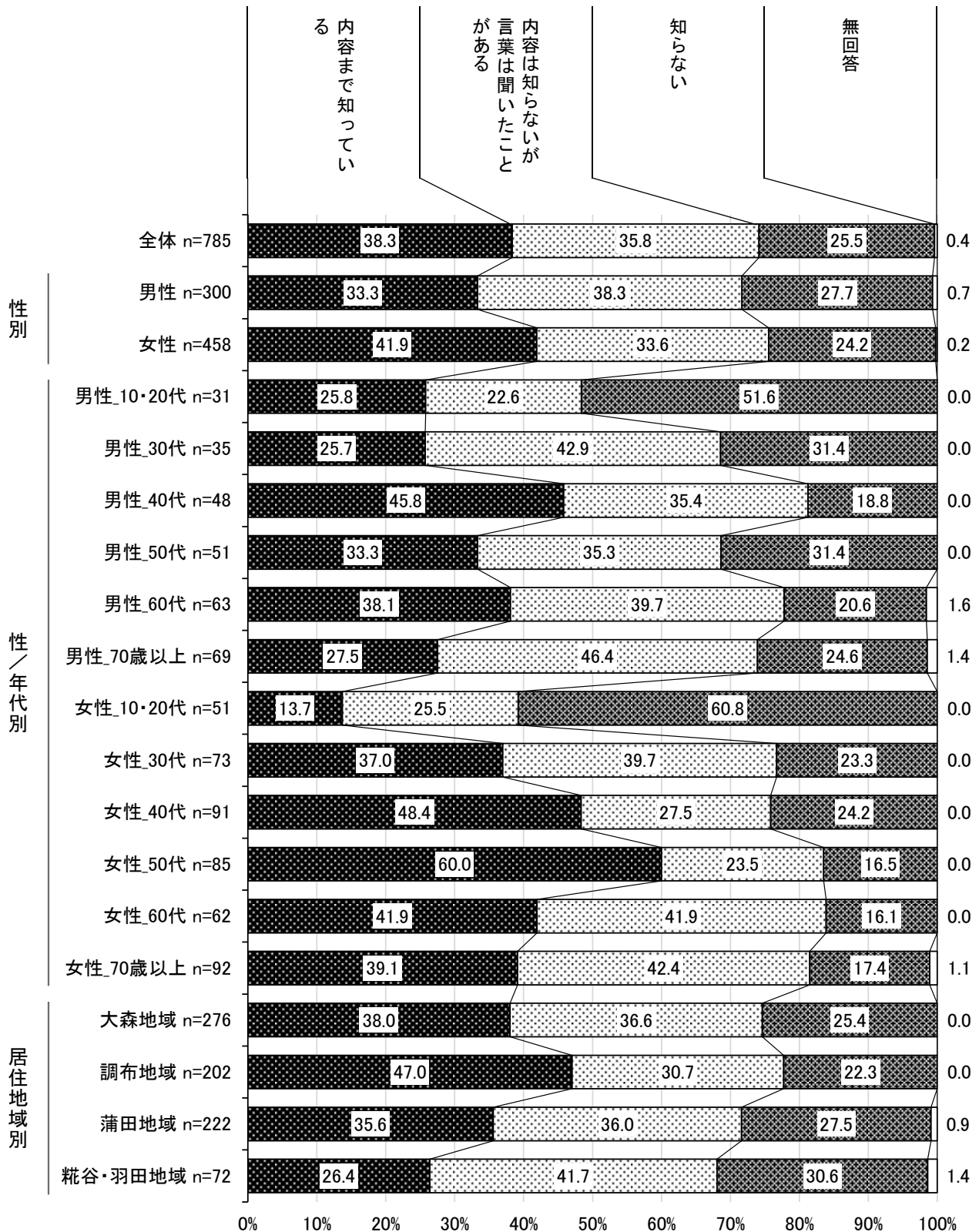


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「内容まで知っている」は男性が33.3%、女性が41.9%と、女性が8.6ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「内容まで知っている」は男性では40代で4割半ば、女性では50代で6割と高くなっている。

居住地域別でみると、「内容まで知っている」は調布地域で5割弱と高くなっている。



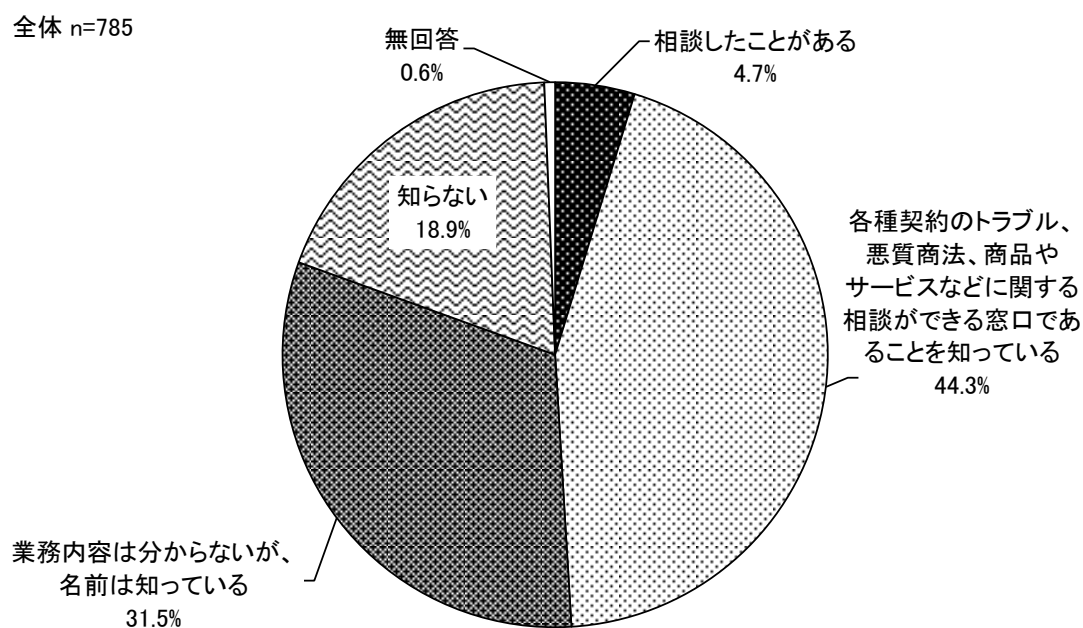
(6)「大田区立消費者生活センター」の認知度

◇「相談したことがある」は1割未満となっている

問6 大田区立消費者生活センターを知っていますか。(1つのみ)

“大田区立消費者生活センター”の認知度については、「各種契約のトラブル、悪質商法、商品やサービスなどに関する相談ができる窓口であることを知っている」が44.3%で最も高く、次いで「業務内容は分からないが、名前は知っている」が31.5%、「知らない」が18.9%となっている。

なお、「相談したことがある」は4.7%となっている。

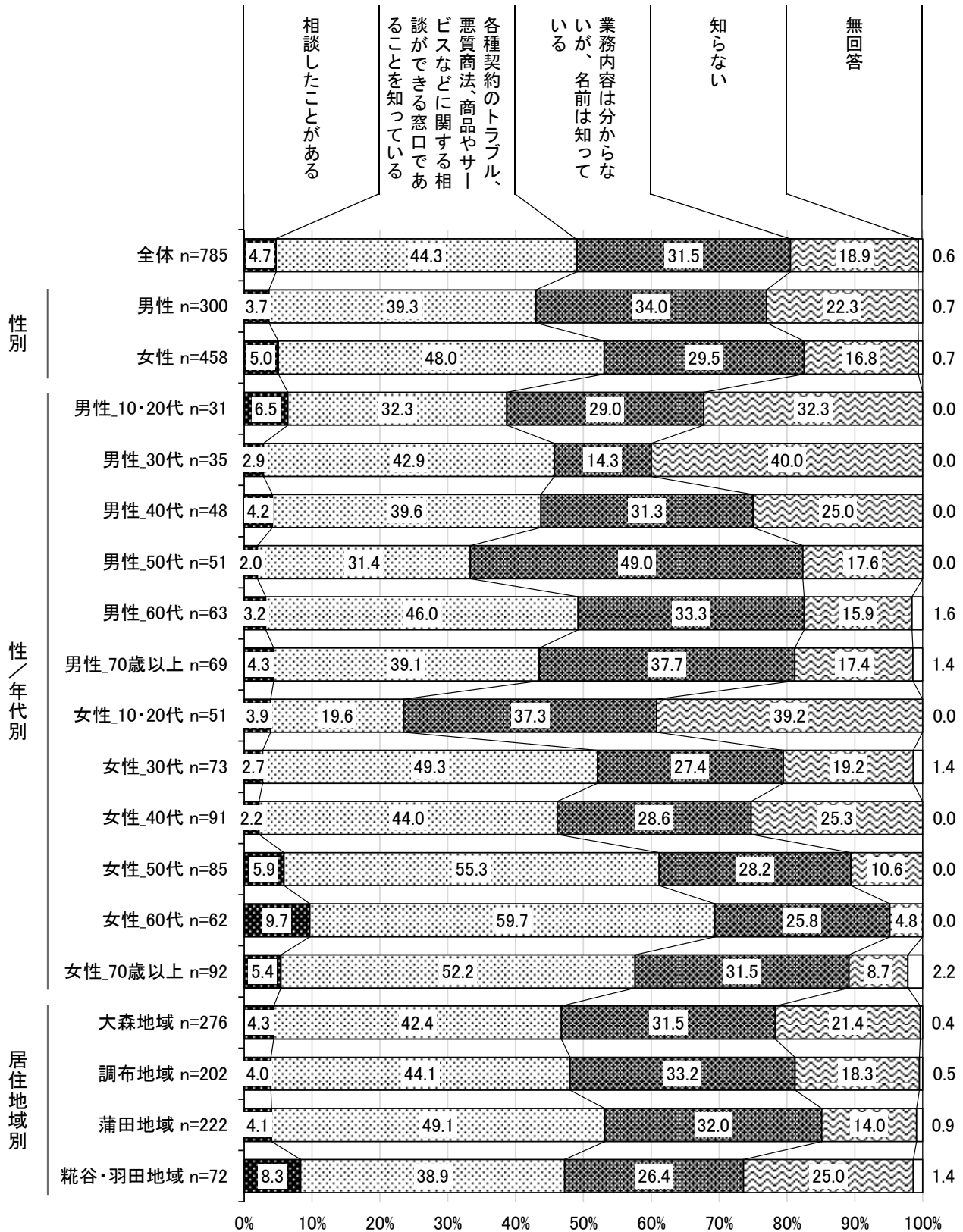


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「相談したことがある」に大きな差はみられないものの、「知らない」では男性が22.3%、女性が16.8%と、男性が5.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「相談したことがある」は女性60代で約1割と高くなっている。

居住地域別でみると、「相談したことがある」は糞谷・羽田地域で1割弱と高くなっている。



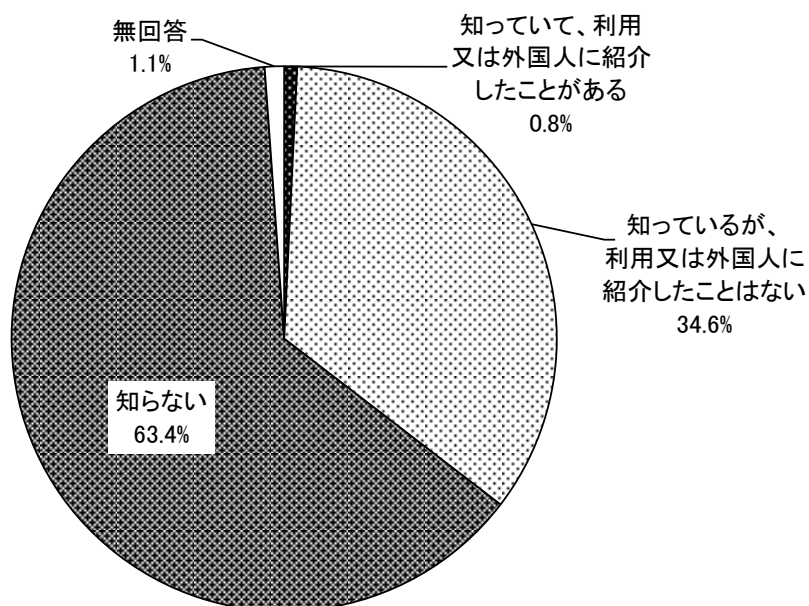
(7) 外国語で生活相談ができる「多言語相談窓口」の認知度

◇「知っている、利用又は外国人に紹介したことがある」は1%未満となっている

問7 大田区に住む外国人向けに、外国語で生活相談ができる窓口（多言語相談窓口）があることを知っていますか。（1つのみ）

外国語で生活相談ができる“多言語相談窓口”の認知度については、「知らない」が63.4%で最も高く、次いで「知っているが、利用又は外国人に紹介したことはない」が34.6%、「知っている、利用又は外国人に紹介したことがある」が0.8%となっている。

全体 n=785

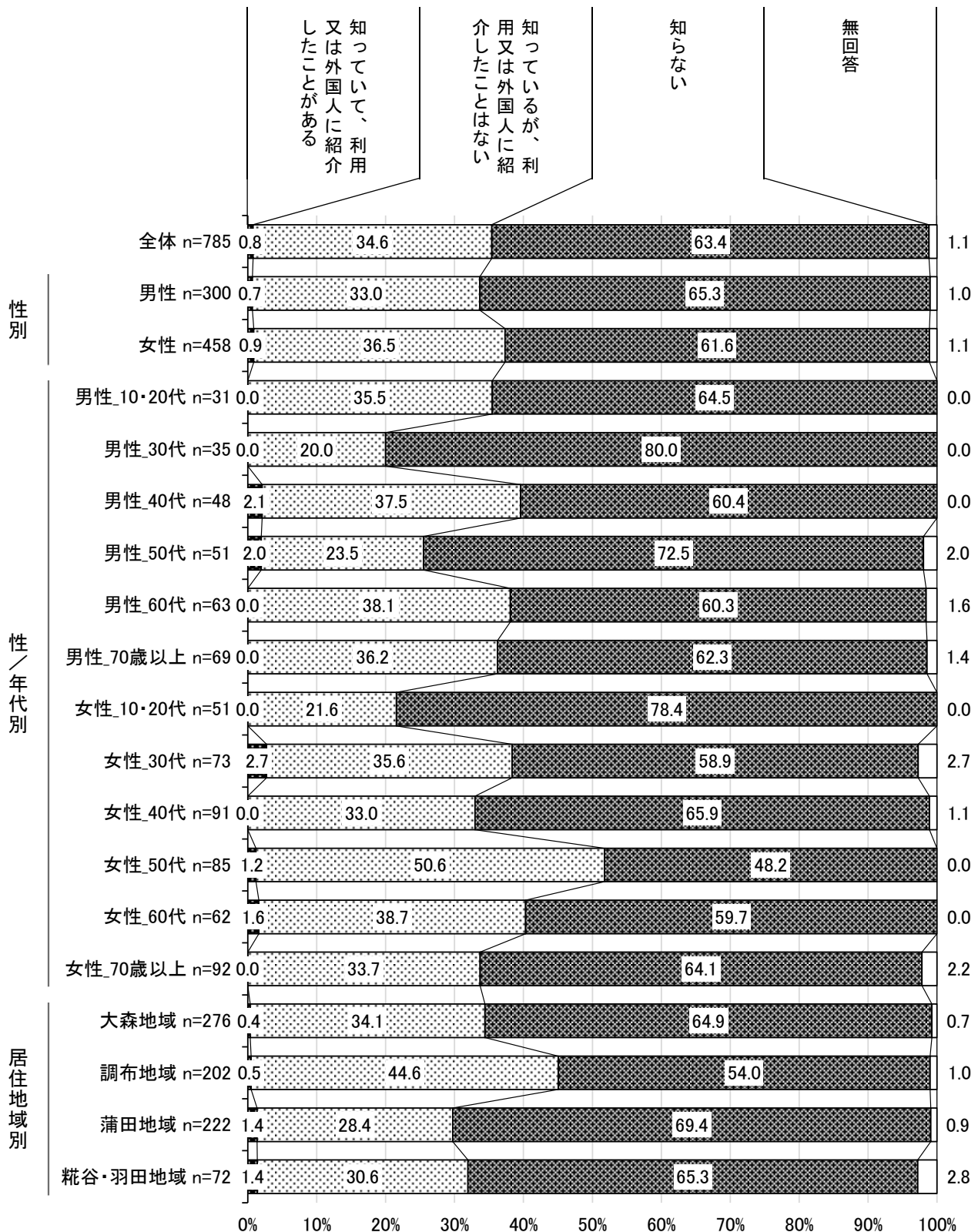


■性別・性／年代別・居住地域別

性別で見ると、男性、女性ともに「知っていて、利用又は外国人に紹介したことがある」は1%未満に留まり、「知らない」がそれぞれ6割台となっている。

性／年代別で見ると、「知っていて、利用又は外国人に紹介したことがある」はすべての性／年代で3%未満に留まり、「知らない」は男性30代、女性10・20代で約8割と高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「知っていて、利用又は外国人に紹介したことがある」は2%未満に留まり、「知らない」は蒲田地域で約7割と高くなっている。



(8) 「ヘルプカード」の認知度

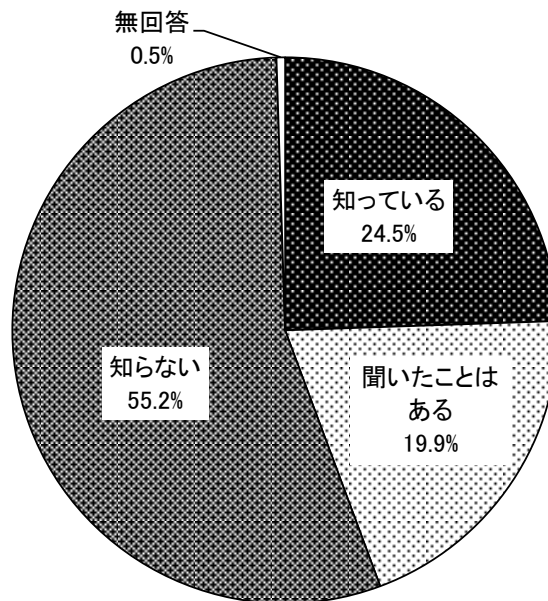
◇「知っている」は2割半ばとなっている

問8 「ヘルプカード（たすけてねカード）」を知っていますか。（1つのみ）

※障がいのある方などが災害時や日常の外出先での緊急時に手助けを求めるためのカード（大田区が作成）。

“ヘルプカード”の認知度については、「知らない」が55.2%で最も高く、次いで「知っている」が24.5%、「聞いたことはある」が19.9%となっている。

全体 n=785

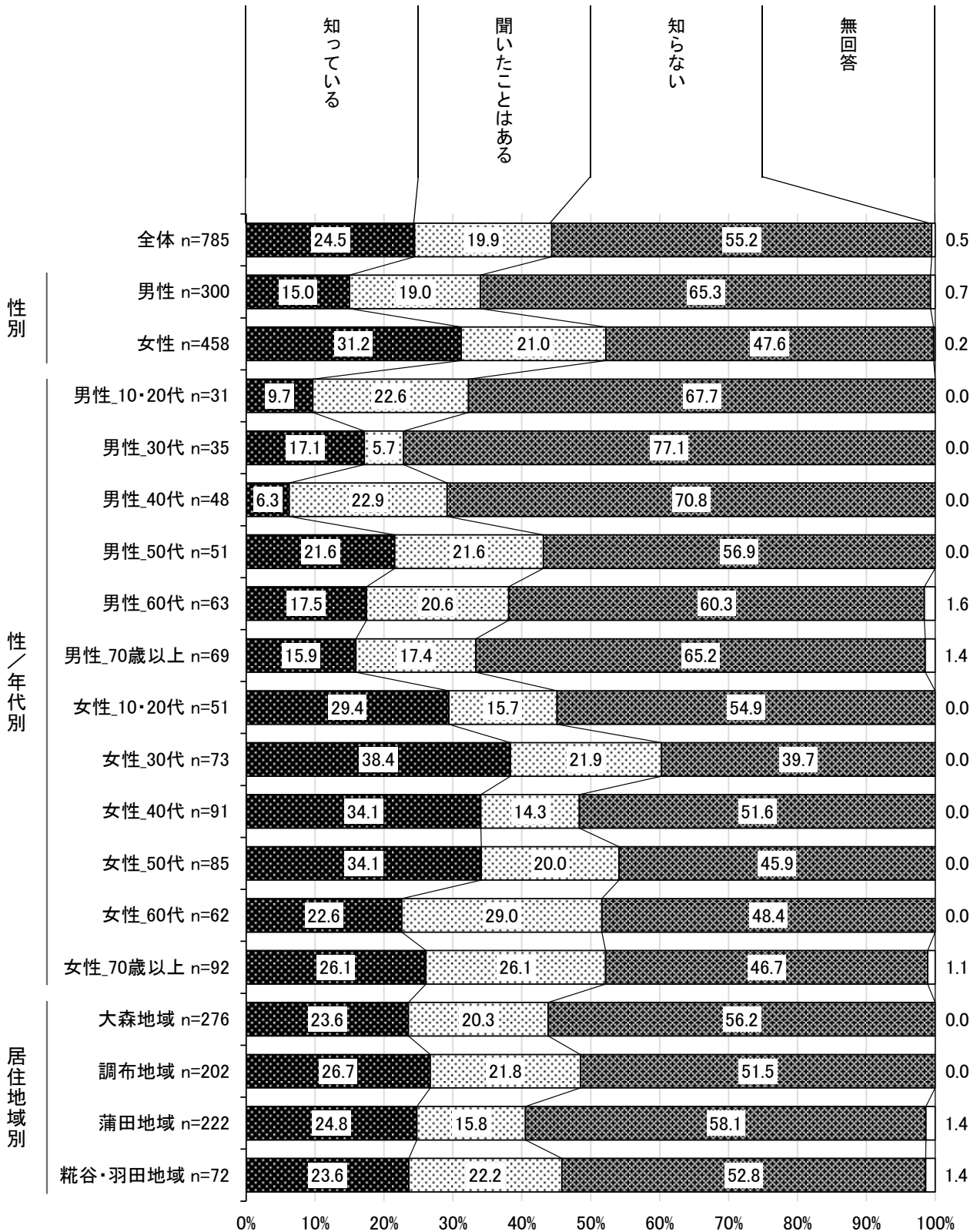


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「知っている」は男性が15.0%、女性が31.2%と、女性が16.2ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っている」は男性では50代で2割前半、女性では30代で4割弱と高くなっている。

居住地域別でみると、「知っている」は調布地域で3割弱と高くなっている。



(9) 「障害者差別解消法」の認知度

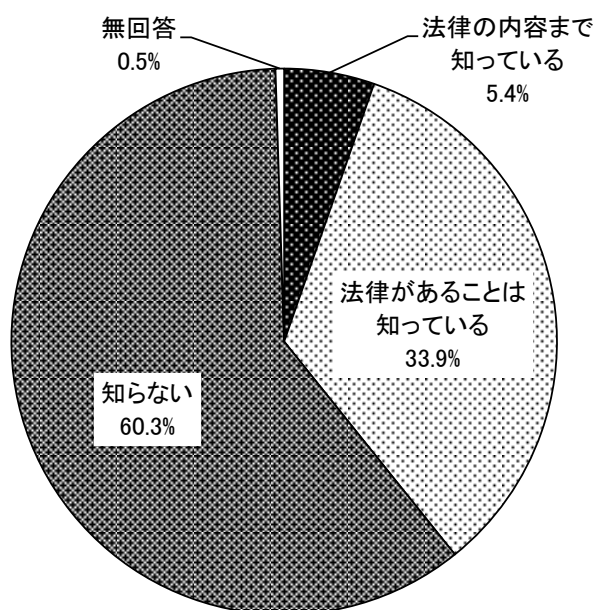
◇「法律の内容まで知っている」は1割未満となっている

問9 「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」を知っていますか。
（1つのみ）

※障がいのある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながらともに生きる社会づくりを目指して、平成28年4月に施行、令和3年5月に改正された法律。

“障害者差別解消法”の認知度については、「知らない」が60.3%で最も高く、次いで「法律があることは知っている」が33.9%、「法律の内容まで知っている」が5.4%となっている。

全体 n=785

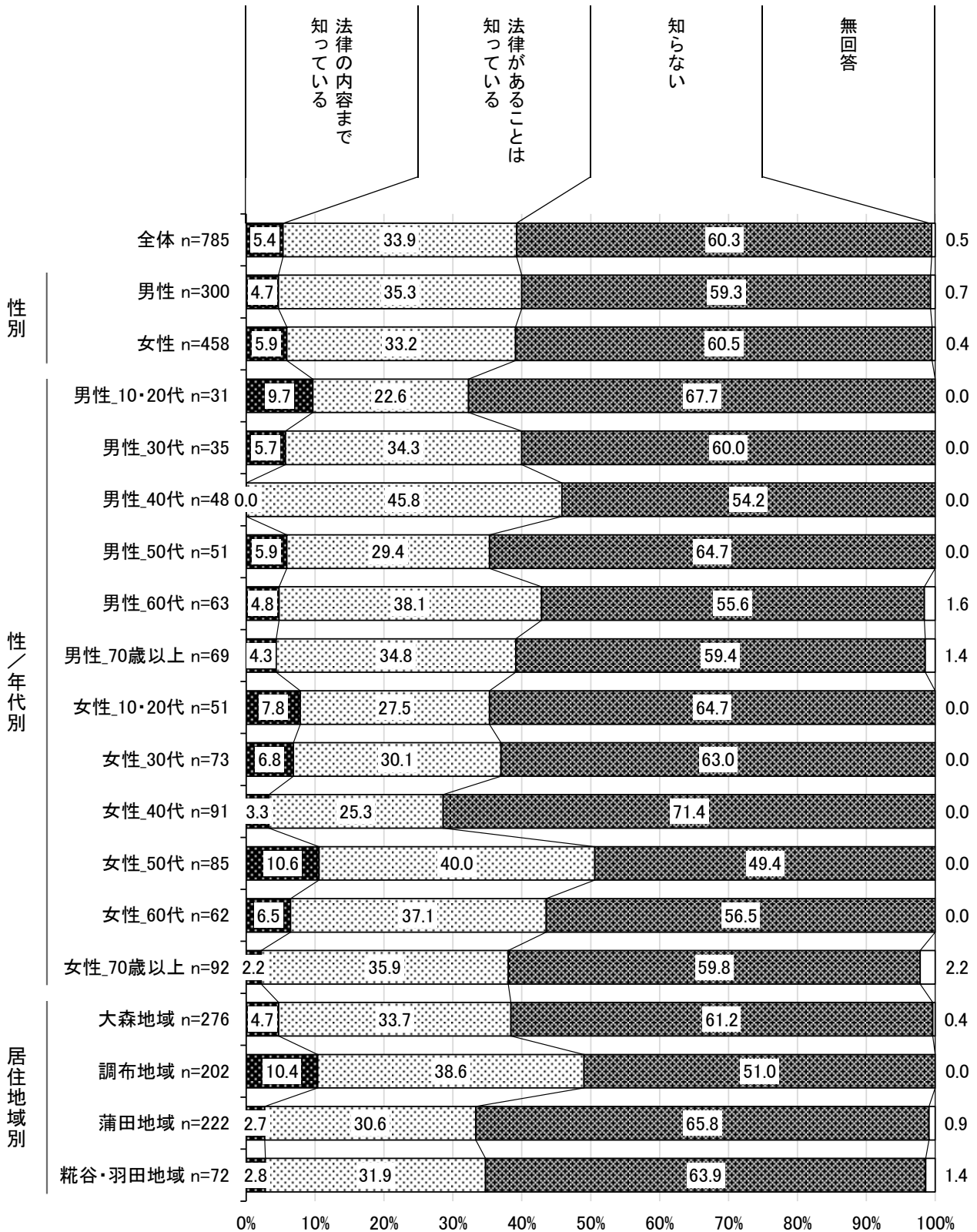


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「法律の内容まで知っている」は男性では10・20代で約1割、女性では50代で約1割と高くなっている。

居住地域別でみると、「法律の内容まで知っている」は調布地域で約1割と高くなっている。



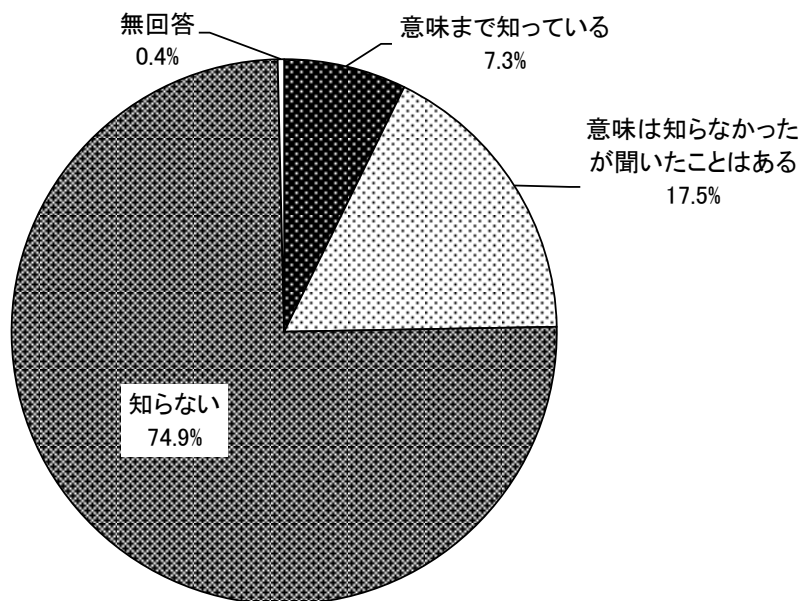
(10) 「社会的包摂」の認知度

◇「意味まで知っている」は1割未満となっている

**問 10 大田区では、子どもたちを誰ひとり取り残さない社会の実現に向けて、社会的に包み込むような支援「社会的包摂」(ソーシャル・インクルージョン)に取り組んでいます。
「社会的包摂」という言葉を知っていますか。(1つのみ)**

“社会的包摂”の認知度については、「知らない」が74.9%で最も高く、次いで「意味は知らなかったが聞いたことはある」が17.5%、「意味まで知っている」が7.3%となっている。

全体 n=785

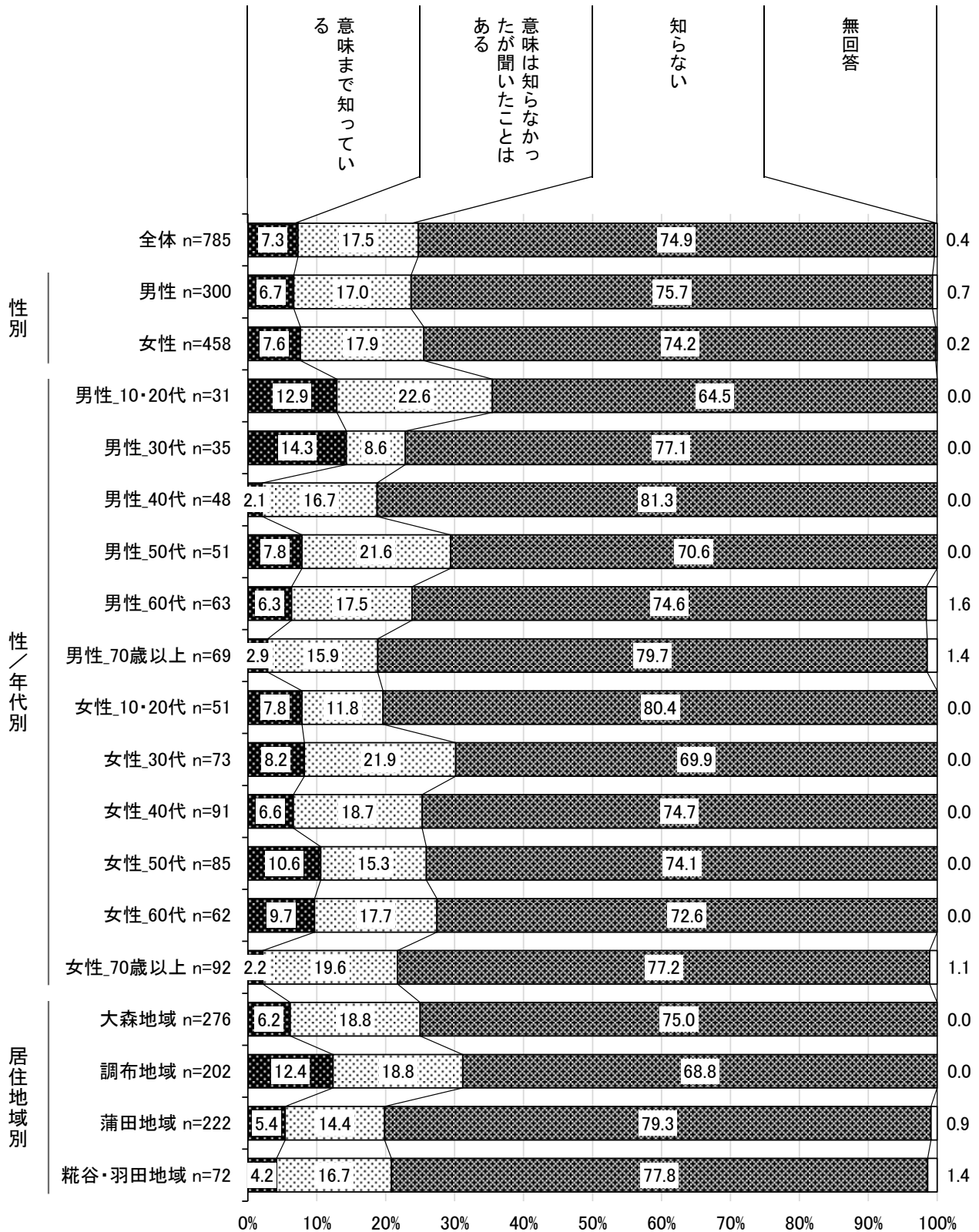


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「意味まで知っている」は男性では30代で1割半ば、女性では50代、60代で約1割と高くなっている。

居住地域別でみると、「意味まで知っている」は調布地域で1割前半と高くなっている。



3 生涯学習について

(1) 最近1年間の生涯学習の活動及び今後行いたい活動

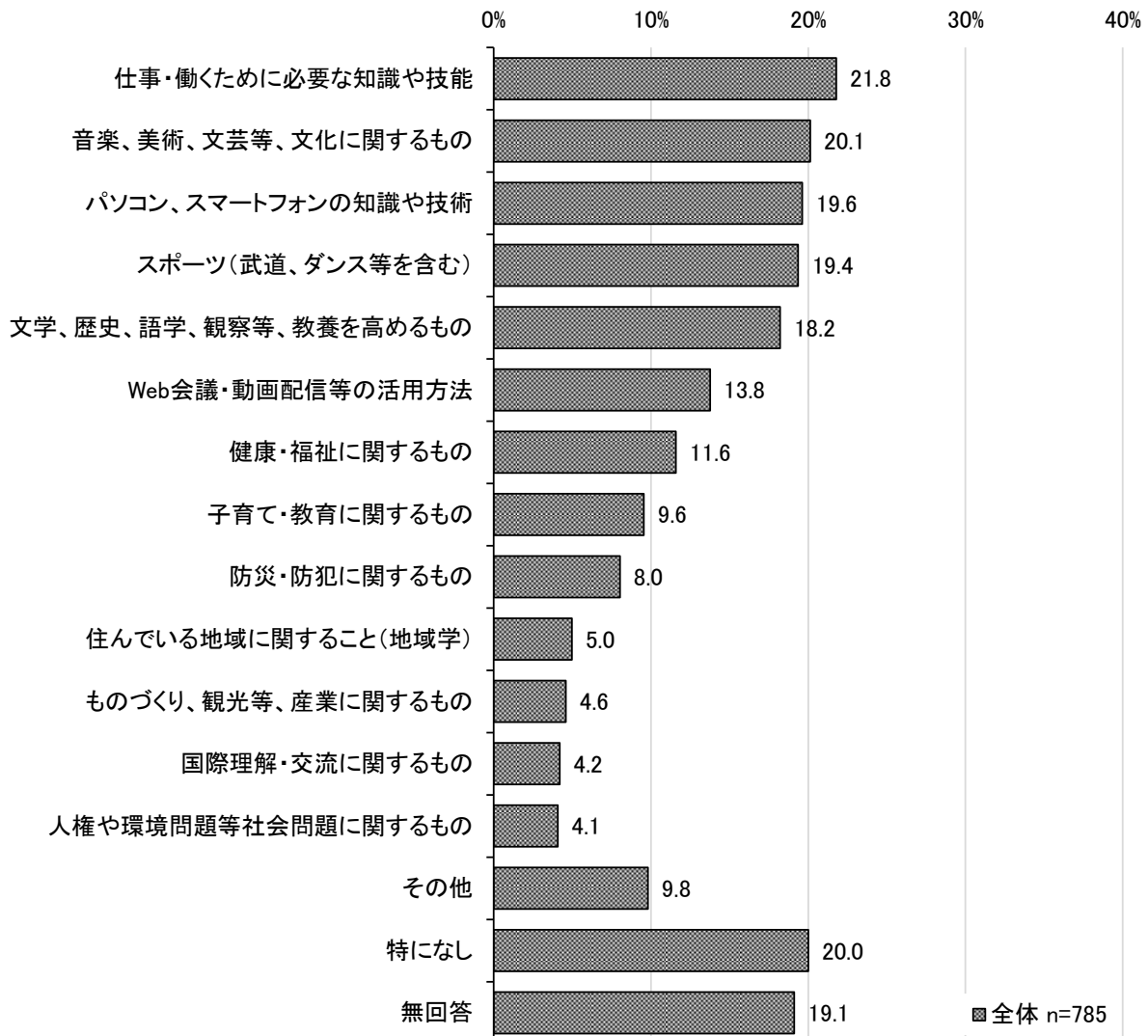
- ◇最近1年間で行った活動：「仕事・働くために必要な知識や技能」、「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が2割台となっている
- ◇今後行いたい活動：「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」、「文学、歴史、語学、観察等、教養を高めるもの」が3割台となっている

問 11 あなたは、最近1年間にどのような生涯学習を行いましたか。また、今後行いたい生涯学習はありますか。

※①「最近1年間で行ったこと」、②「今後行いたいこと」のそれぞれに回答してください。
(それぞれいくつでも)

■最近1年間で行った活動

最近1年間で行った活動については、「仕事・働くために必要な知識や技能」が21.8%で最も高く、次いで「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が20.1%、「パソコン、スマートフォンの知識や技術」が19.6%となっている。

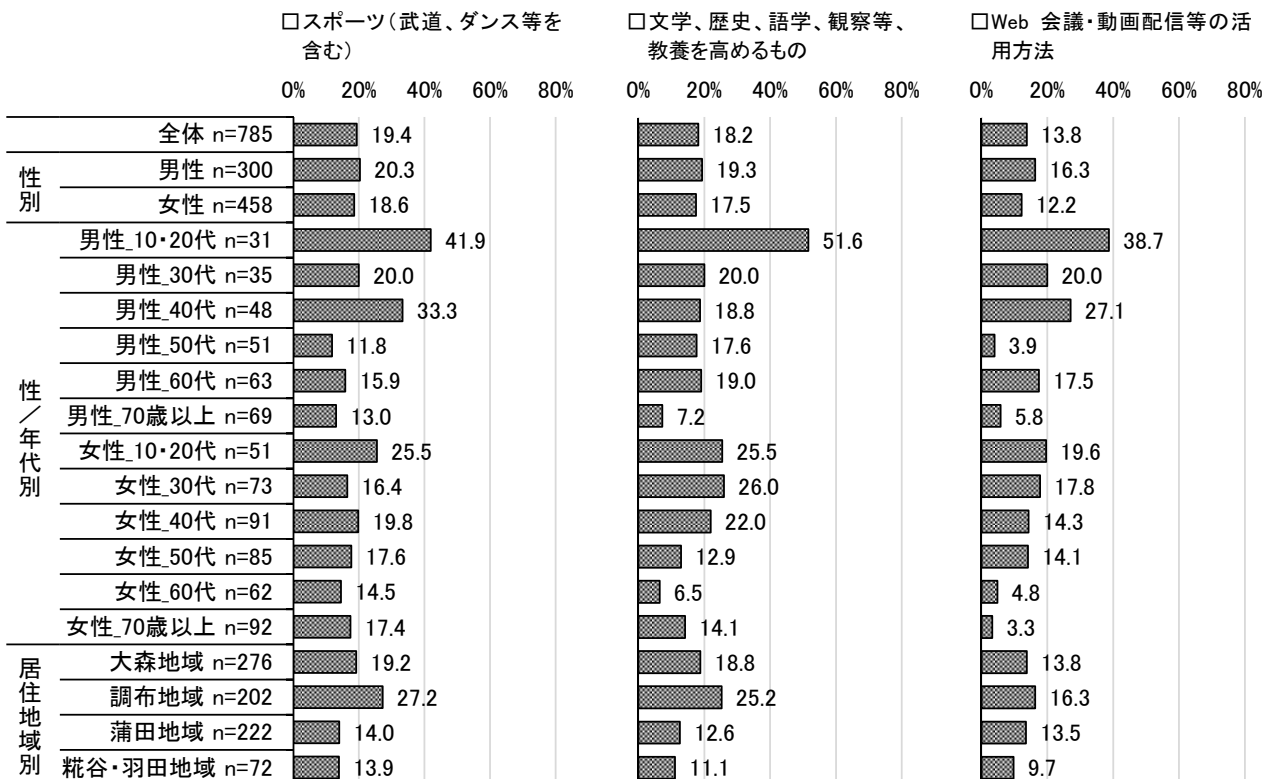
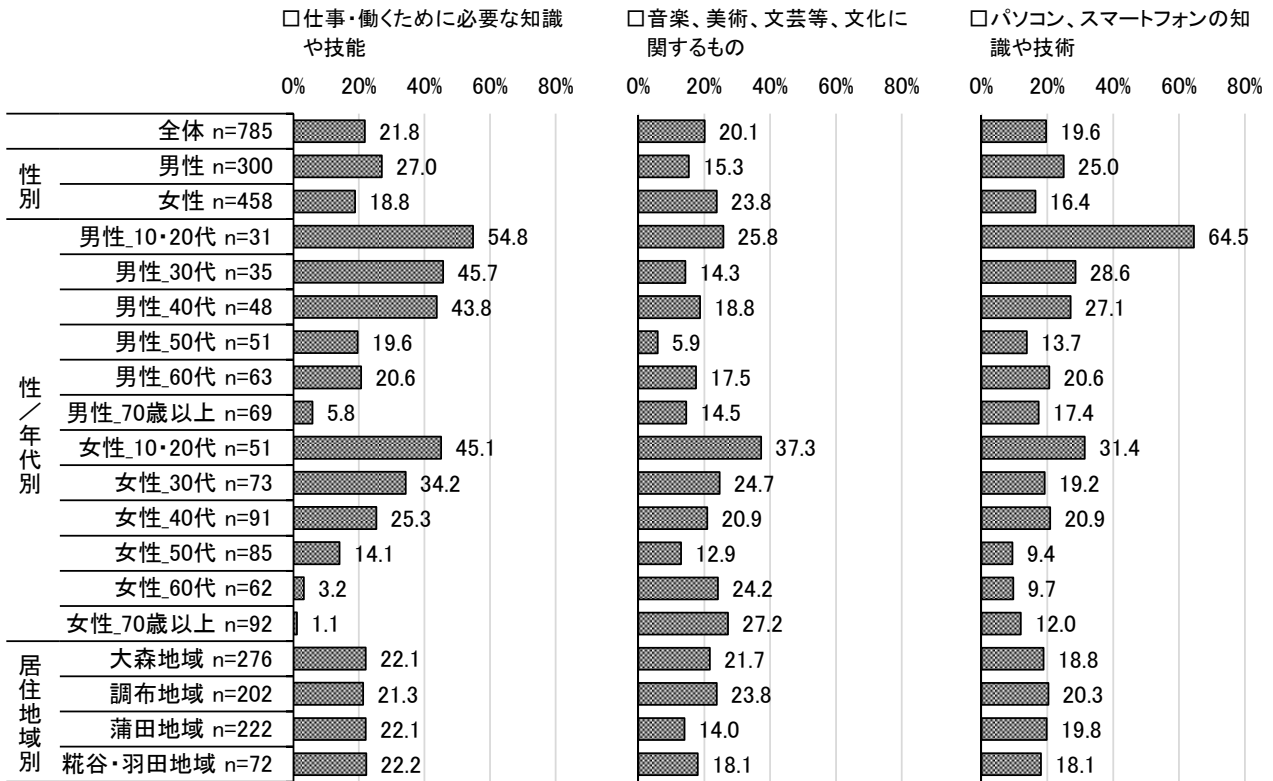


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、「仕事・働くために必要な知識や技能」は男性が27.0%、女性が18.8%と、男性が8.2ポイント上回っている。

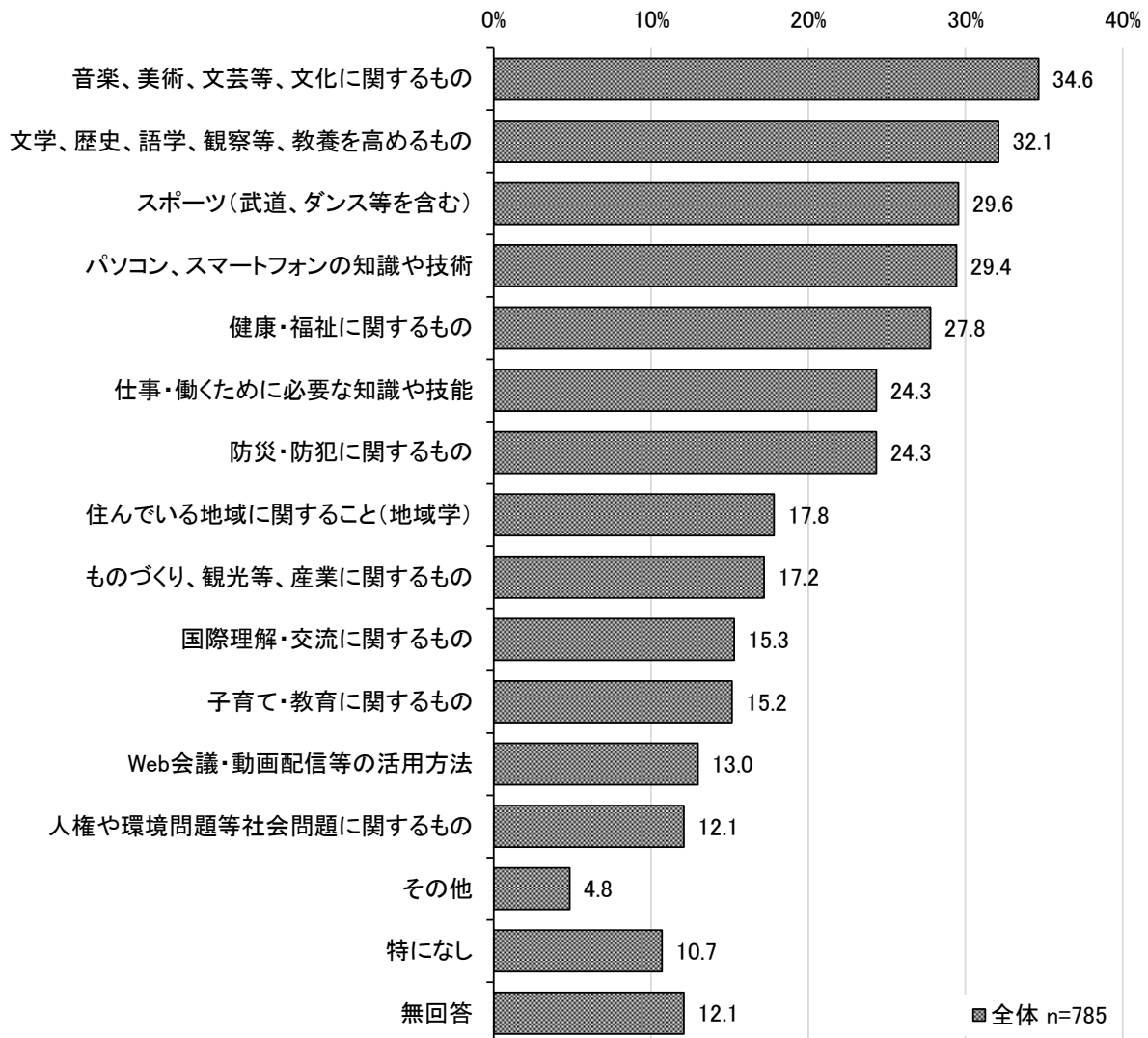
性／年代別でみると、「仕事・働くために必要な知識や技能」は男性、女性ともに年代が上がるにつれて減少傾向であり、男性10・20代で5割半ば、女性10・20代で4割半ばとなっている。

居住地域別でみると、「スポーツ（武道、ダンス等を含む）」は調布地域で3割弱と高くなっている。

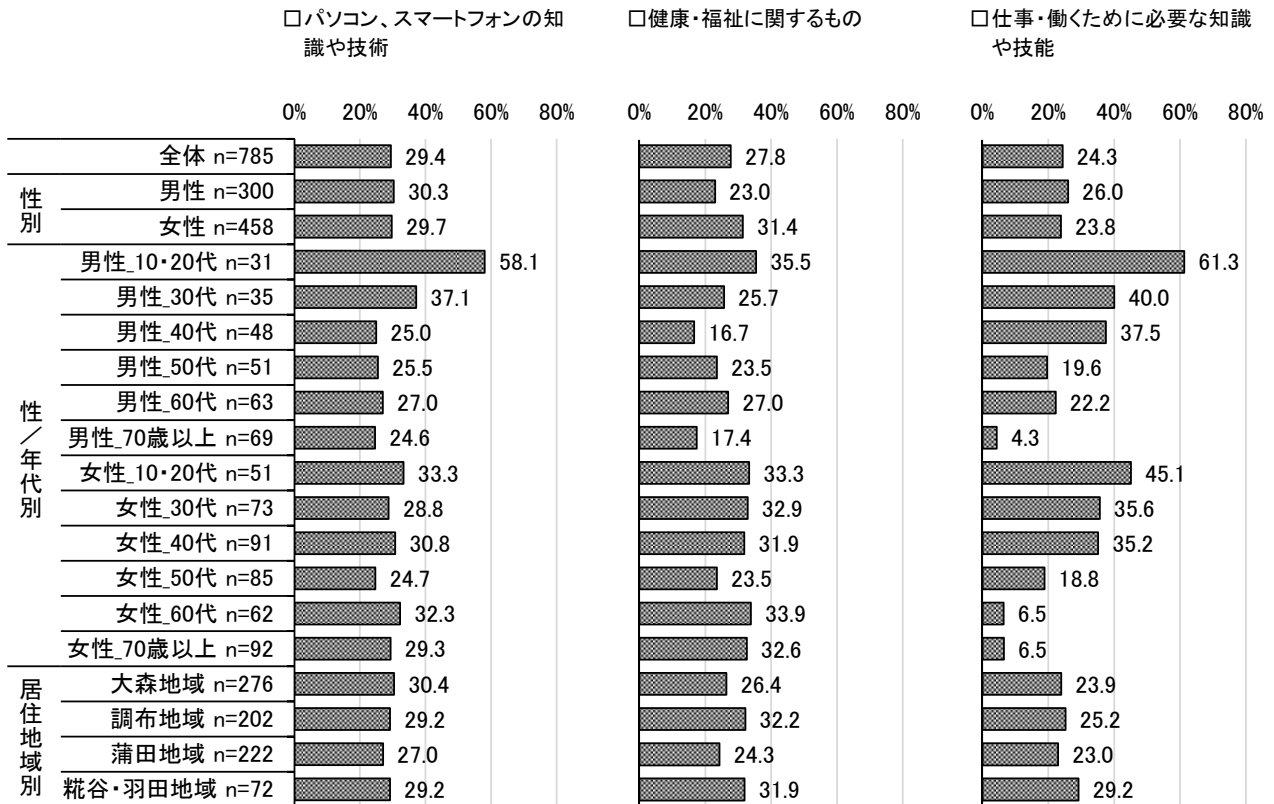
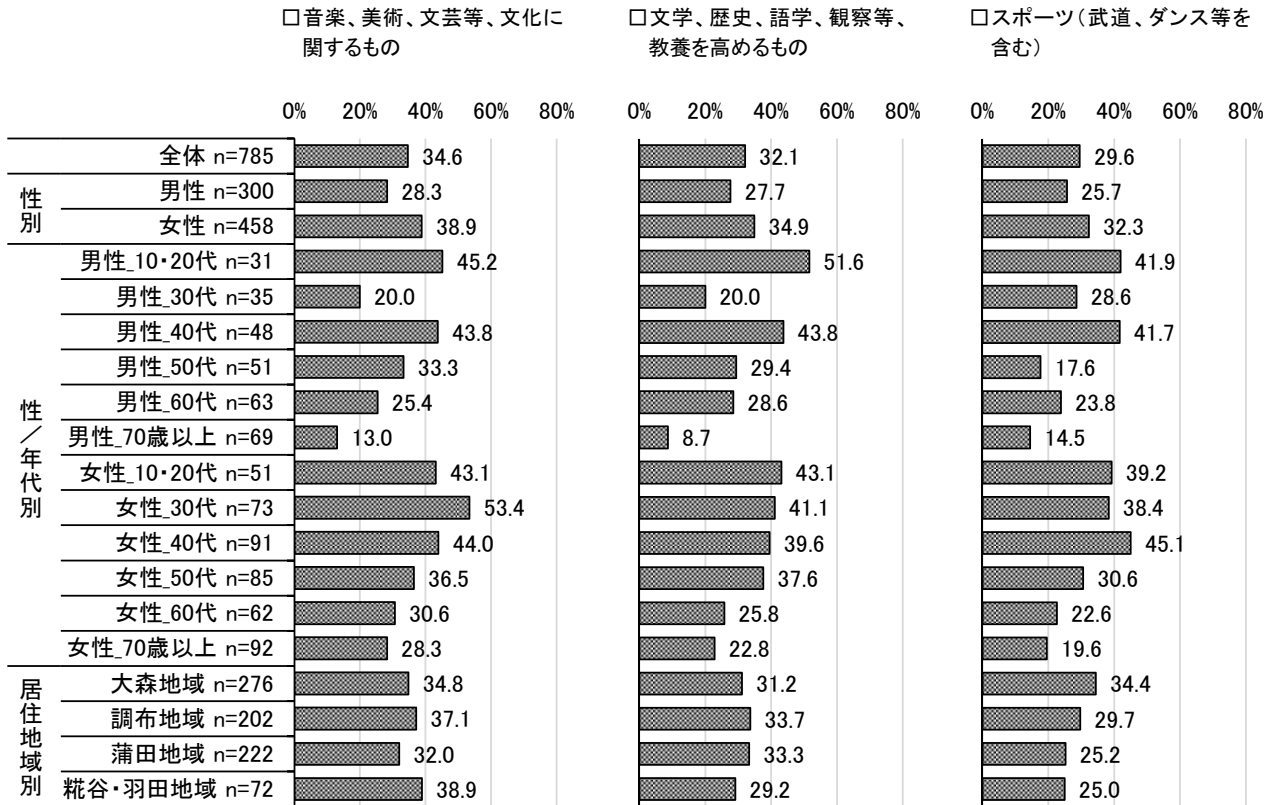


■ 今後行いたい活動

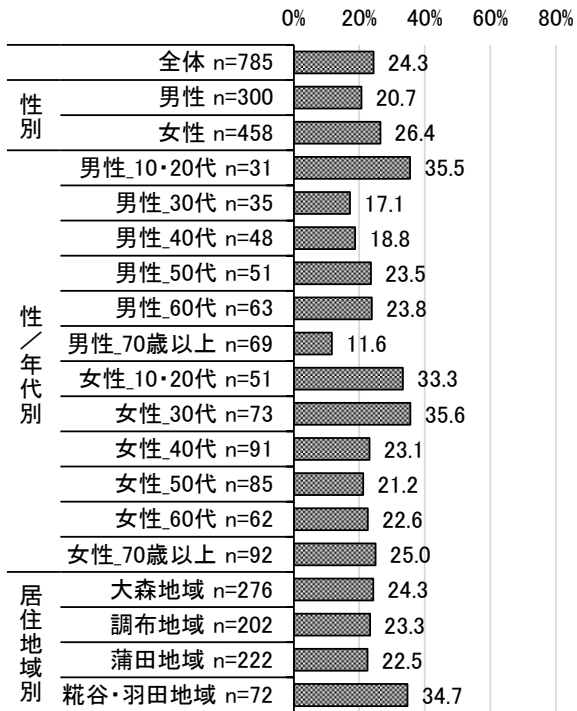
今後行いたい活動については、「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が34.6%で最も高く、次いで「文学、歴史、語学、観察等、教養を高めるもの」が32.1%、「スポーツ（武道、ダンス等を含む）」が29.6%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



□防災・防犯に関するもの



性別でみると、男性では「パソコン、スマートフォンの知識や技術」が最も高く、女性では「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」は女性 30代で5割前半と高くなっている。男性 10・20代では「パソコン、スマートフォンの知識や技術」が6割弱、「仕事・働くために必要な知識や技能」が6割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域、調布地域、糀谷・羽田地域では「音楽、美術、文芸等、文化に関するもの」が、蒲田地域では「文学、歴史、語学、観察等、教養を高めるもの」が最も高くなっている。

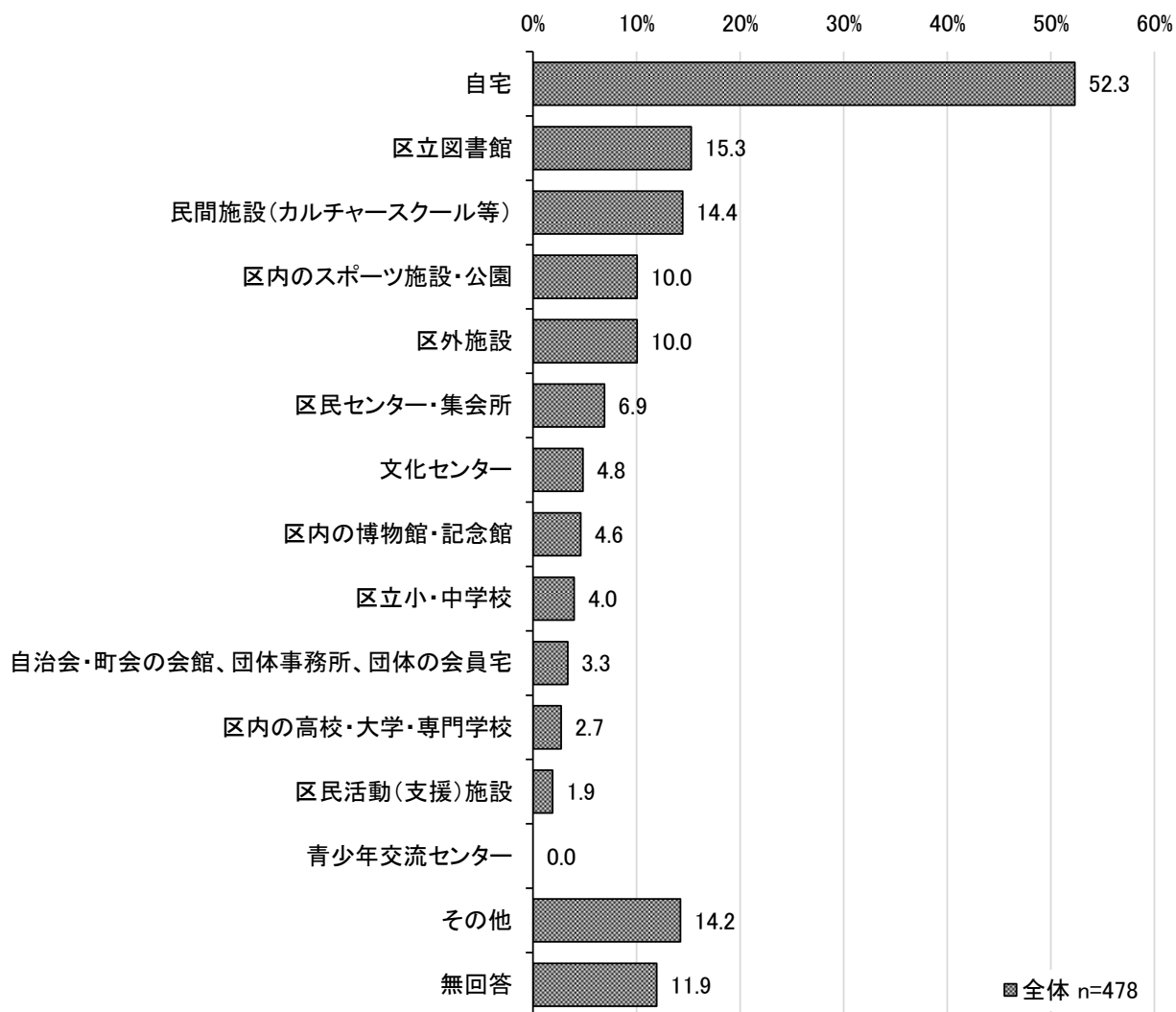
(2) 生涯学習の活動場所

◇「自宅」が5割前半で最も高くなっている

【問 11 の①で「1」～「14」のいずれかに回答した方に伺います。】

問 11-1 あなたは生涯学習をどこで行いましたか。(いくつでも)

生涯学習の活動場所については、「自宅」が52.3%で最も高く、次いで「区立図書館」が15.3%、「民間施設（カルチャースクール等）」が14.4%となっている。

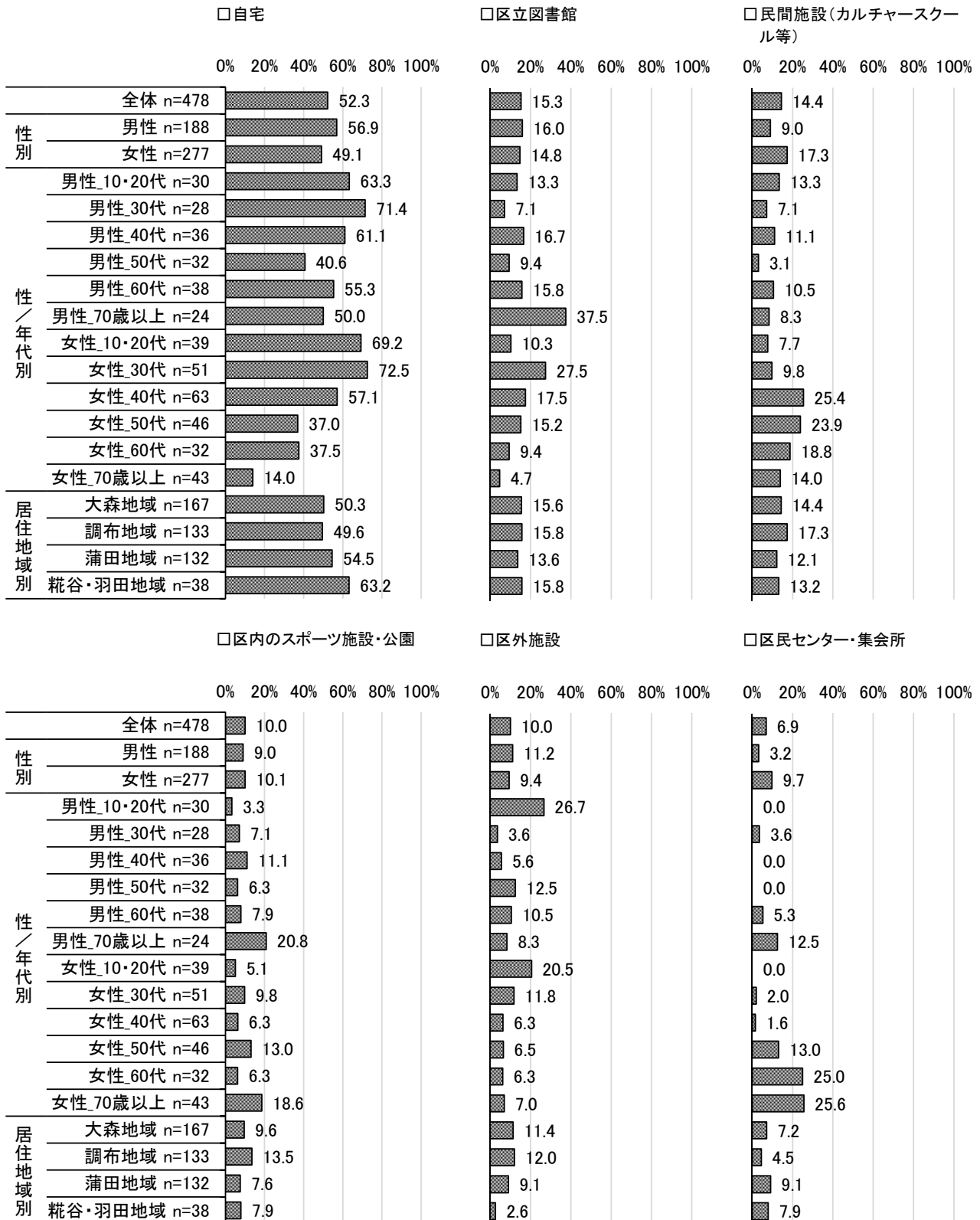


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、「自宅」は男性が56.9%、女性が49.1%と、男性が7.8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「自宅」は男性30代、女性30代で7割台となっている。「区立図書館」は男性70歳以上で4割弱と高くなっている。「区民センター・集会所」は女性60代、女性70歳以上で2割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「自宅」が最も高く、糞谷・羽田地域で6割前半となっている。



(3) 生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしていること

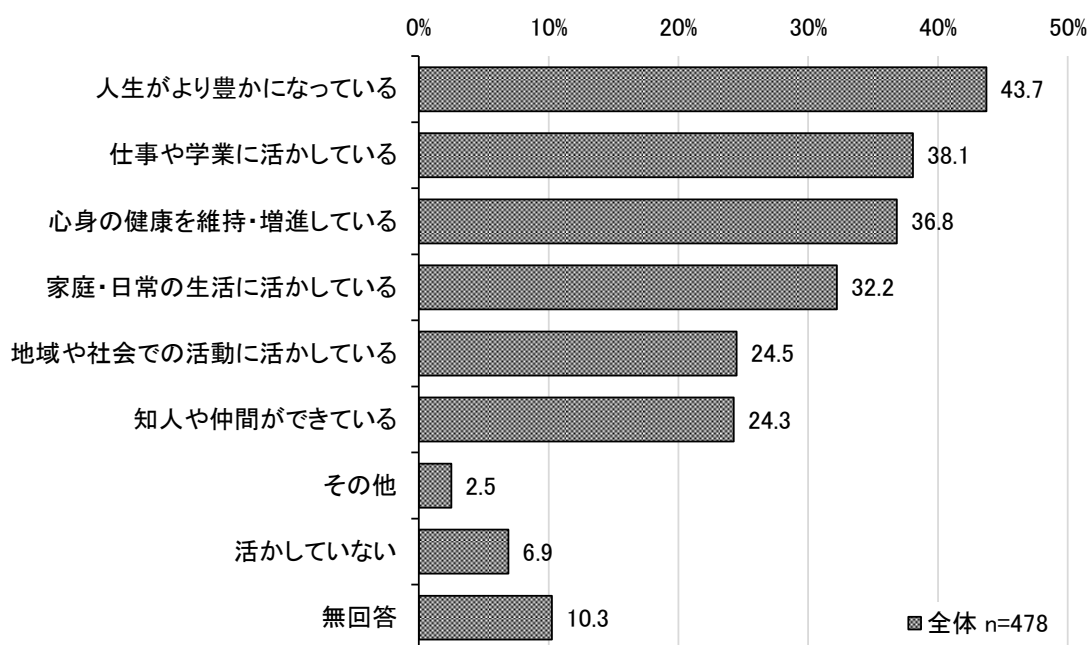
◇「人生がより豊かになっている」が4割前半で最も高くなっている

【問 11 の①で「1」～「14」のいずれかに回答した方に伺います。】

問 11-2 あなたは、生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験をどのように活かしていますか。(いくつでも)

生涯学習で身に付けた知識・技能・経験を活かしていることについては、「人生がより豊かになっている」が43.7%で最も高く、次いで「仕事や学業に活かしている」が38.1%、「心身の健康を維持・増進している」が36.8%となっている。

なお、「活かしていない」は6.9%となっている。

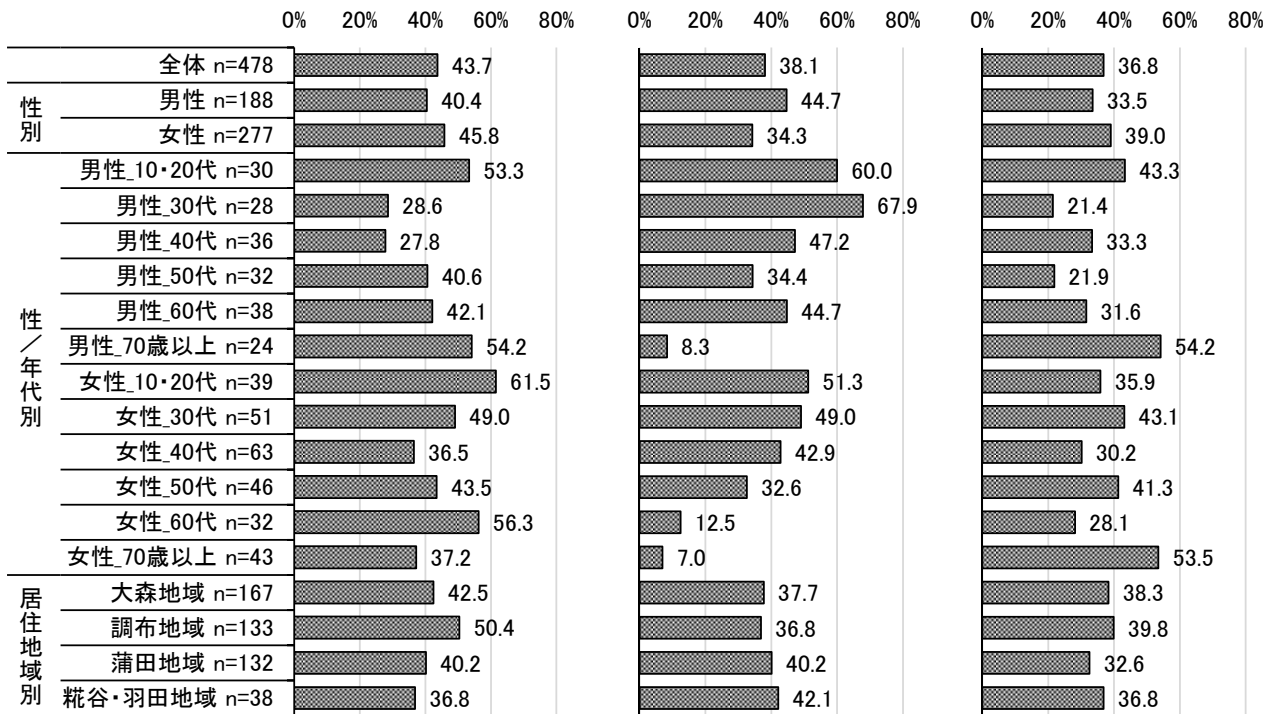


■性別・性／年代別・居住地域別

□人生がより豊かになっている

□仕事や学業に活かしている

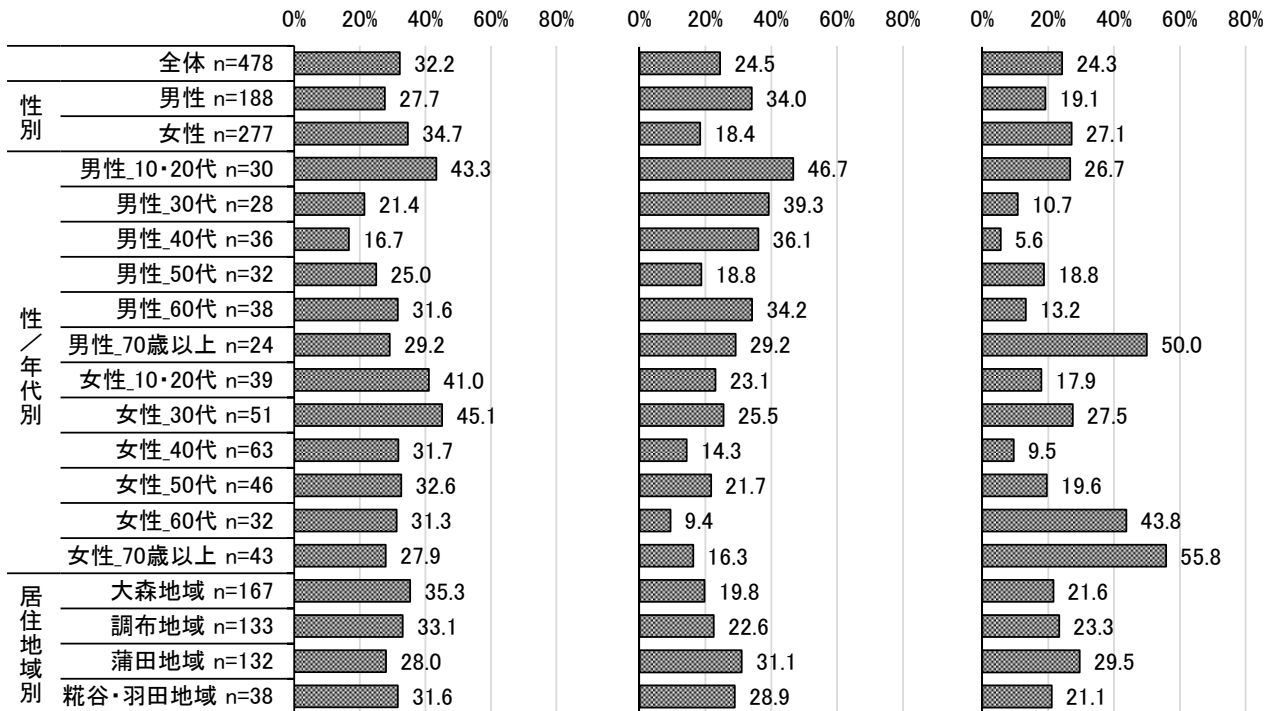
□心身の健康を維持・増進している



□家庭・日常の生活に活かしている

□地域や社会での活動に活かしている

□知人や仲間ができています



性別でみると、男性では「仕事や学業に活かしている」が最も高く、女性では「人生がより豊かになっている」が最も高くなっている。「仕事や学業に活かしている」は男性が44.7%、女性が34.3%と、男性が10.4ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「人生がより豊かになっている」は女性10・20代で6割前半と高くなっている。「仕事や学業に活かしている」は男性10・20代、男性30代で6割台と高くなっている。「心身の健康を維持・増進している」、「知人や仲間ができていく」は男性、女性ともに70歳以上で5割台と高くなっている。

居住地域別でみると、大森地域、調布地域では「人生がより豊かになっている」が最も高く、蒲田地域では「人生がより豊かになっている」、「仕事や学業に活かしている」が最も高い。糀谷・羽田地域では「仕事や学業に活かしている」が最も高くなっている。

(4) 生涯学習の状況

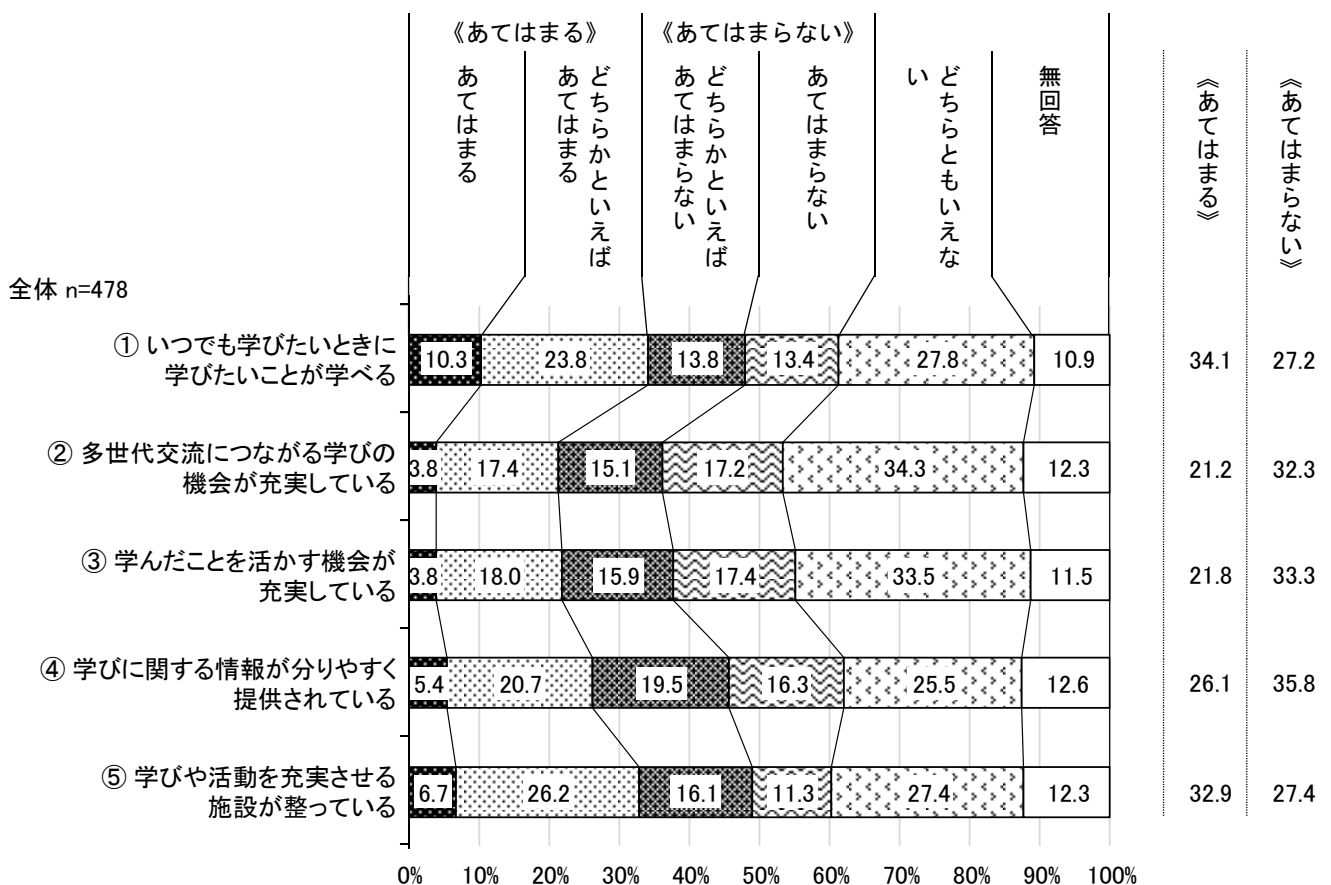
◇ 《あてはまる》(「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値)は『①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる』が3割半ばで最も高くなっている

【問 11 の①で「1」～「14」のいずれかに回答した方に伺います。】

問 11-3 現在の大田区の生涯学習について、以下の項目はどの程度あてはまりますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお選びください。

※「1」～「5」のそれぞれに回答してください。(それぞれ1つのみ)

生涯学習の状況については、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値《あてはまる》は『①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる』が 34.1%で最も高く、次いで『⑤学びや活動を充実させる施設が整っている』が 32.9%、『④学びに関する情報が分りやすく提供されている』が 26.1%となっている。



4 スポーツ・運動について

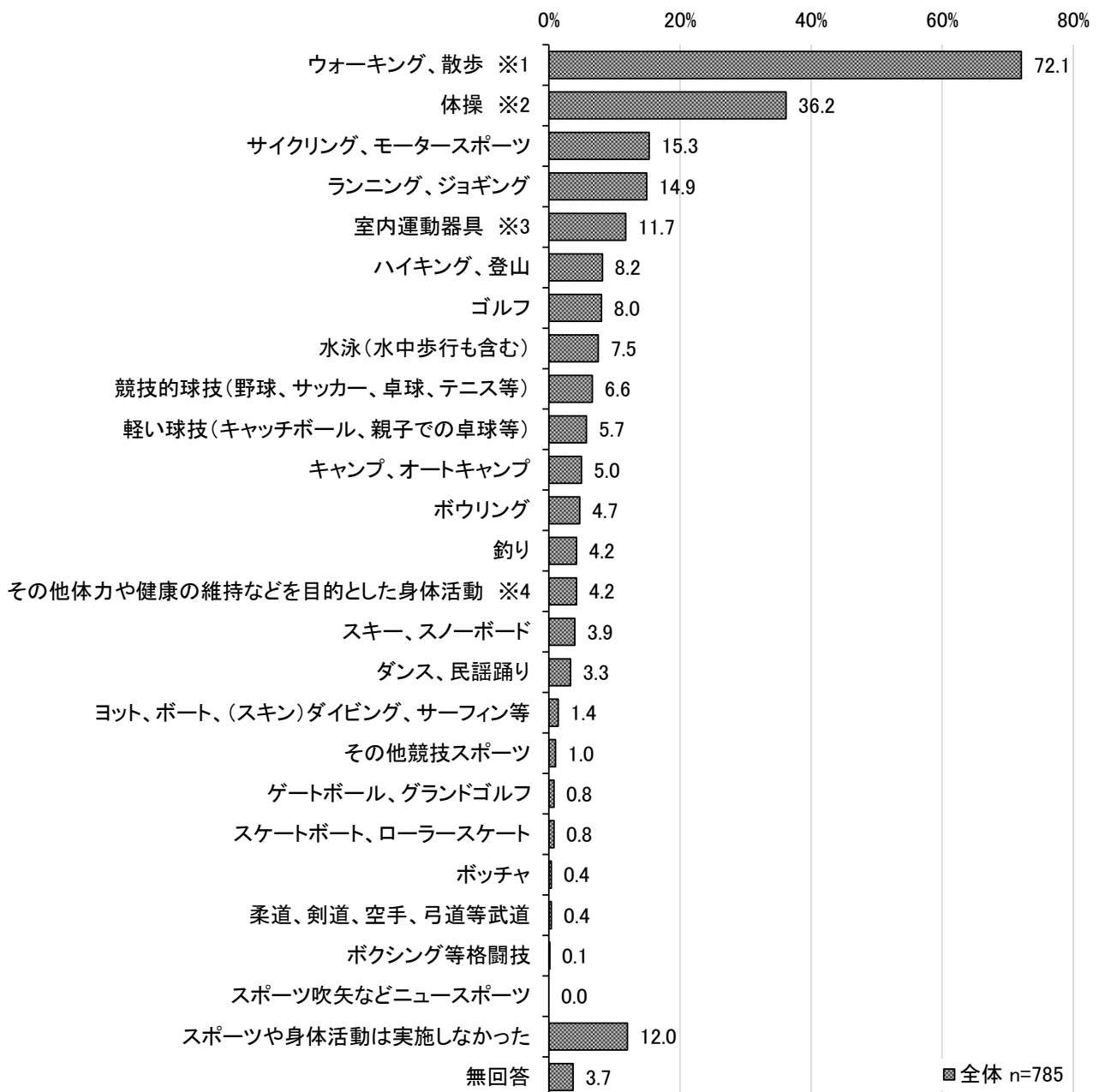
(1) この1年間に実施したスポーツ・運動

◇「ウォーキング、散歩」が7割前半で最も高くなっている

問 12 あなたがこの1年間に実施したスポーツや運動をすべてお選びください。(いくつでも)

この1年間に実施したスポーツ・運動については、「ウォーキング、散歩」が72.1%で最も高く、次いで「体操」が36.2%、「サイクリング、モータースポーツ」が15.3%となっている。

なお、「スポーツや身体活動は実施しなかった」は12.0%となっている。



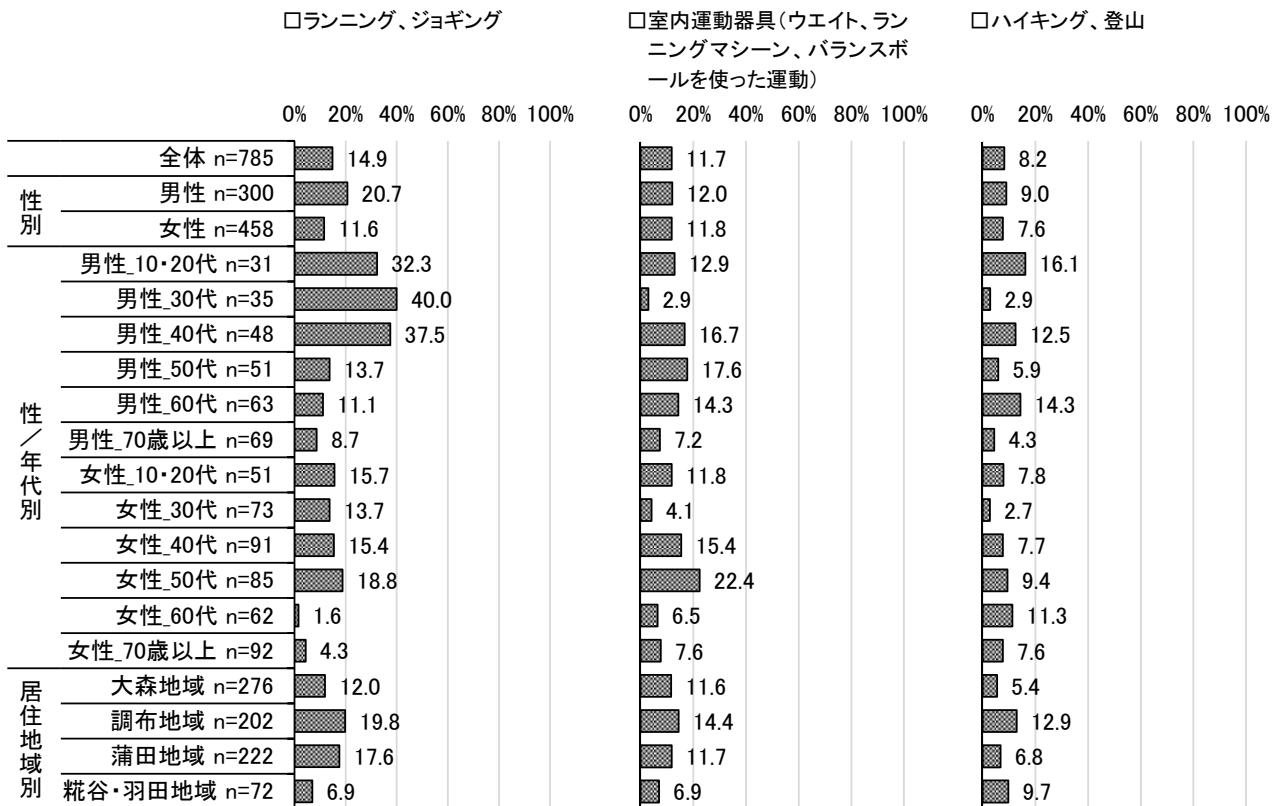
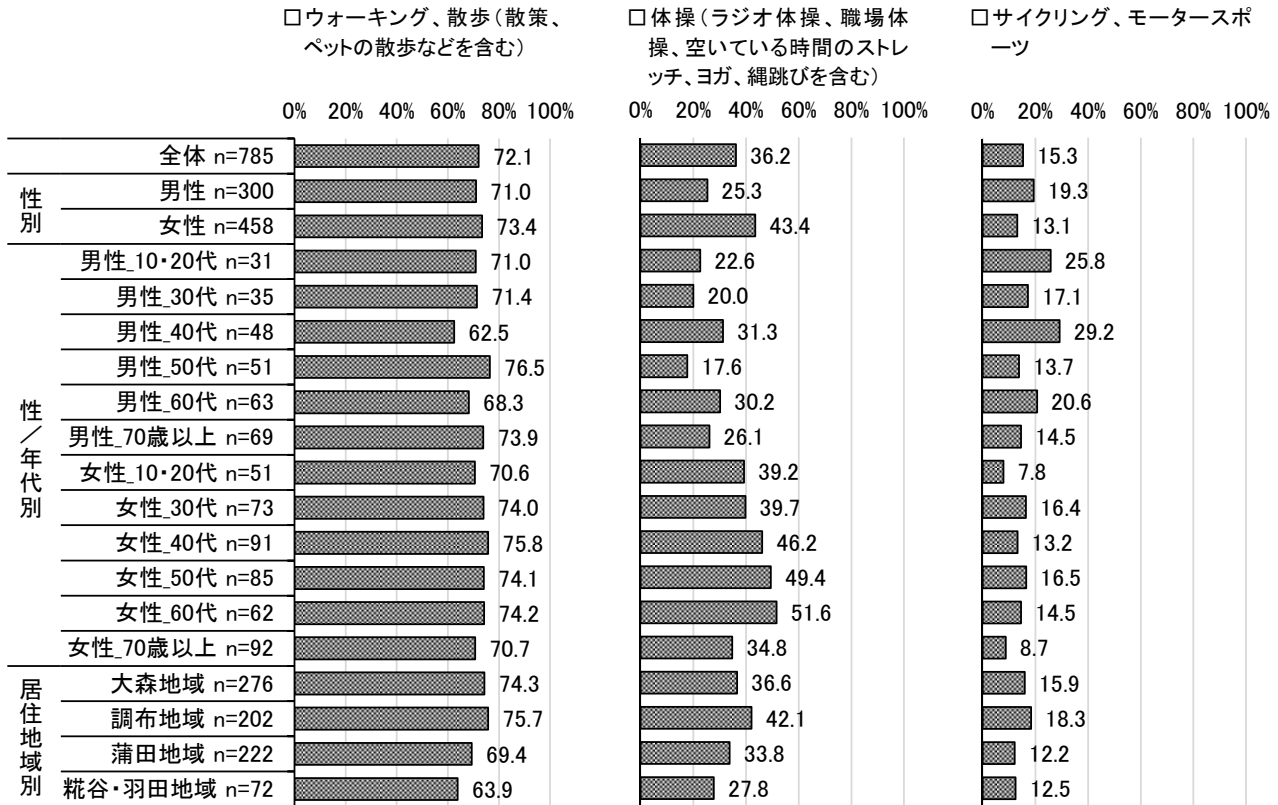
※1 ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)

※2 体操(ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む)

※3 室内運動器具(ウエイト、ランニングマシン、バランスボールを使った運動)

※4 その他体力や健康の維持向上、介護予防、ストレスの解消を目的としたスポーツ、身体活動

■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、男性、女性ともに「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が最も高くなっている。「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）」は男性が25.3%、女性が43.4%と、女性が18.1ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が最も高く、男性40代、男性60代を除き7割台となっている。「体操（ラジオ体操、職場体操、空いている時間のストレッチ、ヨガ、縄跳びを含む）」は女性60代で5割前半と高くなっている。「ランニング、ジョギング」は男性30代で4割、男性10・20代、男性40代が3割台と高くなっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が最も高く、大森地域、調布地域で7割台となっている。

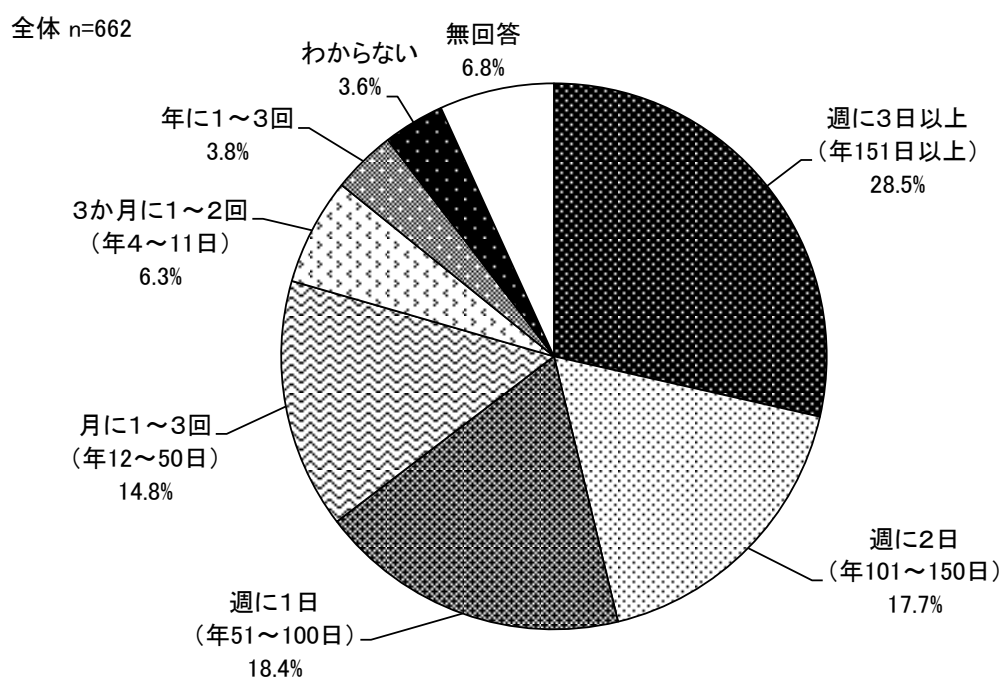
(2) この1年間のスポーツ・運動の活動頻度

◇「週に3日以上（年151日以上）」が3割弱で最も高くなっている

【問12で「スポーツや身体活動は実施しなかった」「以外」を回答した方に伺います。】

問12-1 この1年間にスポーツ・運動を実施した日数を全部合わせると、何日ぐらいになりますか。（週での換算日数）（1つのみ）

この1年間のスポーツ・運動の活動頻度については、「週に3日以上（年151日以上）」が28.5%で最も高く、次いで「週に1日（年51～100日）」が18.4%、「週に2日（年101～150日）」が17.7%となっている。

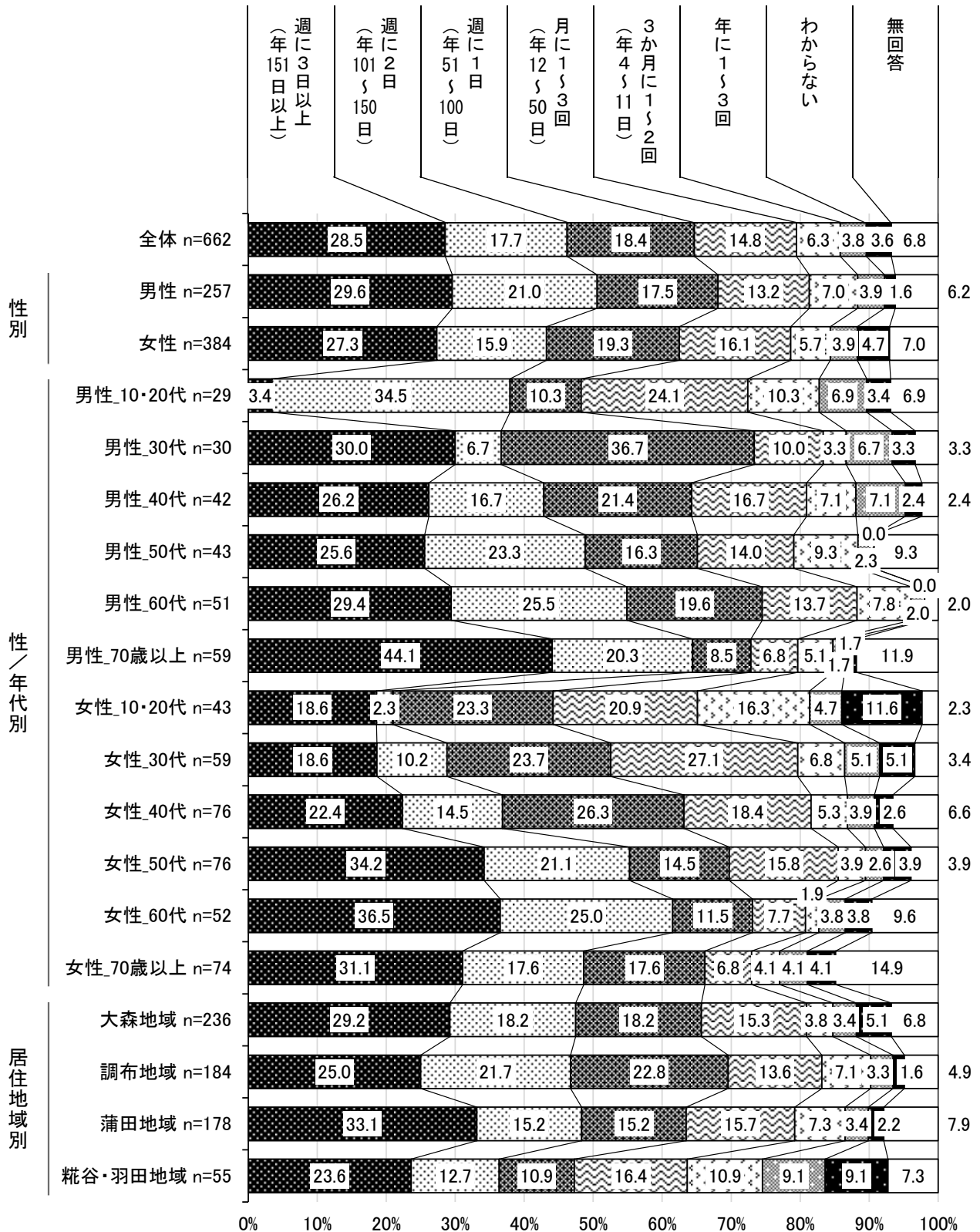


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」は男性では70歳以上で4割半ば、女性では50代から70歳以上で3割台と高くなっている。

居住地域別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」は蒲田地域で3割前半と高くなっている。



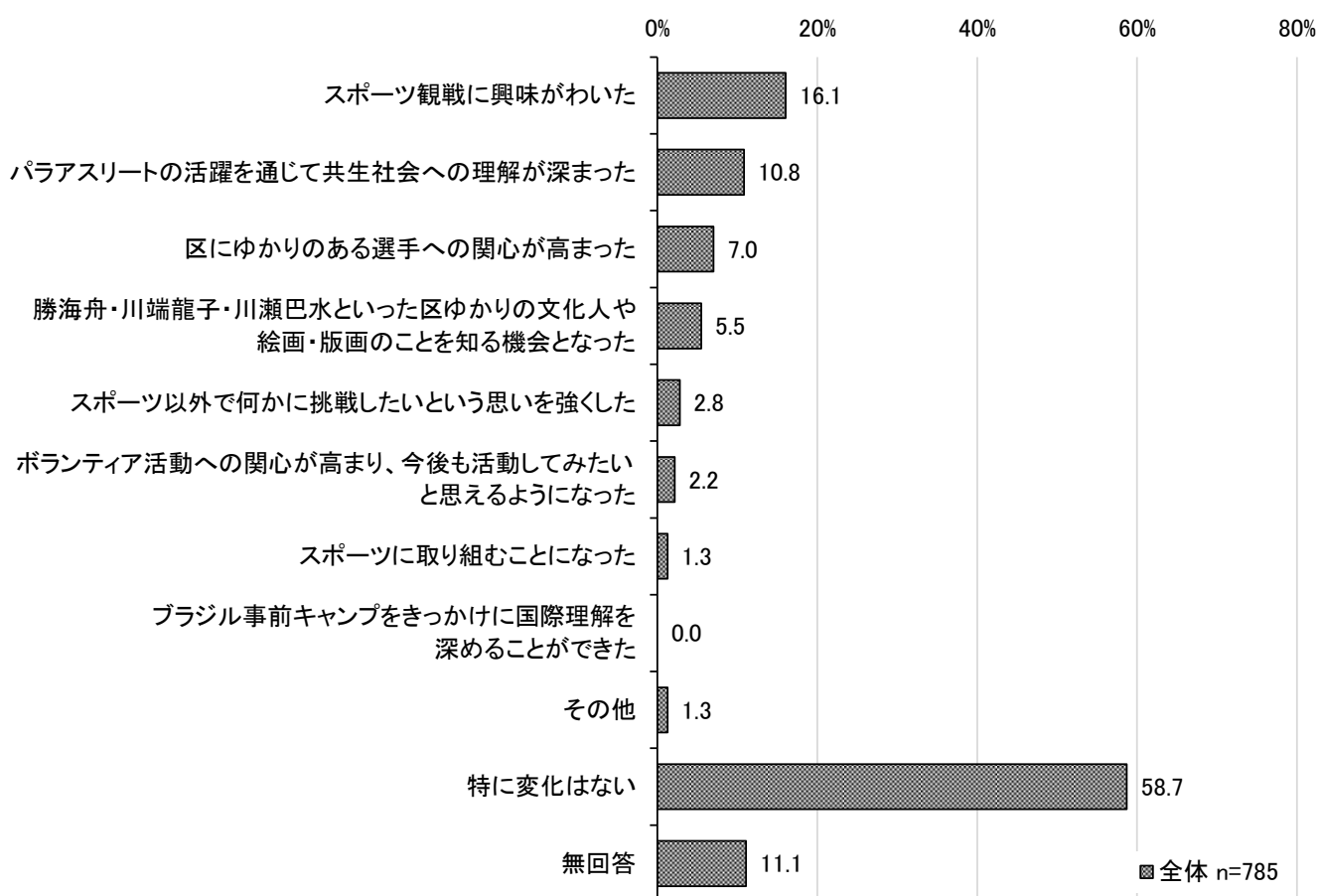
(3) 東京 2020 大会による意識の変化

◇「スポーツ観戦に興味があった」、「パラアスリートの活躍を通じて共生社会への理解が深まった」が1割台となっている

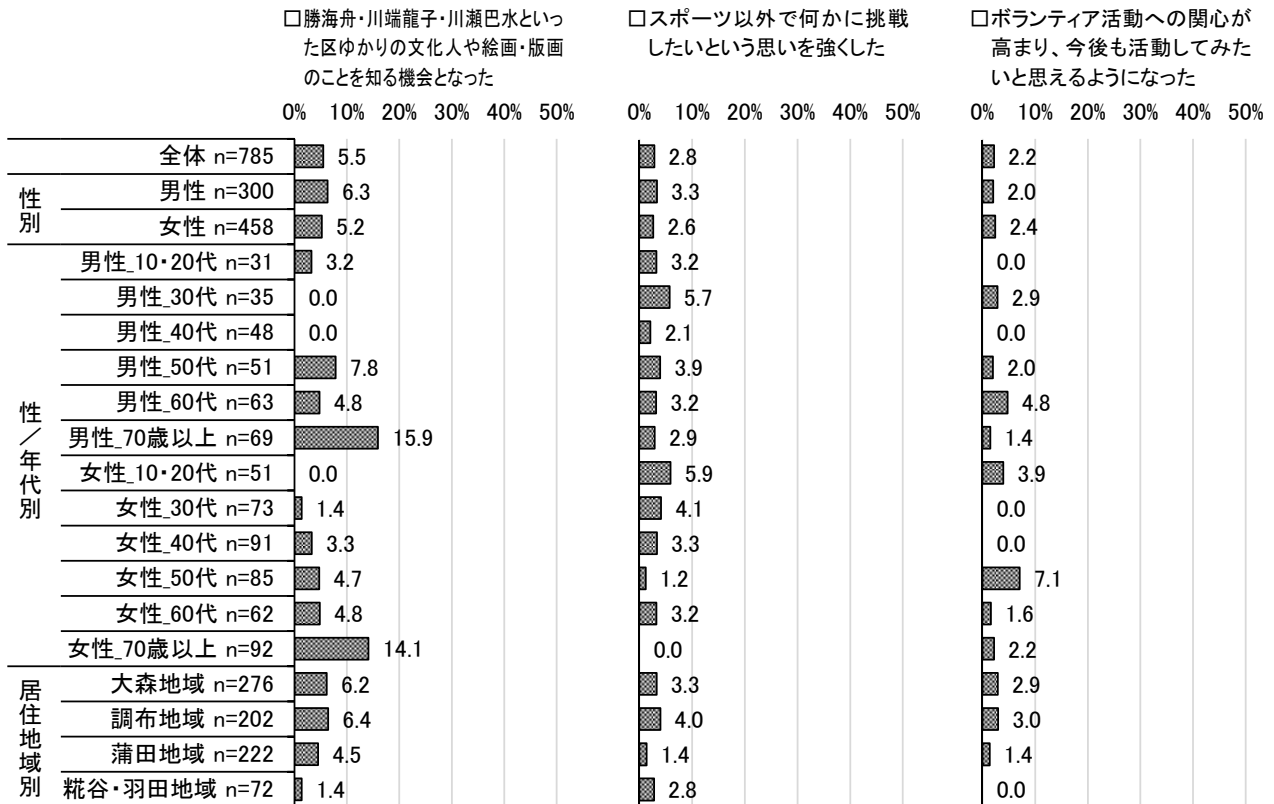
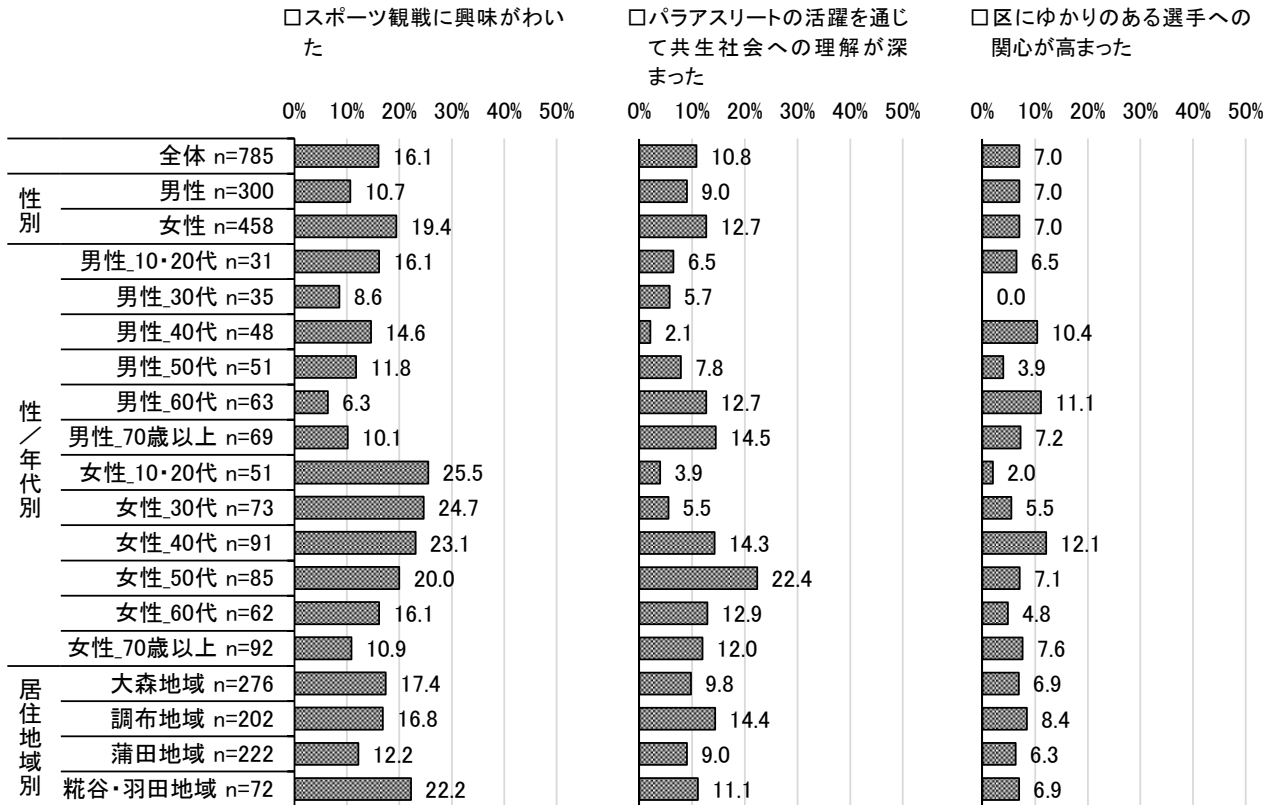
問 13 東京 2020 大会を契機に大田区の事業を知り、経験したことで、自身の行動や意識に変化はありましたか。(いくつでも)

東京 2020 大会による意識の変化については、「スポーツ観戦に興味があった」が 16.1%で最も高く、次いで「パラアスリートの活躍を通じて共生社会への理解が深まった」が 10.8%、「区にゆかりのある選手への関心が高まった」が 7.0%となっている。

なお、「特に変化はない」は 58.7%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別でみると、男性、女性ともに「スポーツ観戦に興味があった」が最も高く、男性が 10.7%、女性が 19.4%と、女性が 8.7 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「スポーツ観戦に興味があった」は女性では年代が下がるにつれて増加傾向であり、女性 10・20 代、女性 30 代で 2 割半ばとなっている。「パラアスリートの活躍を通じて共生社会への理解が深まった」は女性 50 代で 2 割前半と高くなっている。「勝海舟・川端龍子・川瀬巴水といった区ゆかりの文化人や絵画・版画のことを知る機会となった」は男性、女性ともに 70 歳以上で 1 割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「スポーツ観戦に興味があった」が最も高く、糀谷・羽田地域で 2 割前半となっている。

5 文化・芸術について

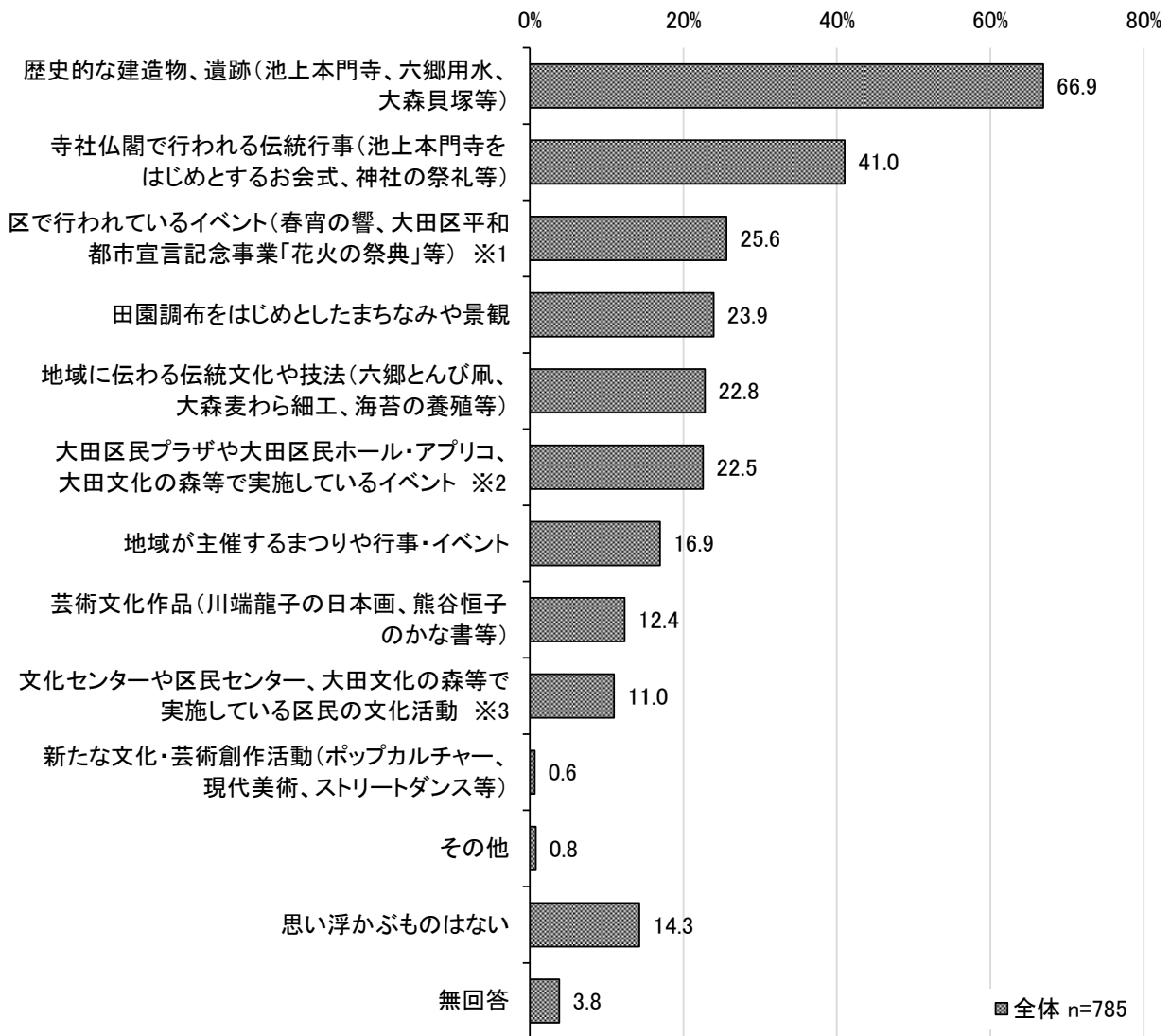
(1) 大田区の文化・芸術で思い浮かぶもの

◇「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が7割弱で最も高くなっている

問 14 大田区の文化・芸術として思い浮かぶものは、どのようなものですか。（いくつでも）

大田区の文化・芸術で思い浮かぶものについては、「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が66.9%で最も高く、次いで「寺社仏閣で行われる伝統行事（池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等）」が41.0%、「区で行われているイベント（春宵の響、大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」等）」が25.6%となっている。

なお、「思い浮かぶものはない」は14.3%となっている。

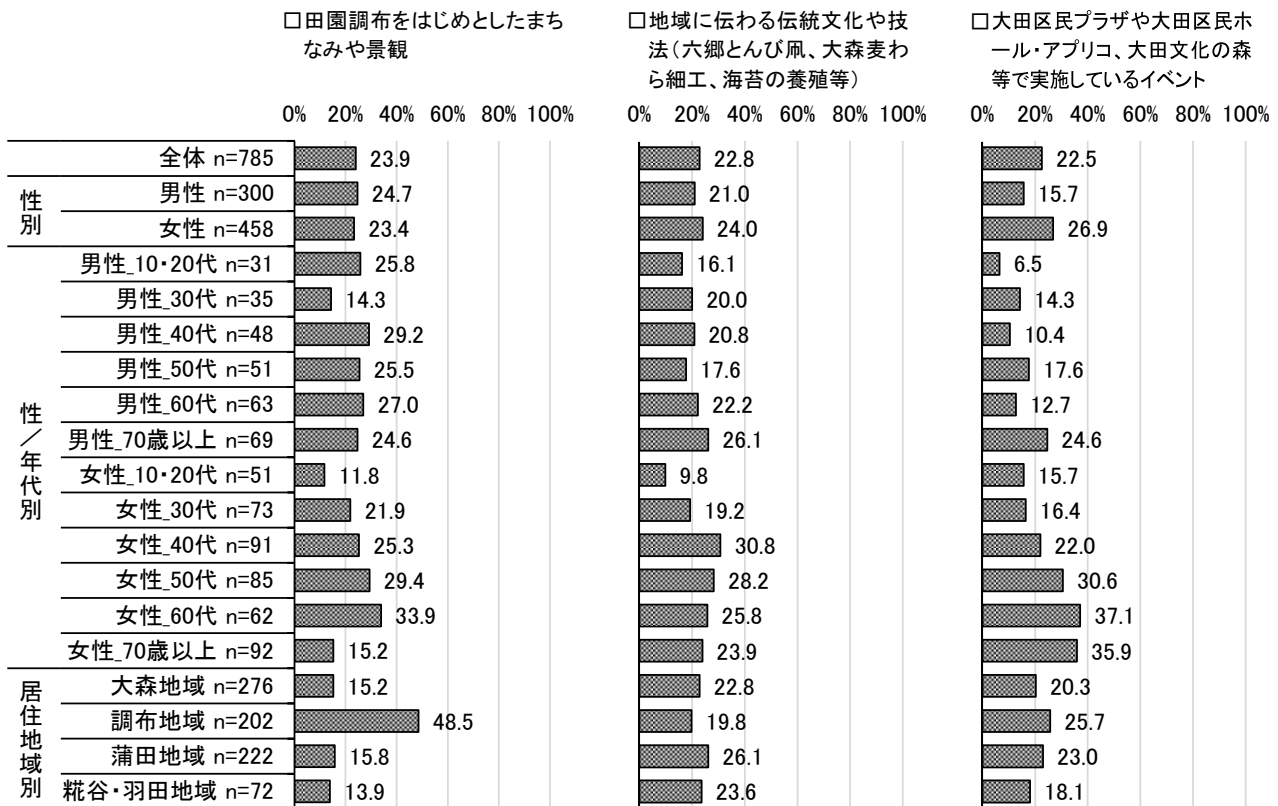
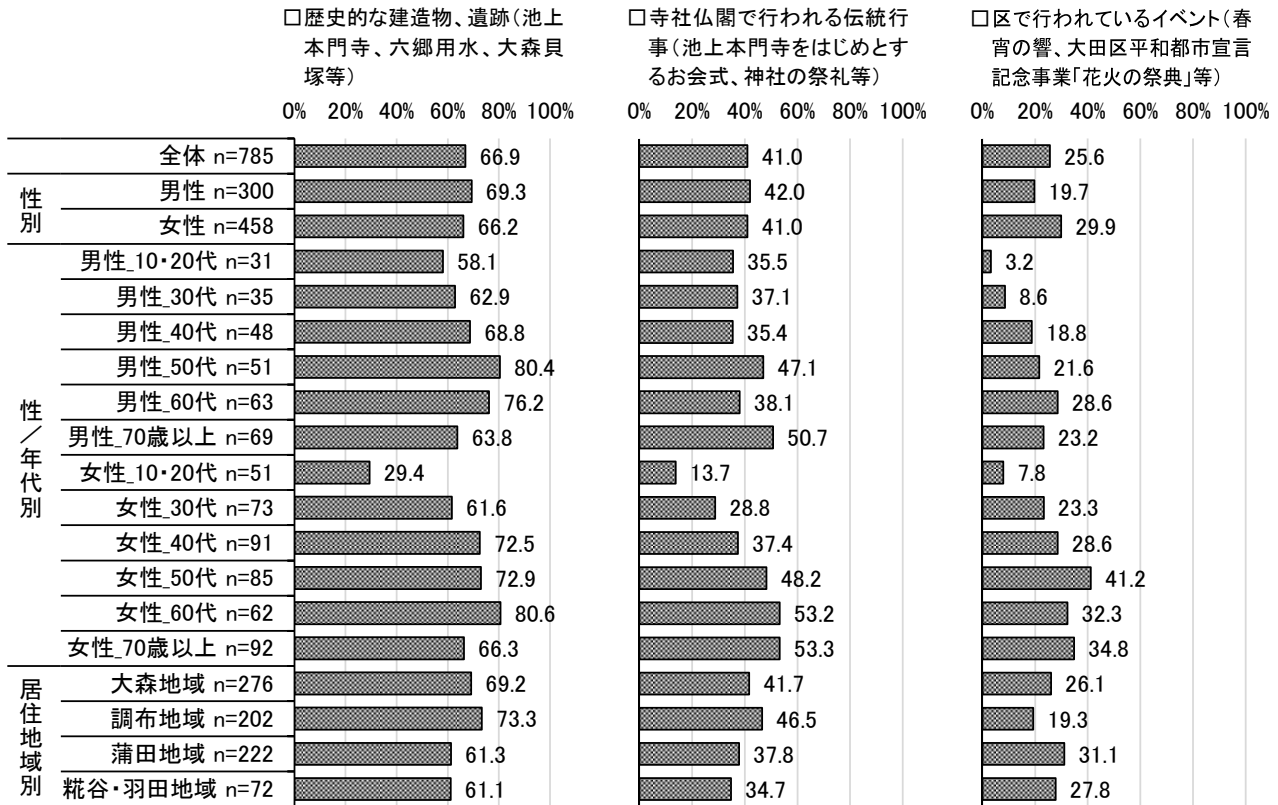


※1 区で行われているイベント(春宵の響、大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」、OTA ふれあいフェスタ等)

※2 大田区民プラザや大田区民ホール・アプリコ、大田文化の森等で実施しているイベント(下丸子 JAZZ 倶楽部、下丸子らくご倶楽部、アプリコみんなの音楽祭、大田区在住作家美術展等)

※3 文化センターや区民センター、大田文化の森等で実施している区民の文化活動(絵画、写真、書道、華道、合唱等)

■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、「区で行われているイベント（春宵の響、大田区平和都市宣言記念事業「花火の祭典」等）」は男性が19.7%、女性が29.9%と、女性が10.2ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、すべての性／年代で「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が最も高く、男性50代、女性60代で8割台となっている。「寺社仏閣で行われる伝統行事（池上本門寺をはじめとするお会式、神社の祭礼等）」は男性70歳以上、女性60代、女性70歳以上で5割台となっている。

居住地域別で見ると、すべての地域で「歴史的な建造物、遺跡（池上本門寺、六郷用水、大森貝塚等）」が最も高く、調布地域で7割前半となっている。「田園調布をはじめとしたまちなみや景観」は調布地域で5割弱と高くなっている。

6 観光について

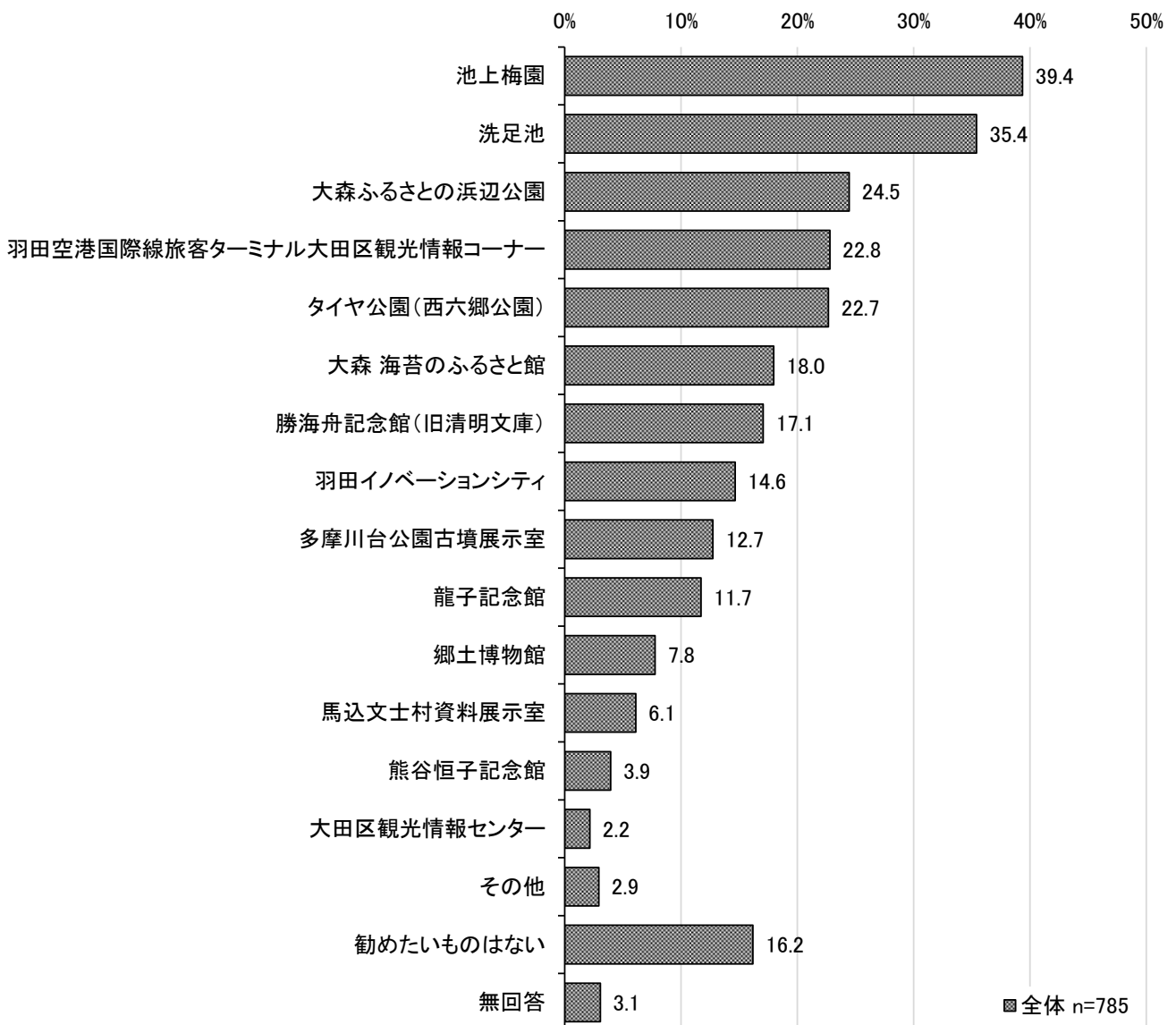
(1) 友人・知人に勧めたい大田区の観光資源

◇「池上梅園」、「洗足池」が3割台となっている

問 15 友人や知人にお勧めしたい大田区の観光資源はどれですか。(いくつでも)

友人・知人に勧めたい大田区の観光資源については、「池上梅園」が39.4%で最も高く、次いで「洗足池」が35.4%、「大森ふるさとの浜辺公園」が24.5%となっている。

なお、「勧めたいものはない」は16.2%となっている。

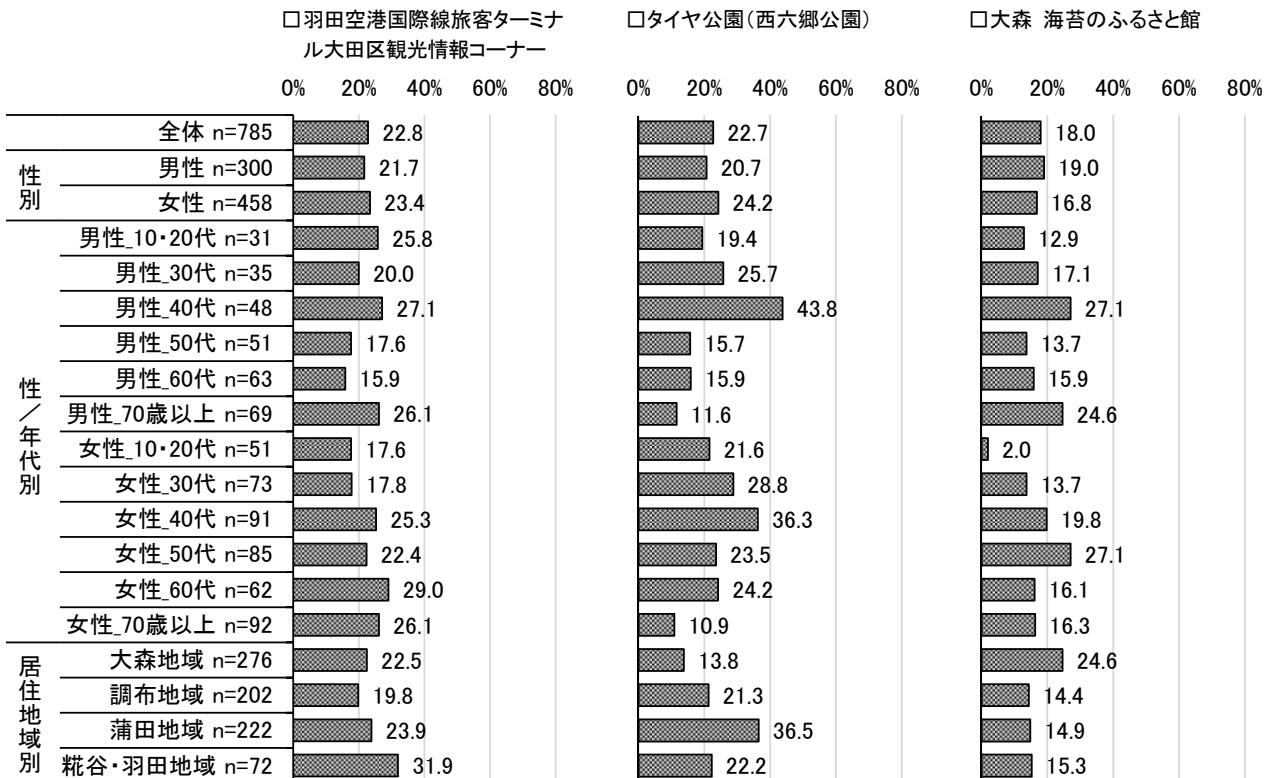
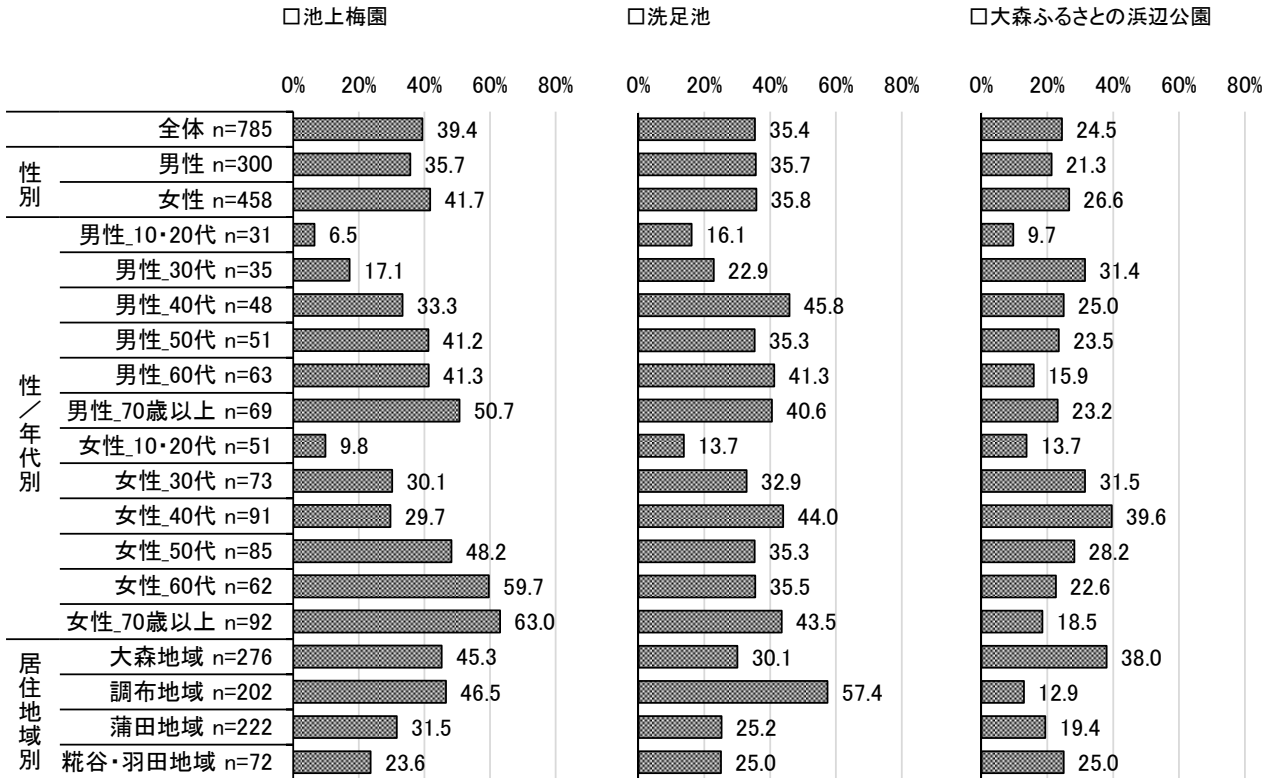


■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別でみると、「池上梅園」は男性が35.7%、女性が41.7%と、女性が6.0ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「池上梅園」は男性、女性ともに年代が上がるにつれて増加傾向であり、男性70歳以上で約5割、女性70歳以上で6割前半となっている。「タイヤ公園（西六郷公園）」は男性では40代で4割前半、女性では40代で4割弱と高くなっている。

居住地域別でみると、「池上梅園」は大森地域、調布地域で4割台と高くなっている。「洗足池」は調布地域で6割弱と高くなっている。「大森ふるさとの浜辺公園」は大森地域で4割弱と高くなっている。



7 普段の生活について

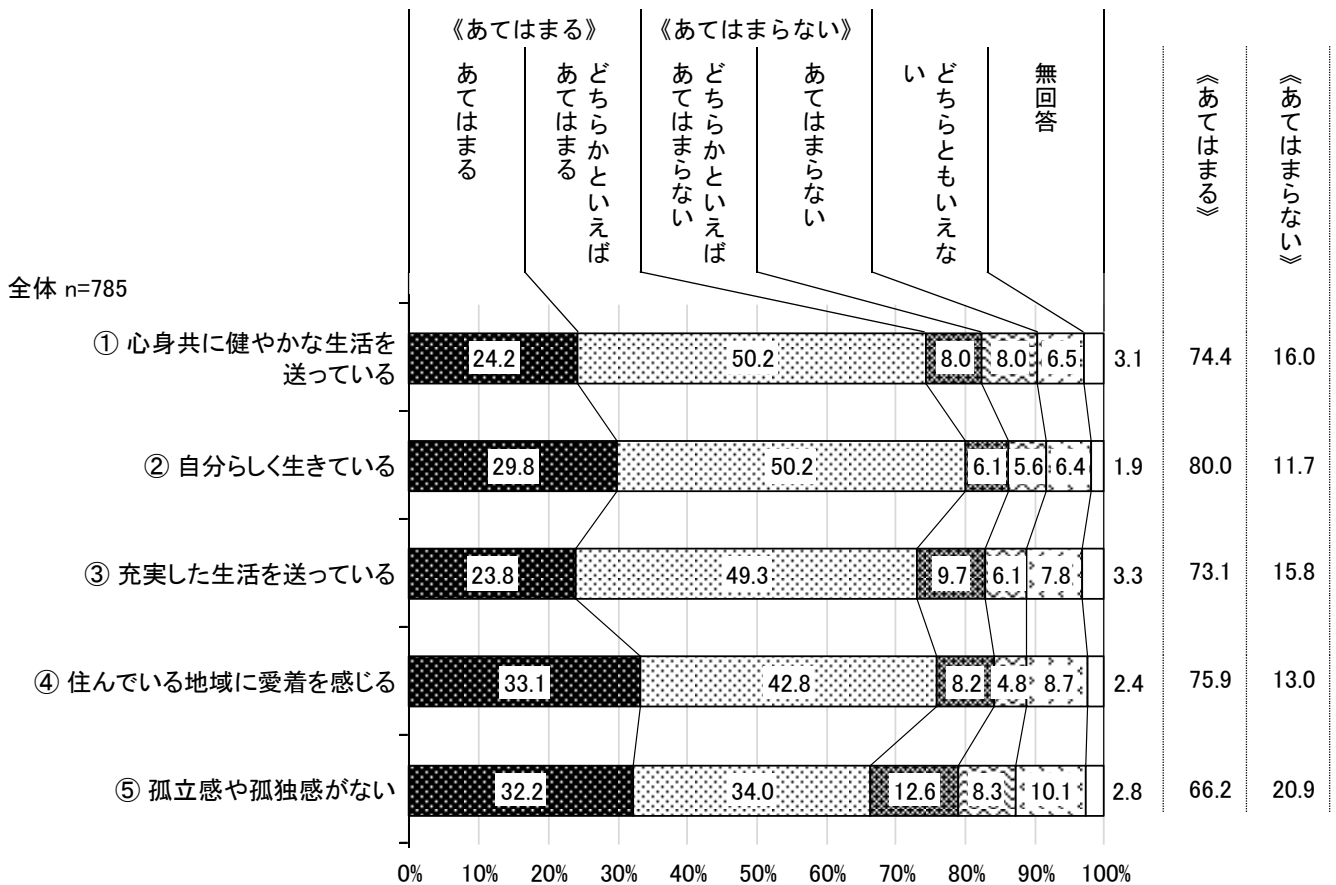
(1) 普段の生活の状況

◇ 《あてはまる》(「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値)は『②自分らしく生きている』が8割で最も高くなっている

問 16 普段の生活について、以下の項目はどの程度あてはまりますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお選びください。

※「1」～「5」のそれぞれに回答してください。(それぞれ1つのみ)

普段の生活の状況については、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計値《あてはまる》は『②自分らしく生きている』が80.0%で最も高く、次いで『④住んでいる地域に愛着を感じる』が75.9%、『①心身共に健やかな生活を送っている』が74.4%となっている。

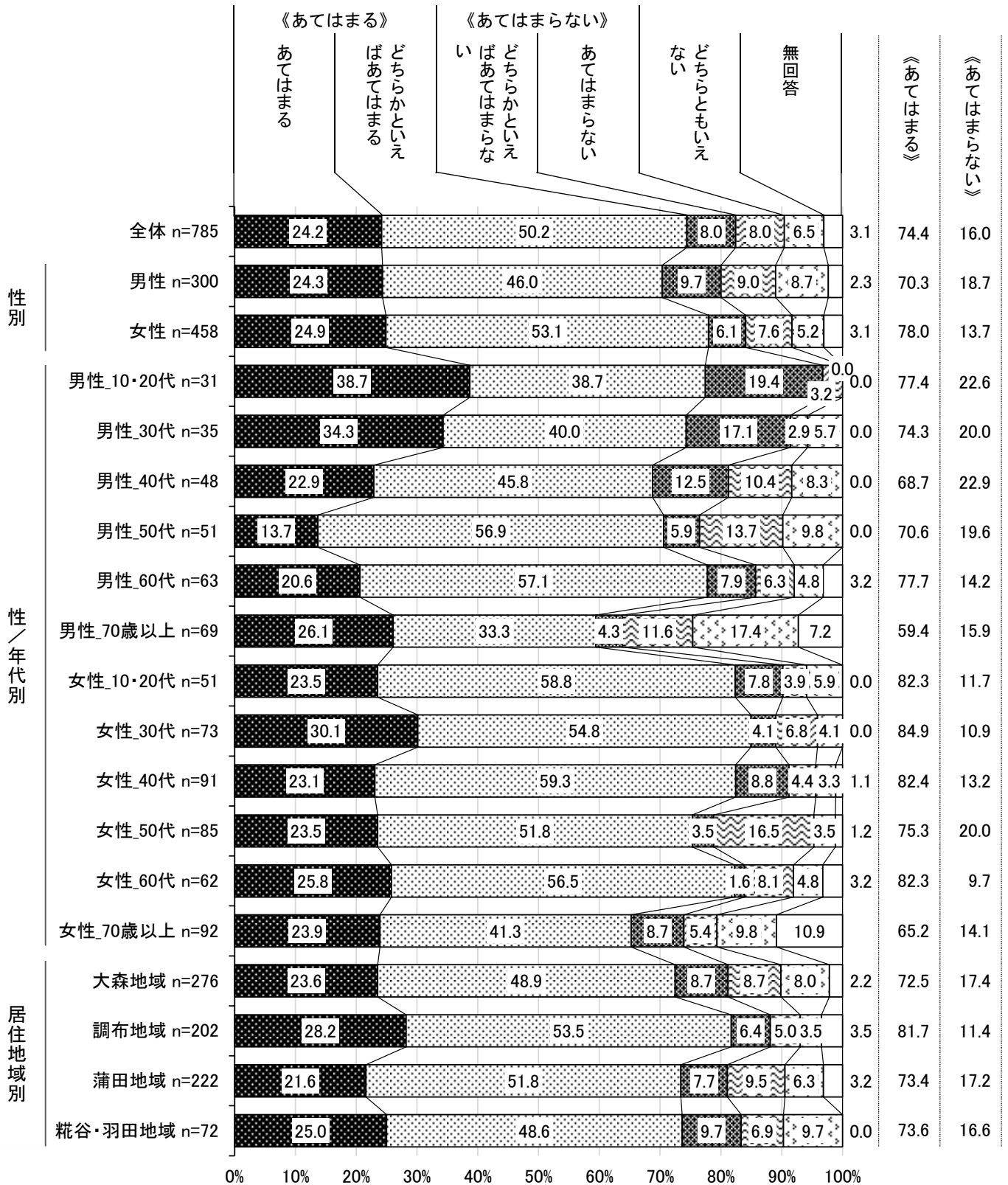


■性別・性／年代別・居住地域別_①心身共に健やかな生活を送っている

性別でみると、《あてはまる》は男性が70.3%、女性が78.0%と、女性が7.7ポイント上回っている。

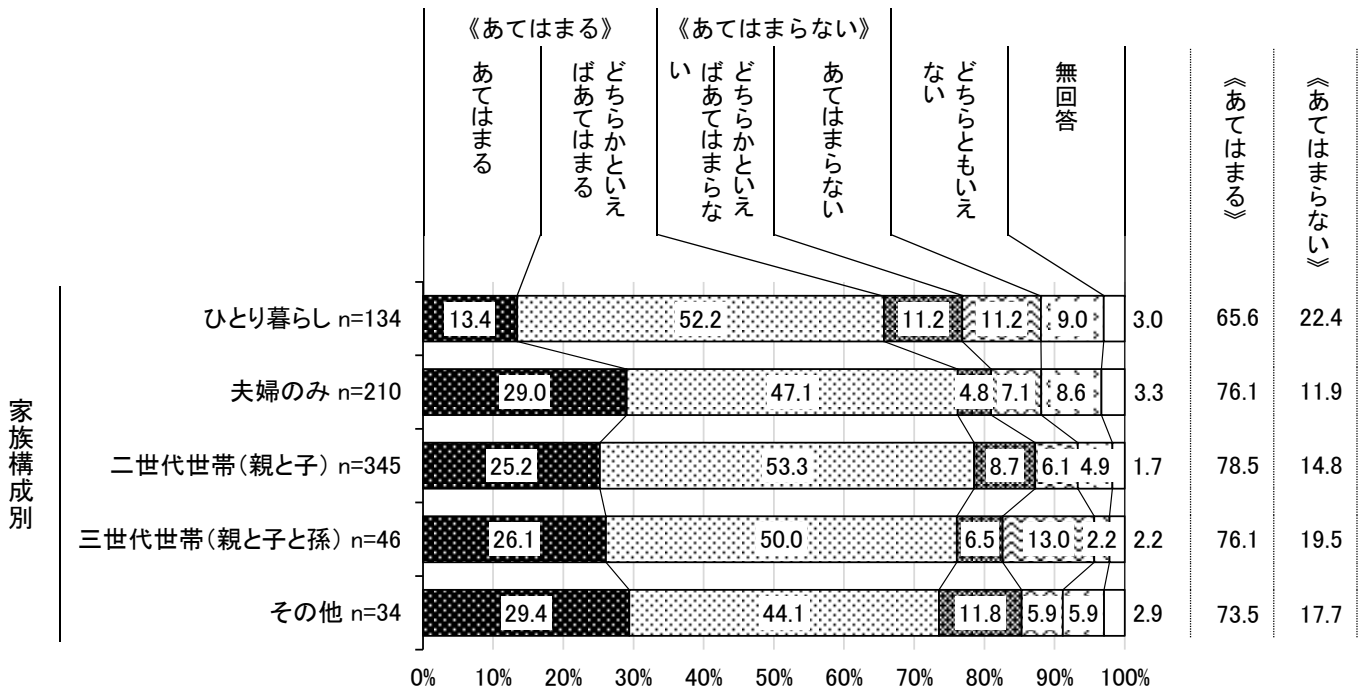
性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では10・20代、60代で8割弱、女性では30代で8割半ばと高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は調布地域で8割前半と高くなっている。



■ 家族構成別_①心身共に健やかな生活を送っている

家族構成別でみると、《あてはまる》は二世世代世帯（親と子）で8割弱と高くなっている。一方で、《あてはまらない》はひとり暮らしで2割前半と高くなっている。

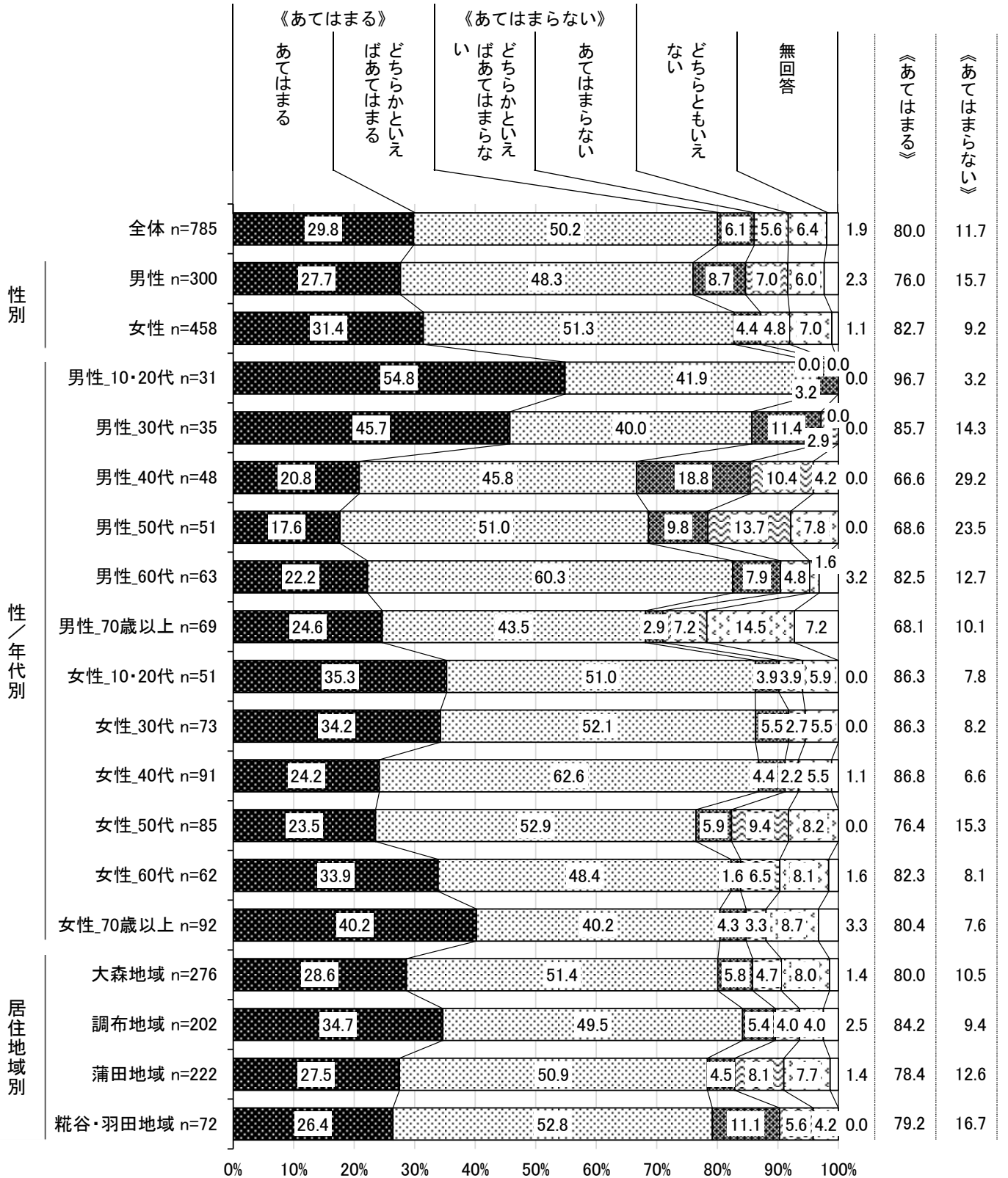


■性別・性／年代別・居住地域別_②自分らしく生きている

性別でみると、《あてはまる》は男性が76.0%、女性が82.7%と、女性が6.7ポイント上回っている。

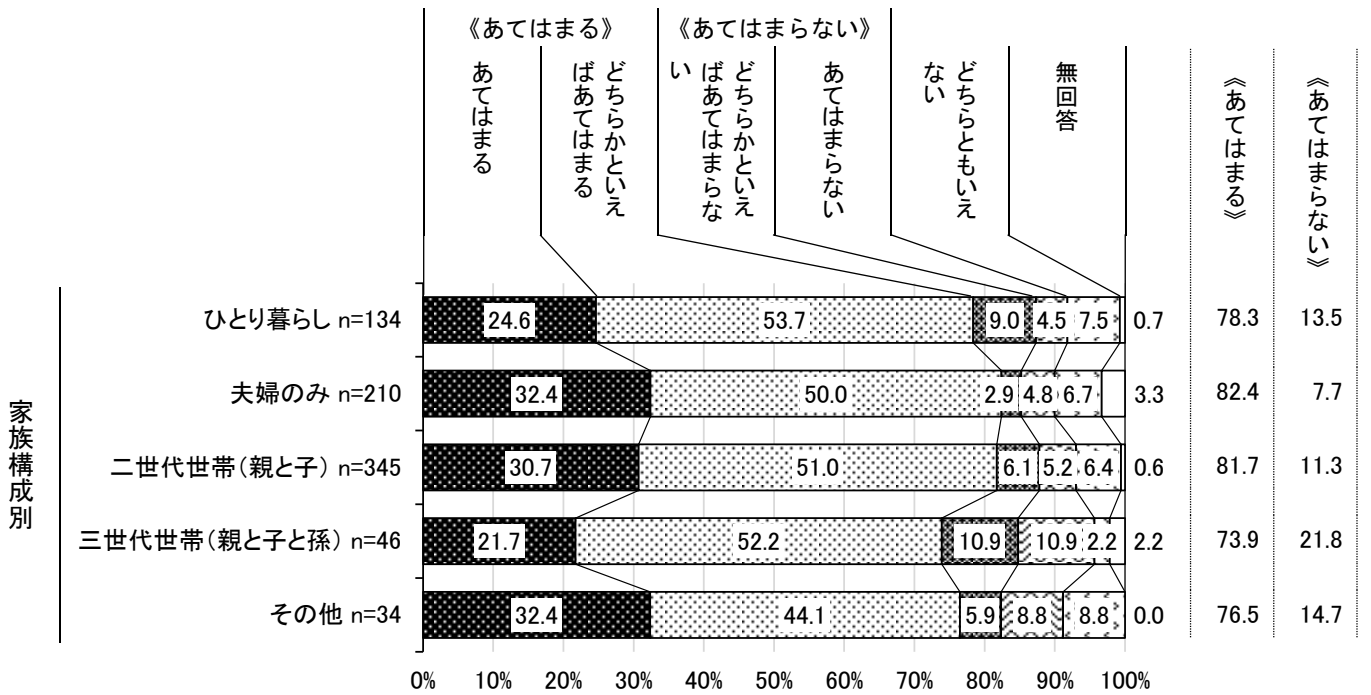
性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では10・20代で10割弱、女性では10・20代から40代で9割弱と高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は調布地域で8割半ばと高くなっている。



■家族構成別_②自分らしく生きている

家族構成別でみると、《あてはまる》は夫婦のみ、二世帯世帯（親と子）で8割前半と高くなっている。一方で、《あてはまらない》は三世帯世帯（親と子と孫）で2割前半と高くなっている。

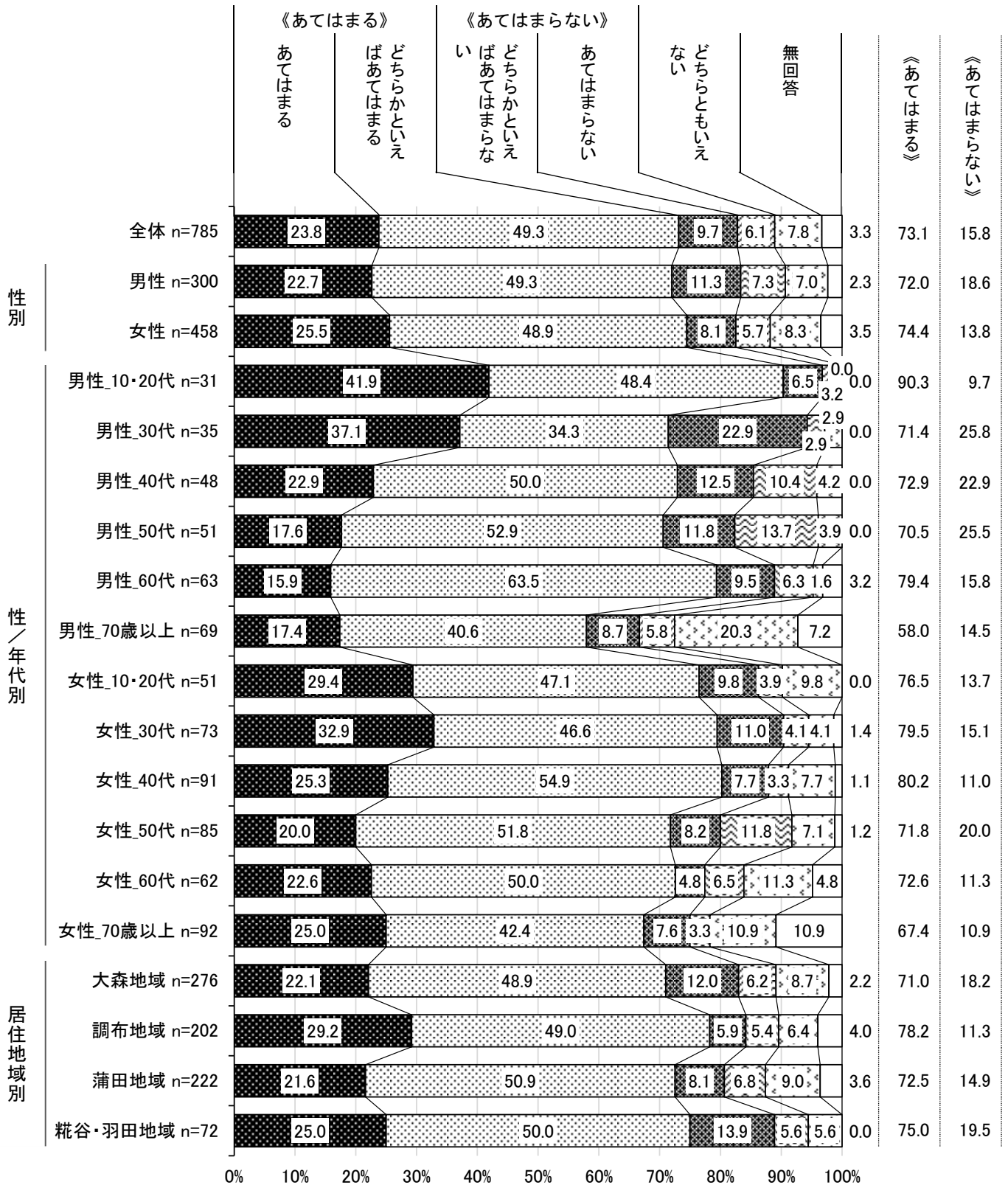


■性別・性／年代別・居住地域別__③充実した生活を送っている

性別でみると、《あてはまる》は男性が72.0%、女性が74.4%と、女性が2.4ポイント上回っている。

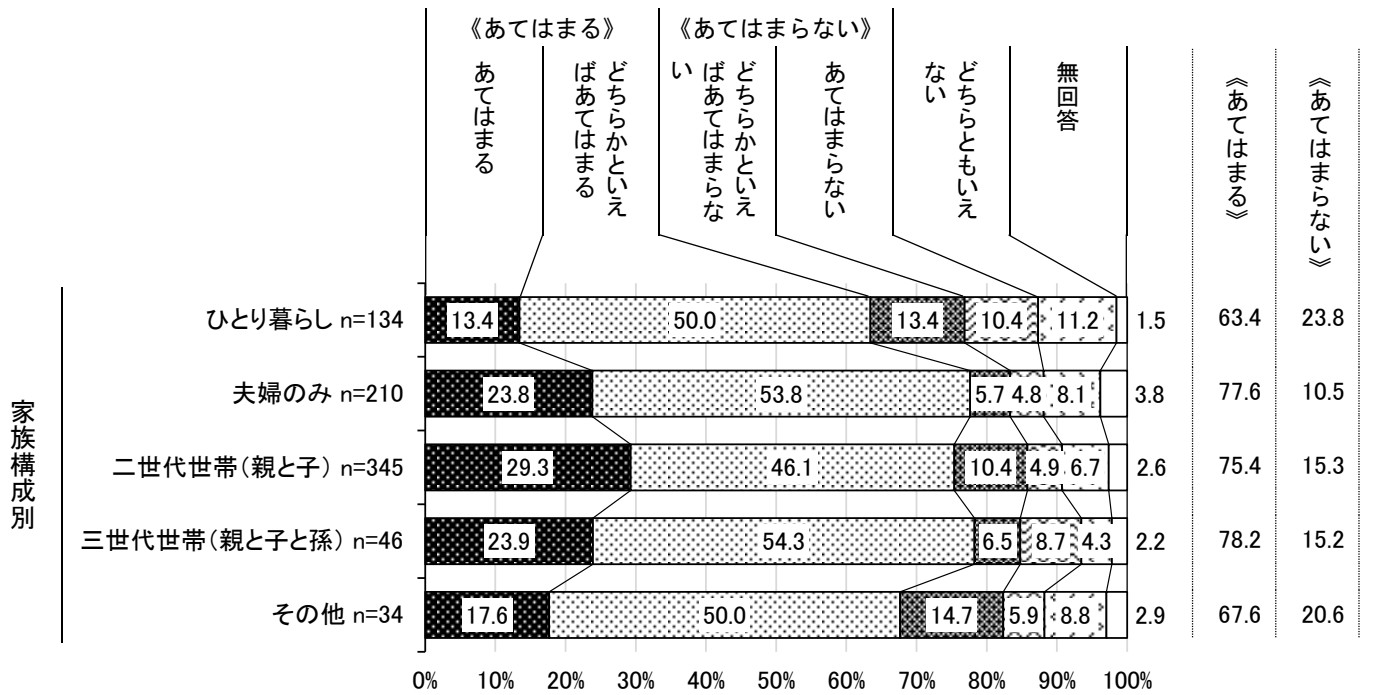
性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では10・20代で約9割、女性では30代、40代で約8割と高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は調布地域で8割弱と高くなっている。



■ 家族構成別_③ 充実した生活を送っている

家族構成別でみると、《あてはまる》は夫婦のみ、三世代世帯（親と子と孫）で8割弱と高くなっている。一方で、《あてはまらない》はひとり暮らしで2割前半と高くなっている。

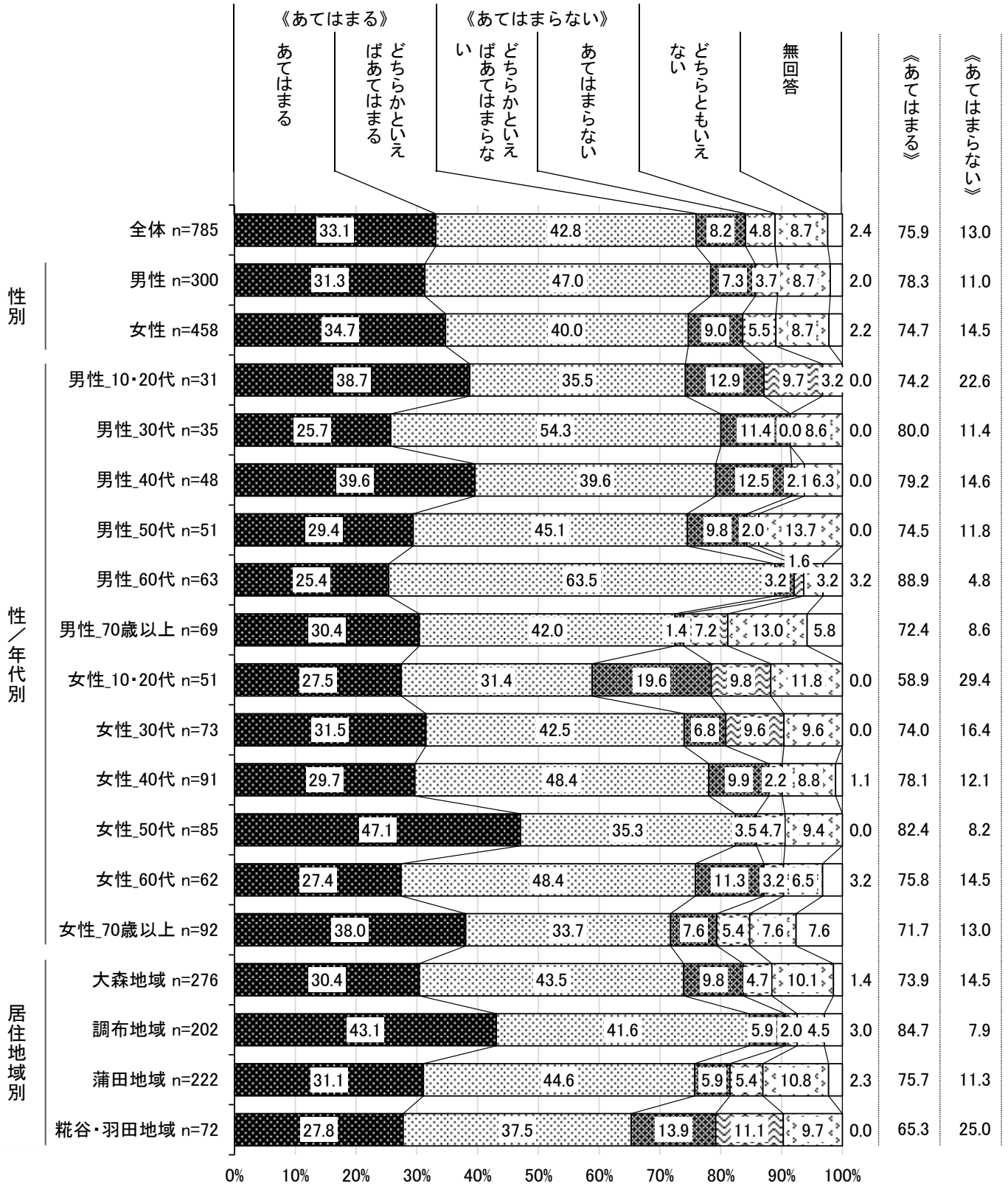


■性別・性／年代別・居住地域別_④住んでいる地域に愛着を感じる

性別でみると、《あてはまる》は男性が78.3%、女性が74.7%と、男性が3.6ポイント上回っている。

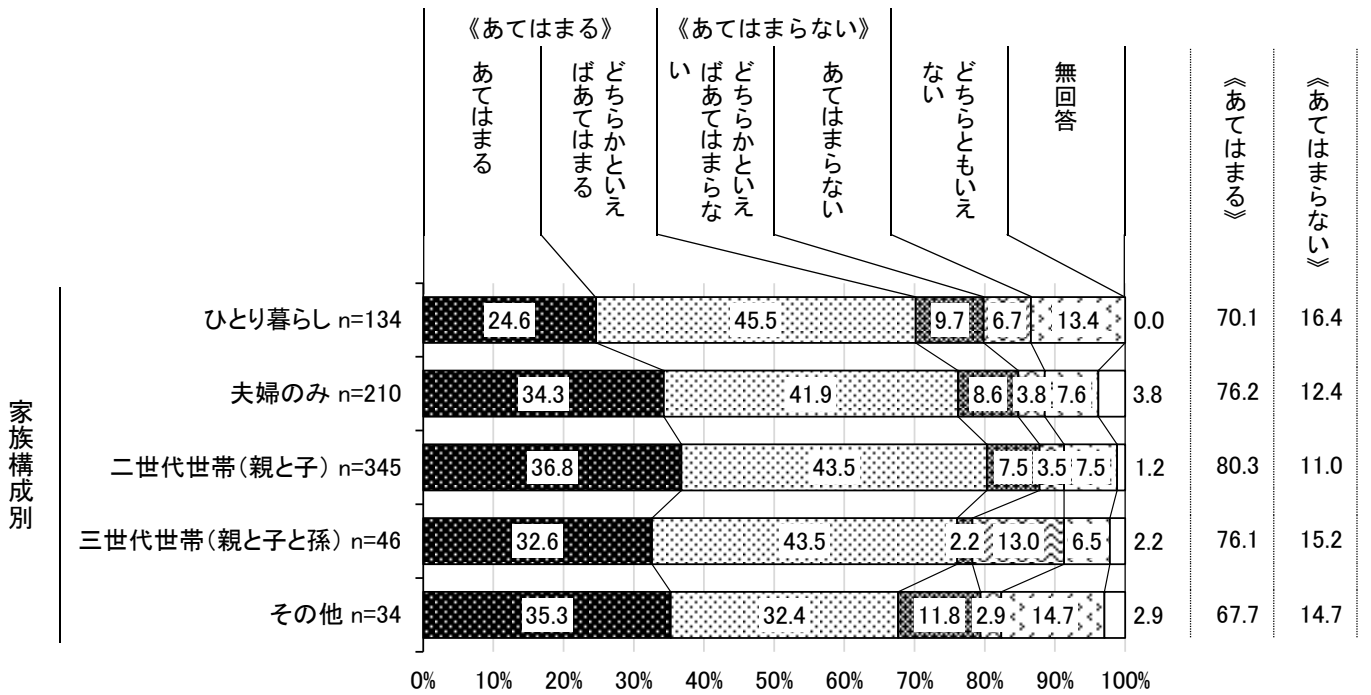
性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では60代で9割弱、女性では50代で8割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は調布地域で8割半ばと高くなっている。



■ 家族構成別_④住んでいる地域に愛着を感じる

家族構成別でみると、「あてはまる」は二世帯世帯（親と子）で約8割と高くなっている。一方で、「あてはまらない」はひとり暮らしで2割弱と高くなっている。

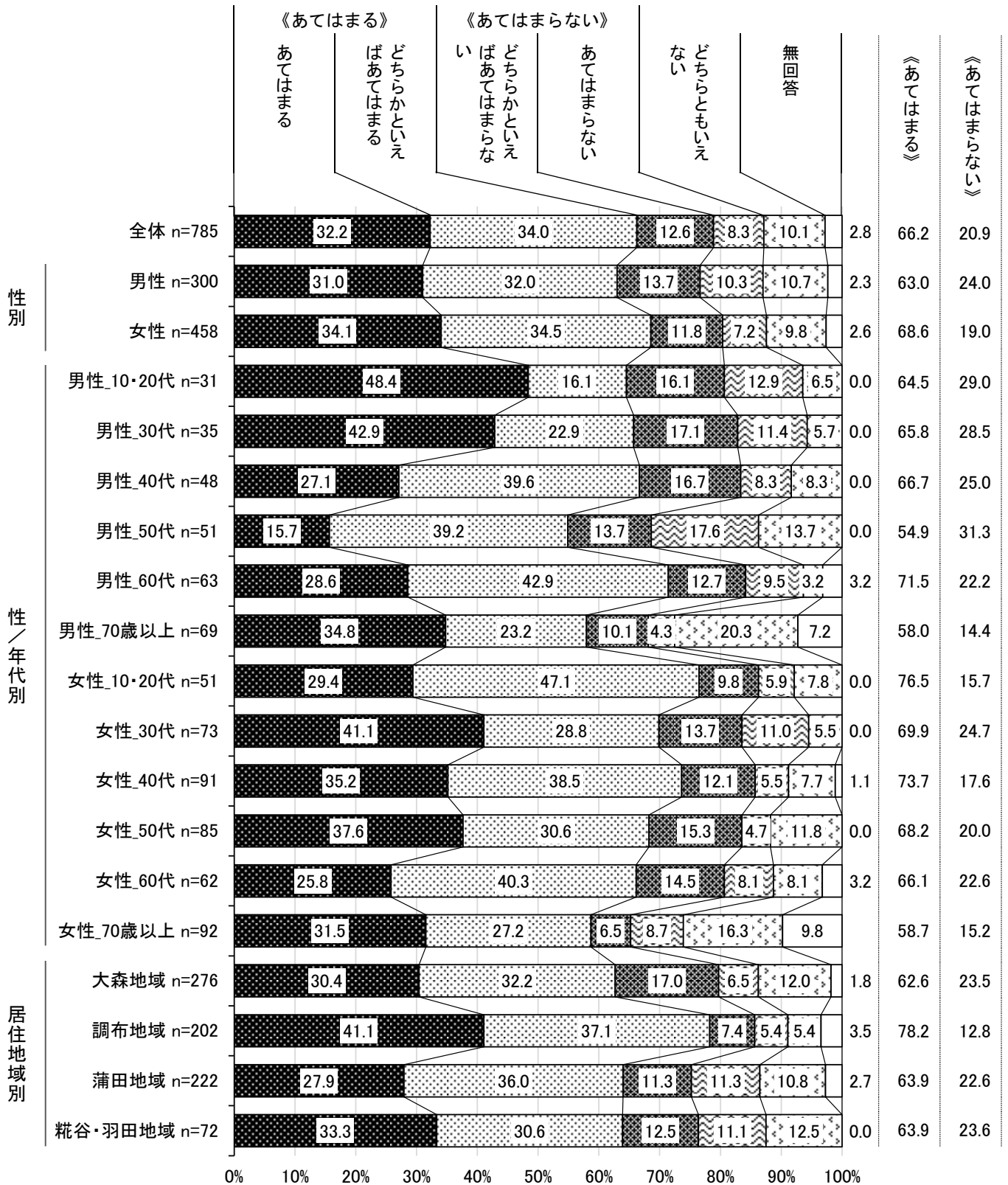


■性別・性／年代別・居住地域別_⑤孤立感や孤独感がない

性別でみると、《あてはまる》は男性が63.0%、女性が68.6%と、女性が5.6ポイント上回っている。

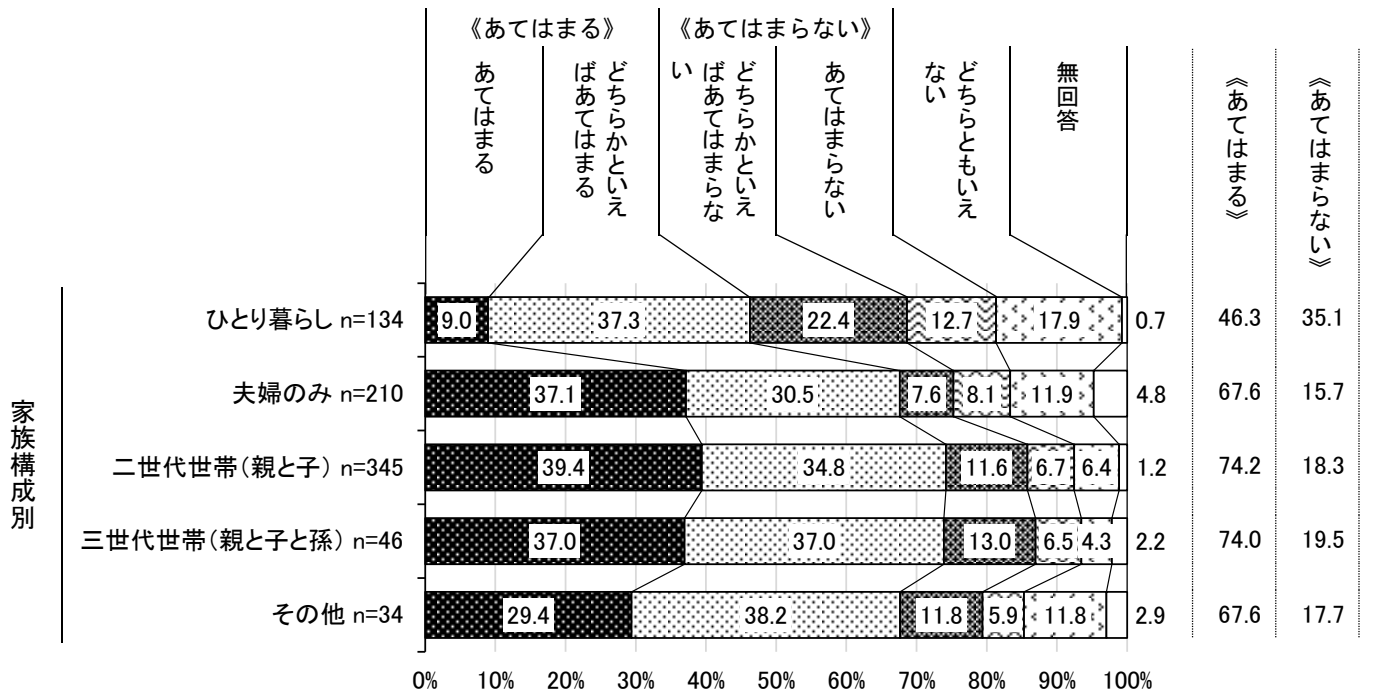
性／年代別でみると、《あてはまる》は男性では60代で7割前半、女性では10・20代で8割弱と高くなっている。

居住地域別でみると、《あてはまる》は調布地域で8割弱と高くなっている。



■ 家族構成別 ⑤ 孤立感や孤独感がない

家族構成別でみると、《あてはまる》は二世帯世帯（親と子）、三世帯世帯（親と子と孫）で7割半ばと高くなっている。一方で、《あてはまらない》はひとり暮らしで3割半ばと高くなっている。



8 地域活動について

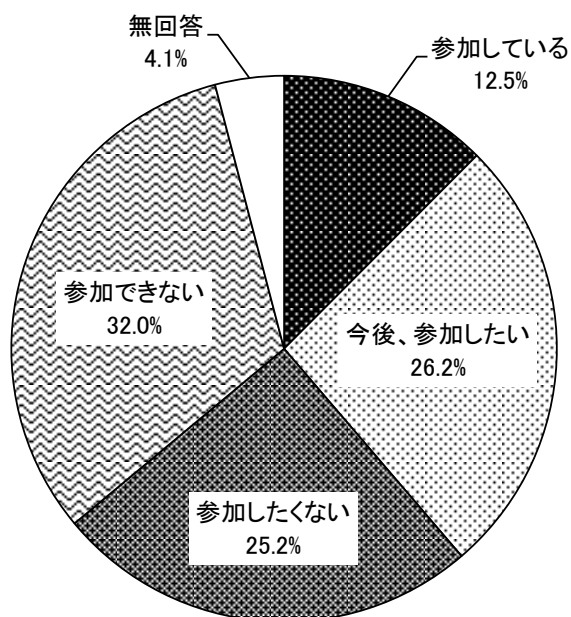
(1) ボランティア活動への参加状況

◇「参加している」は1割前半となっている

問 17 あなたは地域の行事やボランティア活動に参加していますか。(1つのみ)

ボランティア活動への参加状況については、「参加できない」が32.0%で最も高く、次いで「今後、参加したい」が26.2%、「参加したくない」が25.2%となっている。

全体 n=785

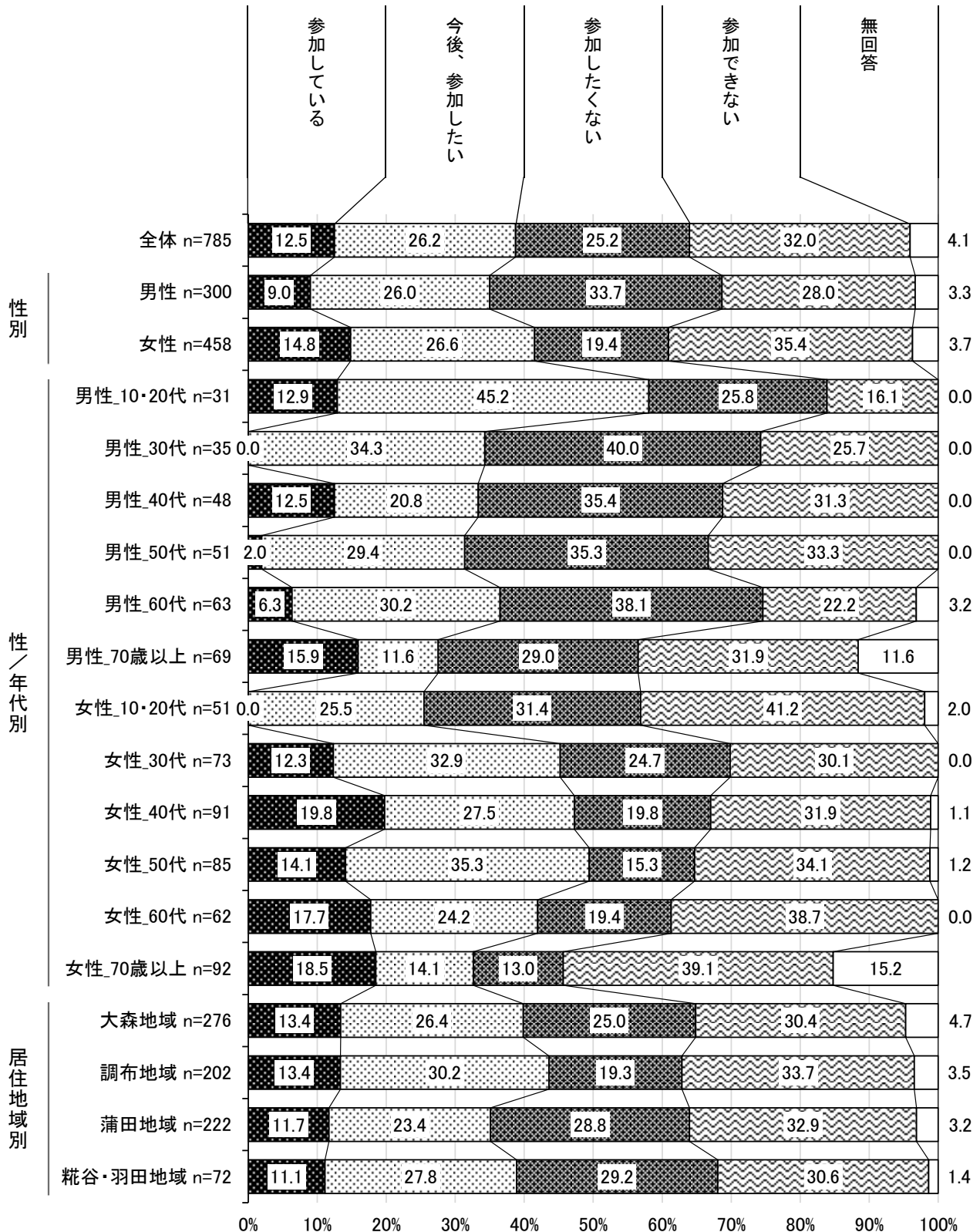


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「参加している」は男性が9.0%、女性が14.8%と、女性が5.8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「参加している」は男性30代、女性10・20代で0%、男性50代で2.0%、男性60代で6.3%となっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「参加している」が1割台となっている。



(2) 地域活動における新型コロナウイルス感染症の影響

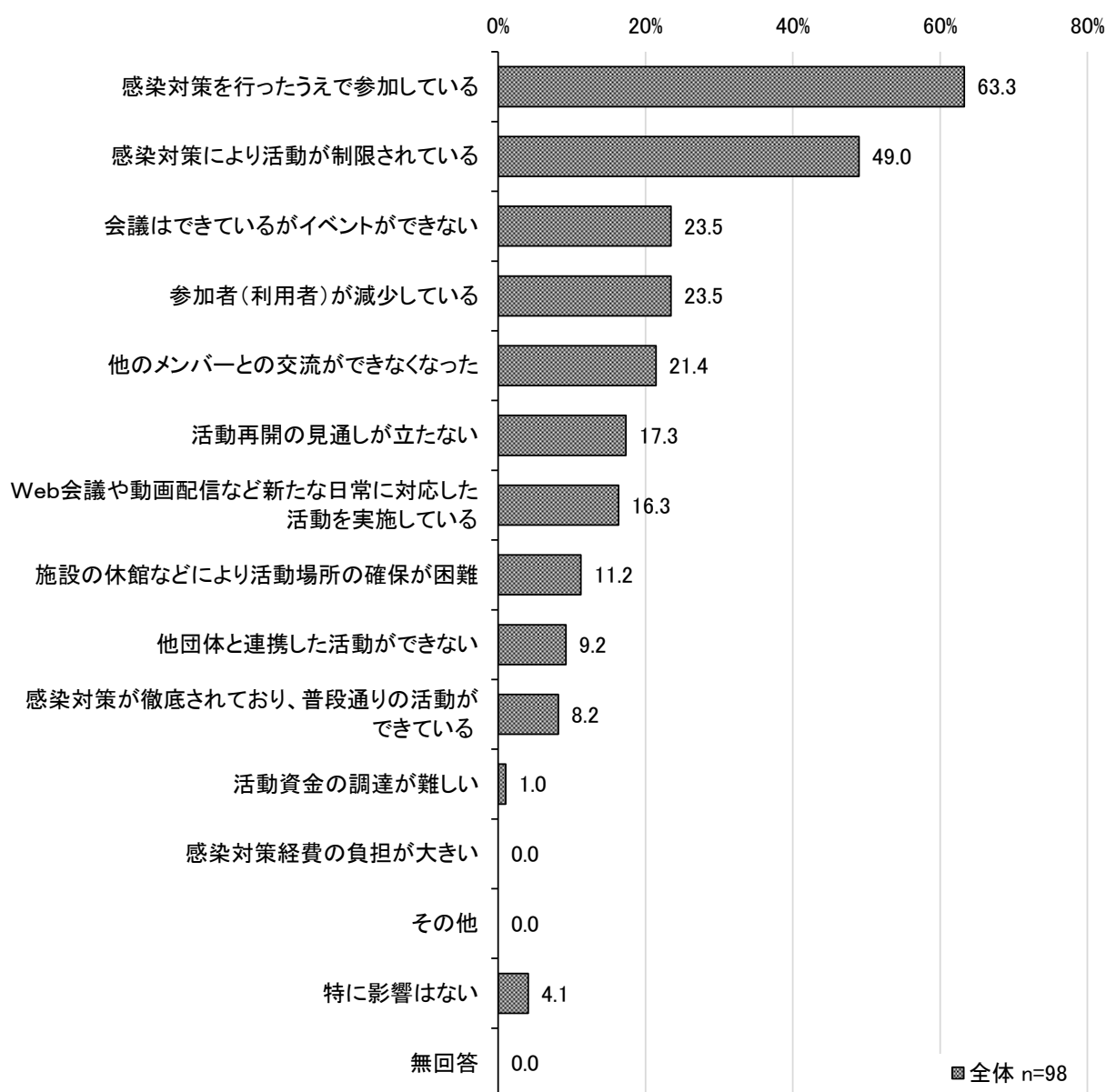
◇「感染対策を行ったうえで参加している」が6割前半で最も高くなっている

【問 17で「参加している」と回答した方に伺います。】

問 17-1 参加している地域活動で、新型コロナウイルス感染症の影響はどのようなものがあると感じますか。(いくつでも)

地域活動における新型コロナウイルス感染症の影響については、「感染対策を行ったうえで参加している」が63.3%で最も高く、次いで「感染対策により活動が制限されている」が49.0%、「会議はできているがイベントができない」、「参加者（利用者）が減少している」がともに23.5%となっている。

なお、「特に影響はない」は4.1%となっている。



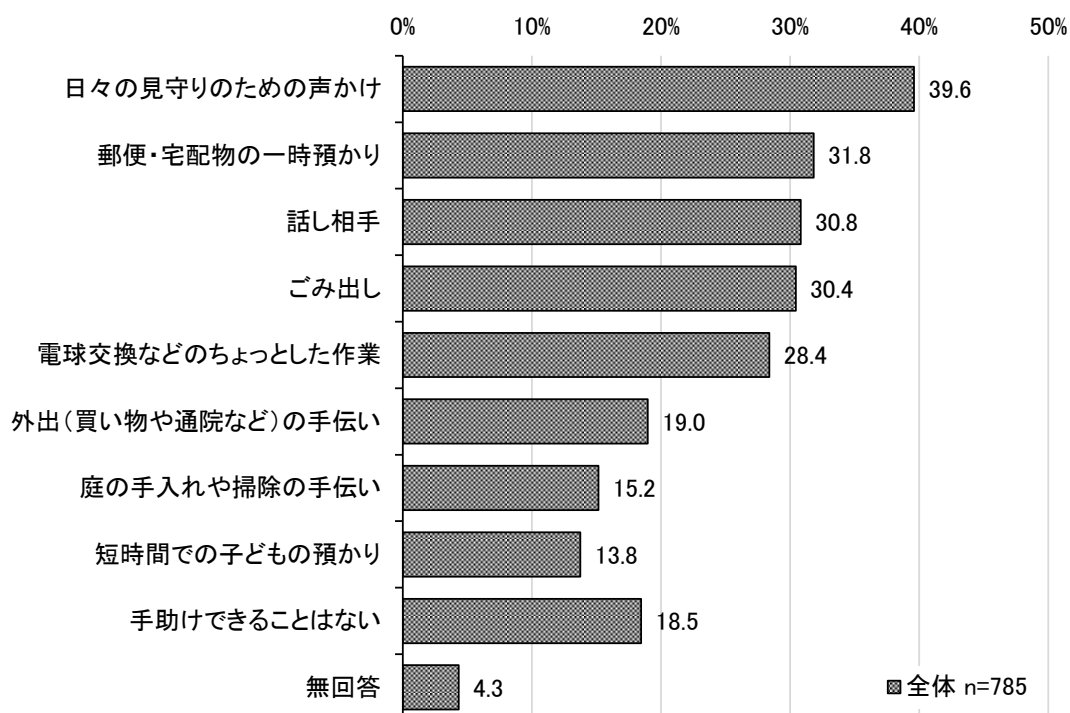
(3) 近所の方への手助けとしてできること

◇「日々の見守りのための声かけ」が約4割で最も高くなっている

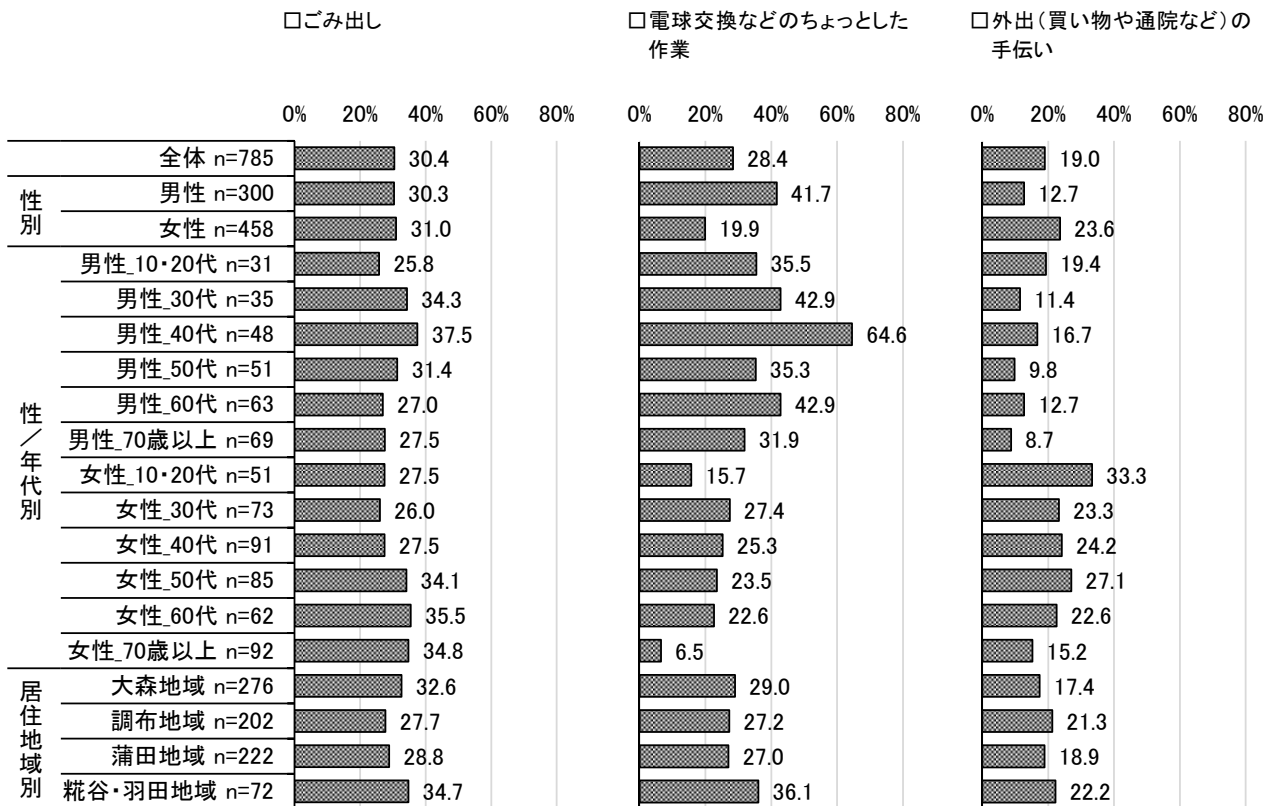
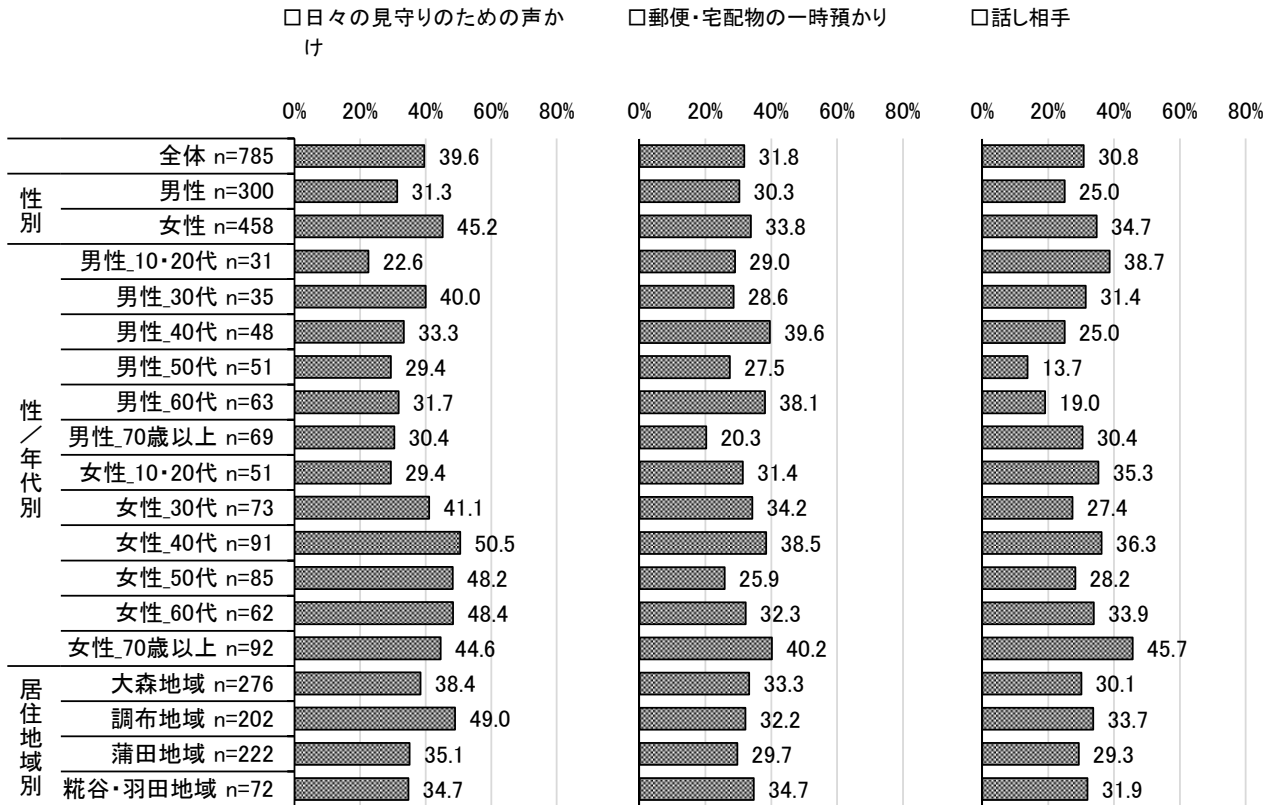
**問 18 あなたが近所の方から次のことを頼まれた場合、手助けできると思うことを教えてください。
(いくつでも)**

近所の方への手助けとしてできることについては、「日々の見守りのための声かけ」が39.6%で最も高く、次いで「郵便・宅配物の一時預かり」が31.8%、「話し相手」が30.8%となっている。

なお、「手助けできることはない」は18.5%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別で見ると、男性では「電球交換などのちょっとした作業」が最も高く、女性では「日々の見守りのための声かけ」が最も高くなっている。「電球交換などのちょっとした作業」は男性が41.7%、女性が19.9%と、男性が21.8ポイント上回っている。「日々の見守りのための声かけ」は男性が31.3%、女性が45.2%と、女性が13.9ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「日々の見守りのための声かけ」はすべての年代で女性が男性を上回っている。「話し相手」は女性70歳以上で4割半ばと高くなっている。「電球交換などのちょっとした作業」は男性40代で6割半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、大森地域、調布地域、蒲田地域では「日々の見守りのための声かけ」が最も高く、糀谷・羽田地域では「電球交換などのちょっとした作業」が最も高くなっている。

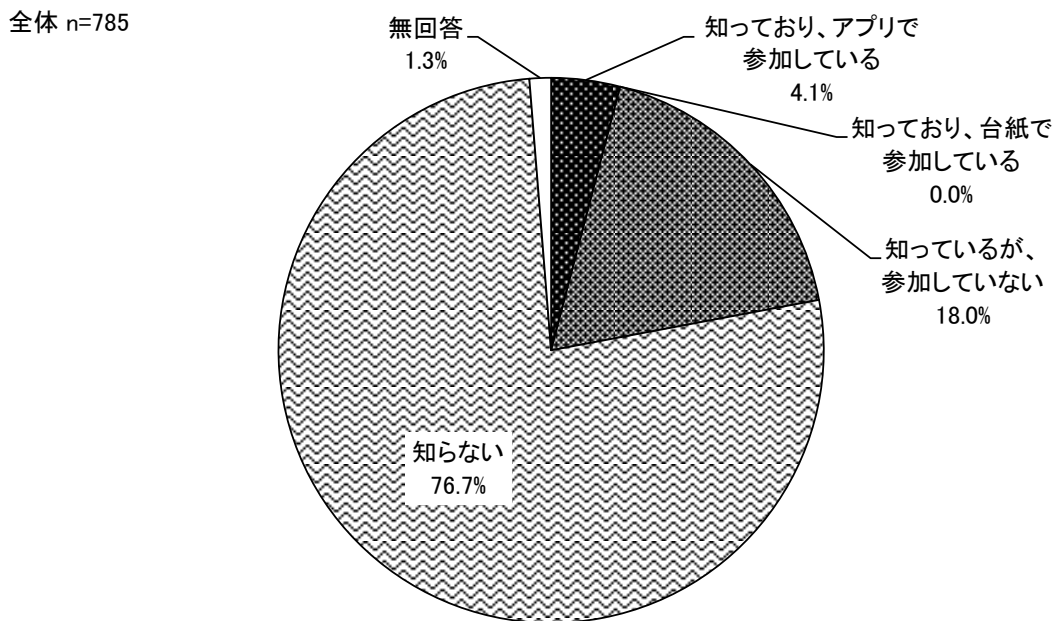
9 健康づくりについて

(1) 「はねびよん健康ポイント」の認知度

◇ 《知っている》（「知っており、アプリで参加している」、「知っており、台紙で参加している」、「知っているが、参加していない」の合計値）は2割前半となっている

**問 19 大田区の健康づくりポイント事業「はねびよん健康ポイント」を知っていますか。
（1つのみ）**

“はねびよん健康ポイント”の認知度については、「知っており、アプリで参加している」、「知っており、台紙で参加している」、「知っているが、参加していない」の合計値《知っている》は22.1%である一方で、「知らない」は76.7%と、「知らない」が54.6ポイント上回っている。

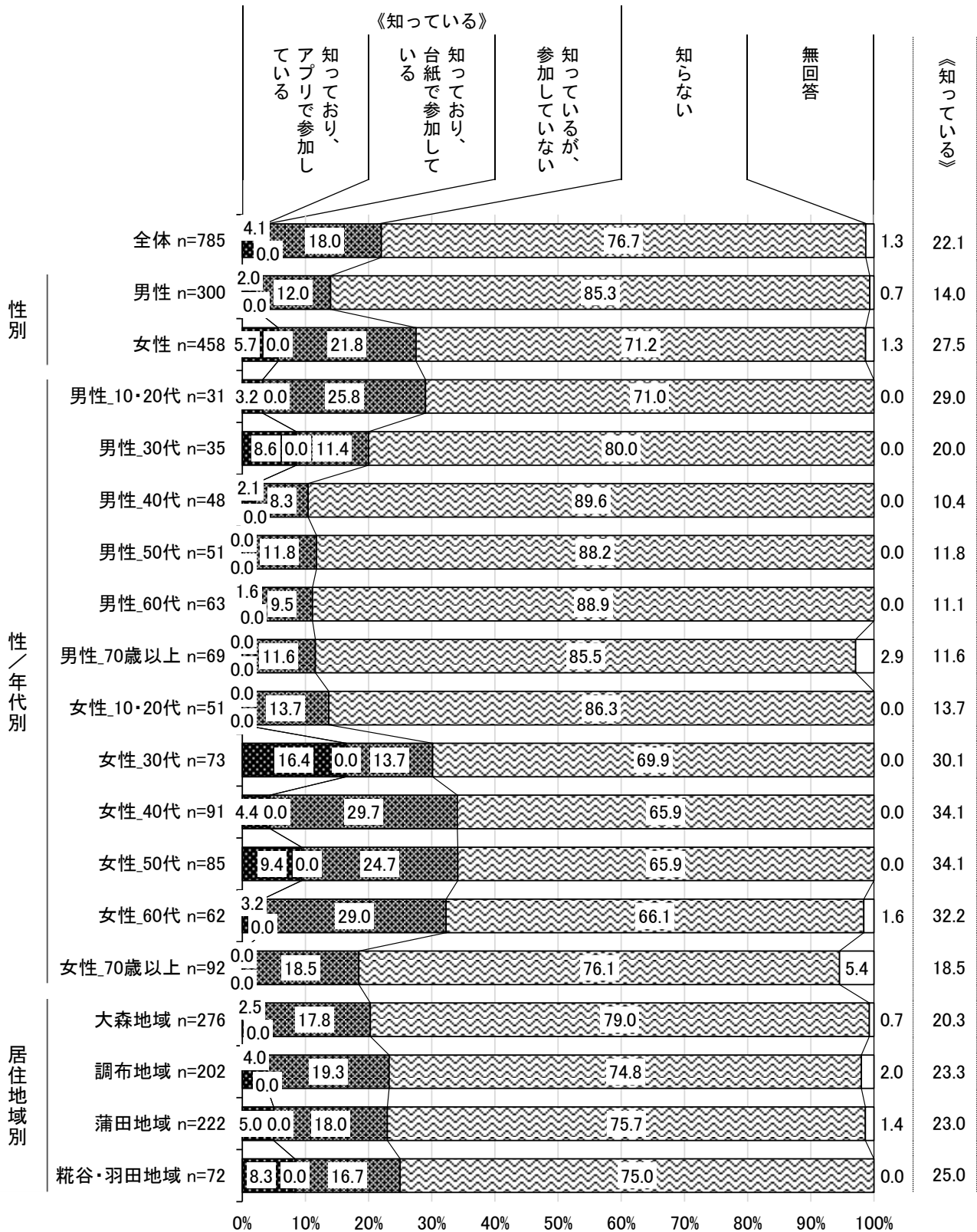


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、《知っている》は男性が14.0%、女性が27.5%と、女性が13.5ポイント上回っている。

性／年代別でみると、《知っている》は男性では10・20代で3割弱、女性では30代から60代で3割台と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で《知っている》が2割台となっている。



10 喫煙について

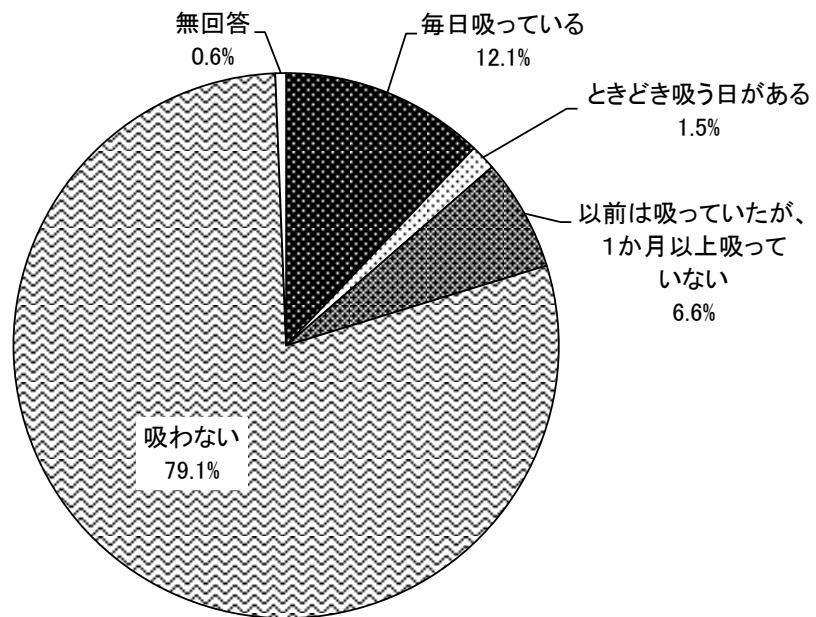
(1) 喫煙状況

◇「毎日吸っている」は1割前半となっている

問 20 あなたは、たばこを吸いますか。(1つのみ)

喫煙状況については、「吸わない」が79.1%で最も高く、次いで「毎日吸っている」が12.1%、「以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない」が6.6%となっている。

全体 n=785

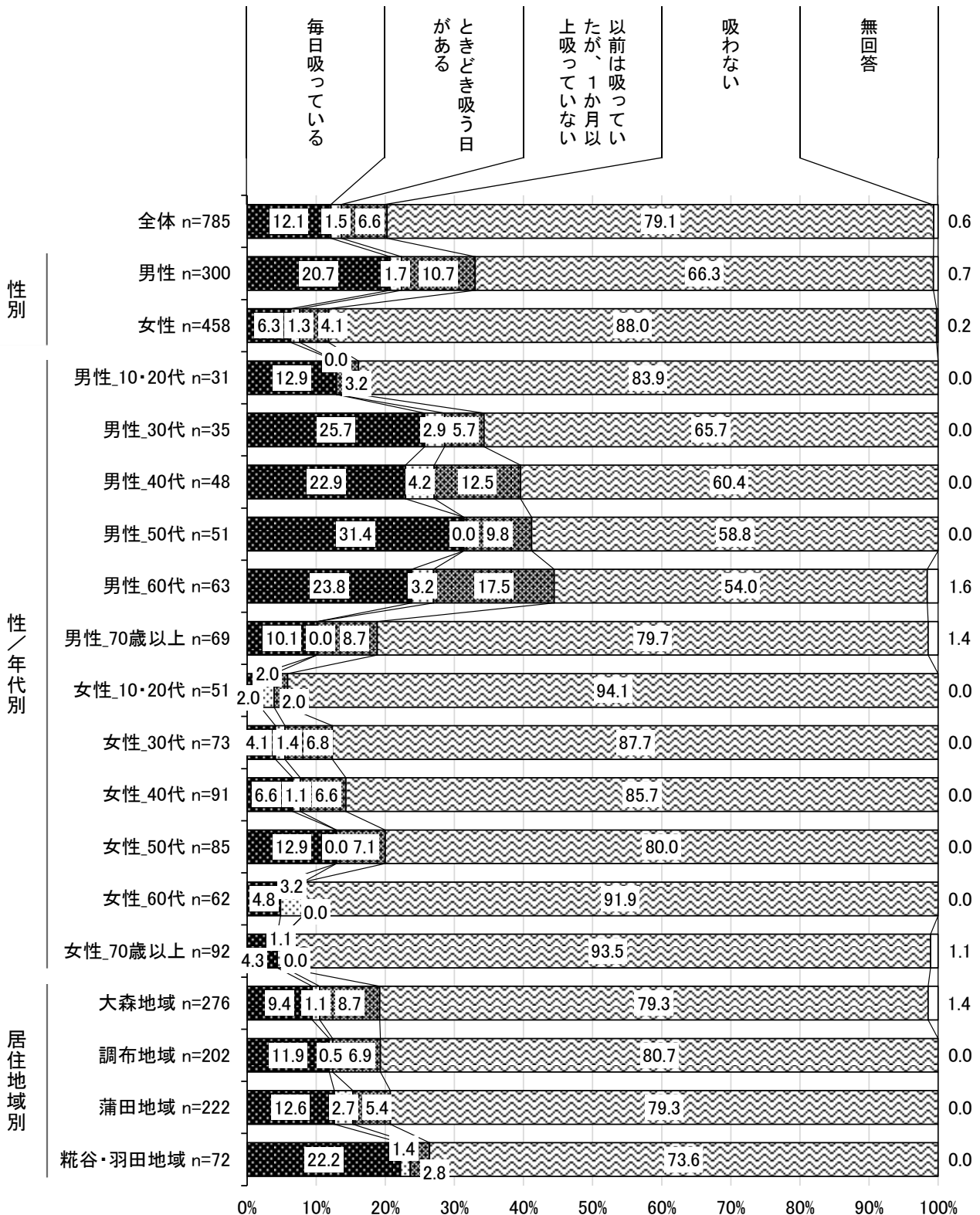


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「毎日吸っている」は男性が 20.7%、女性が 6.3%と、男性が 14.4 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「毎日吸っている」は男性では 50 代で 3 割前半、女性では 50 代で 1 割前半と高くなっており、すべての年代で男性が女性を上回っている。

居住地域別でみると、「毎日吸っている」は糞谷・羽田地域で 2 割前半と高くなっている。



(2) 喫煙の際に気をつけていること

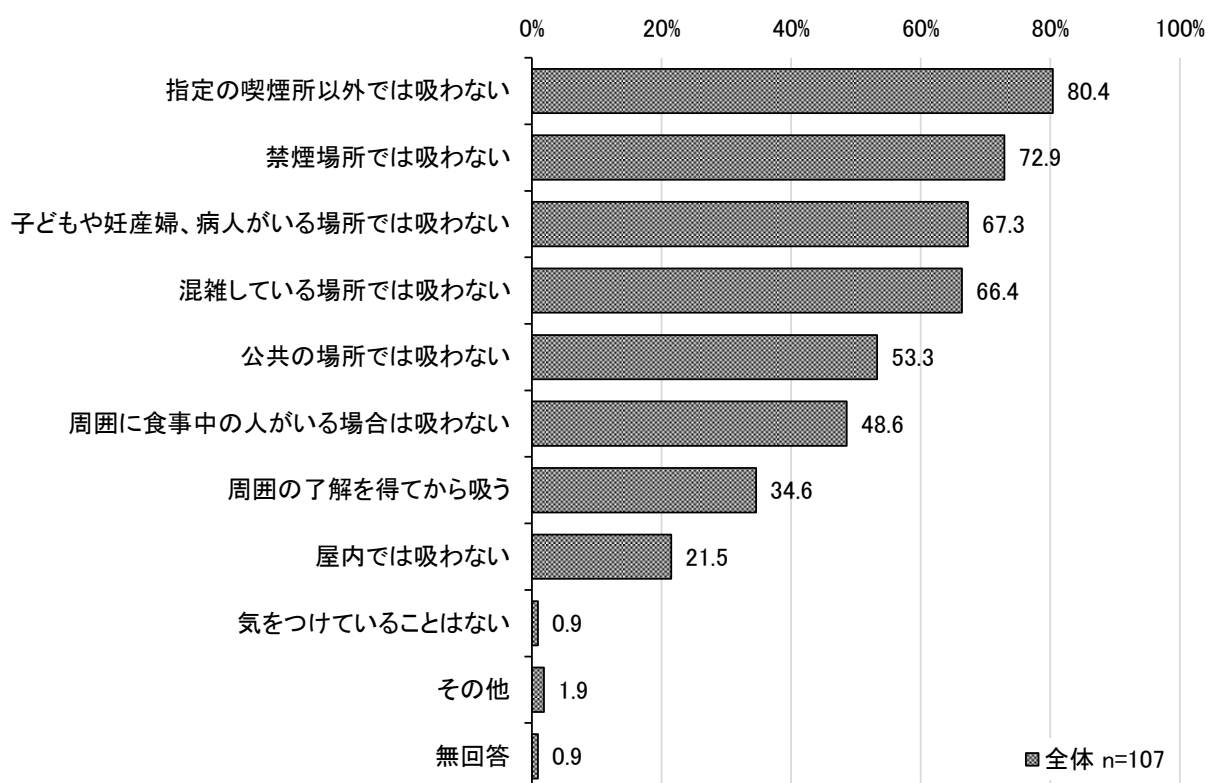
◇「指定の喫煙所以外では吸わない」が約8割で最も高くなっている

【問 20 で「毎日吸っている」「ときどき吸う日がある」と回答した方に伺います。】

問 20-1 たばこを吸うときに気をつけていることはありますか。(いくつでも)

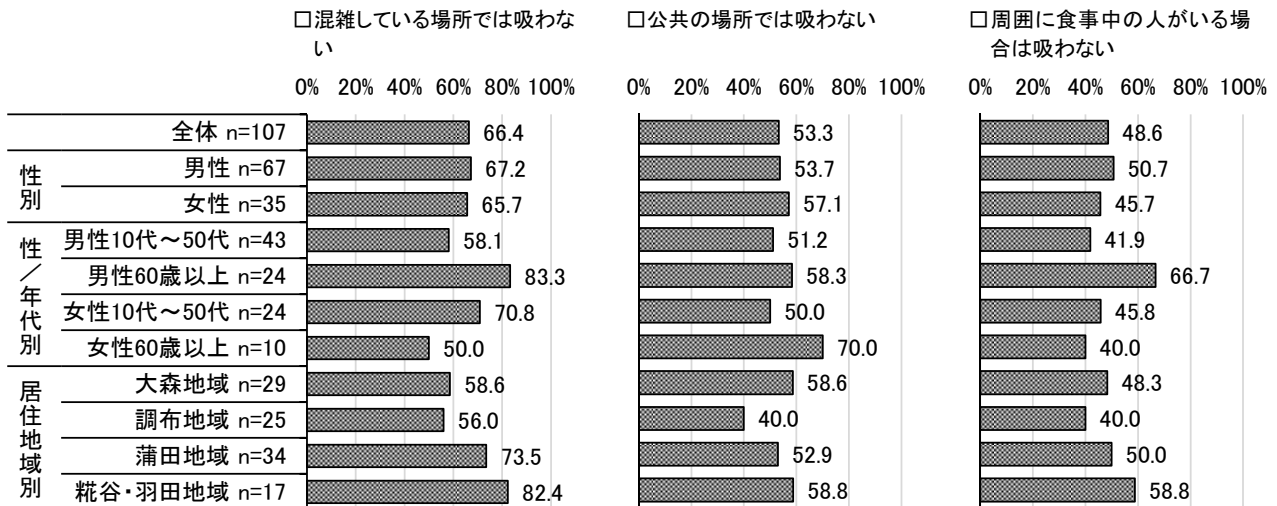
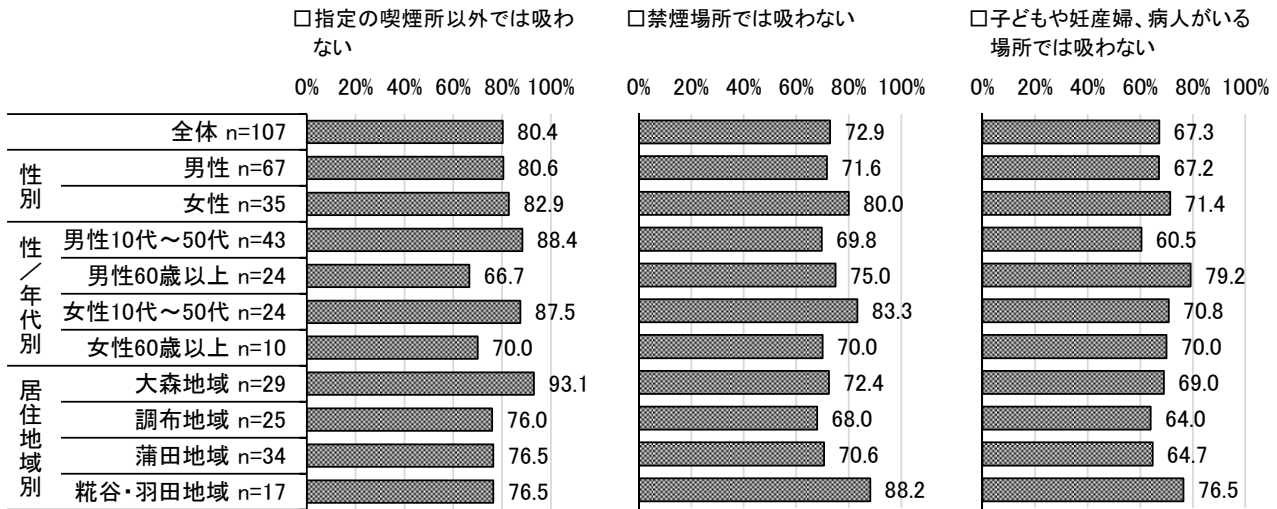
喫煙の際に気をつけていることについては、「指定の喫煙所以外では吸わない」が80.4%で最も高く、次いで「禁煙場所では吸わない」が72.9%、「子どもや妊産婦、病人がいる場所では吸わない」が67.3%となっている。

なお、「気をつけていることはない」は0.9%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）

性別で見ると、「禁煙場所では吸わない」は男性が71.6%、女性が80.0%と、女性が8.4ポイント上回っている。



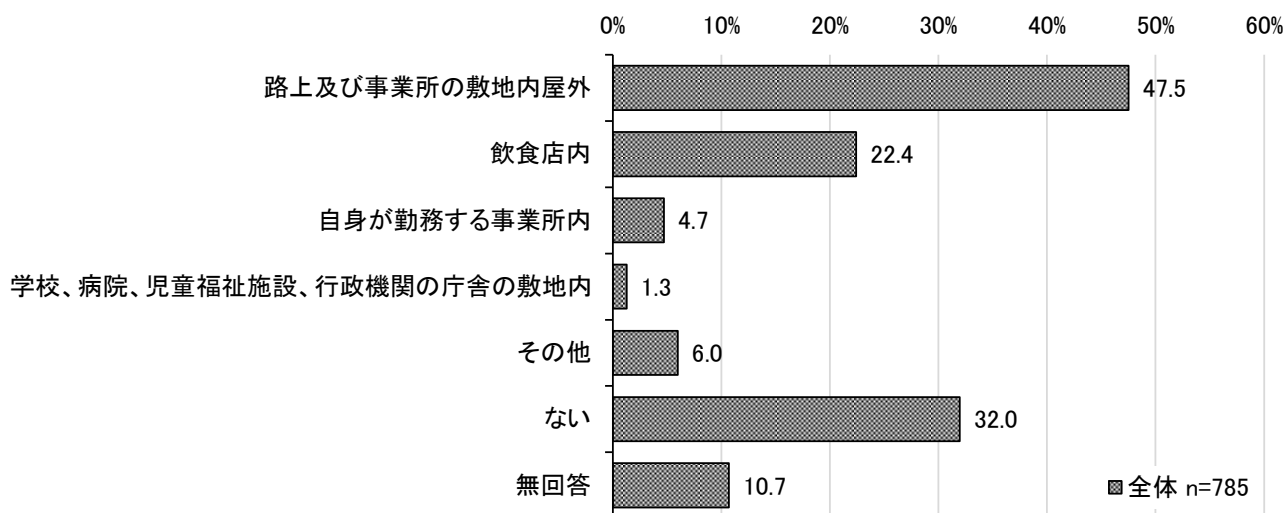
(3) 受動喫煙を経験した場所

◇「路上及び事業所の敷地内屋外」が5割弱で最も高くなっている

問 21 1年以内に、受動喫煙を経験された場所があれば教えてください。(いくつでも)

受動喫煙を経験した場所については、「路上及び事業所の敷地内屋外」が47.5%で最も高く、次いで「飲食店内」が22.4%、「自身が勤務する事業所内」が4.7%となっている。

なお、「ない」は32.0%となっている。

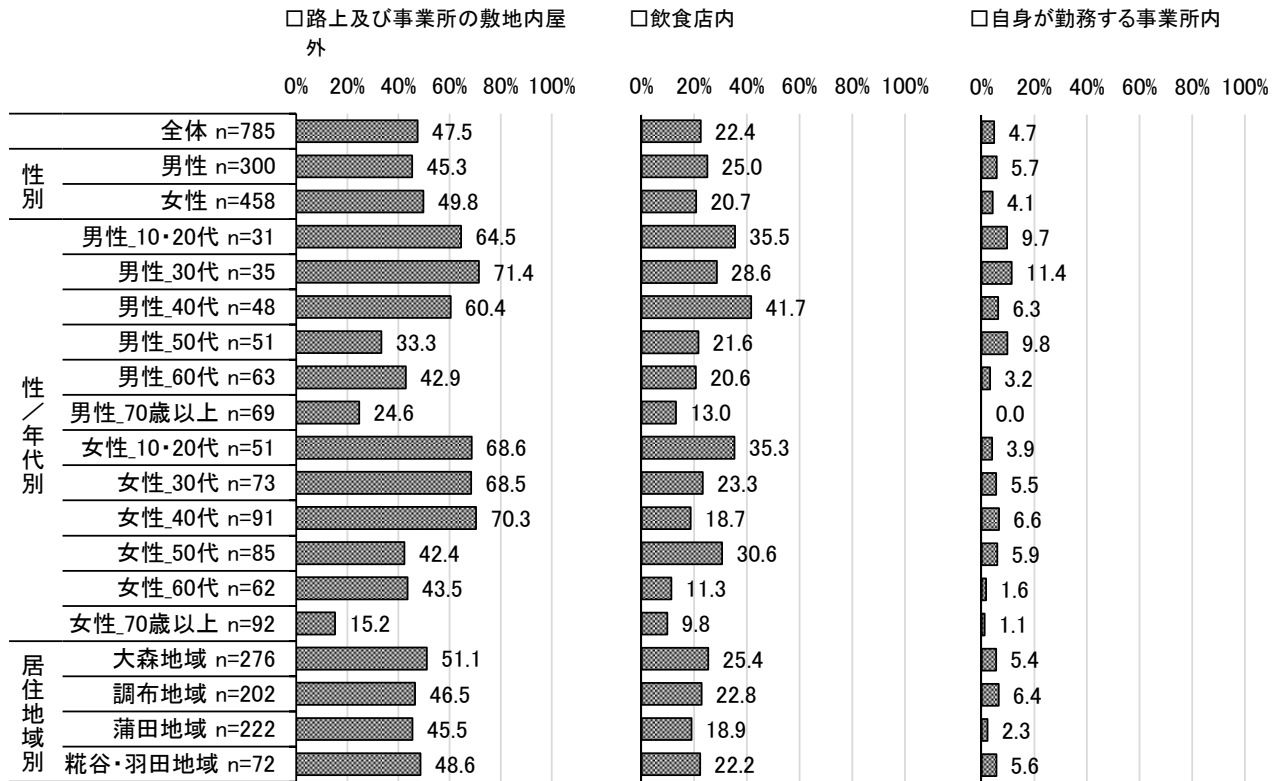


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性、女性ともに「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高くなっている。

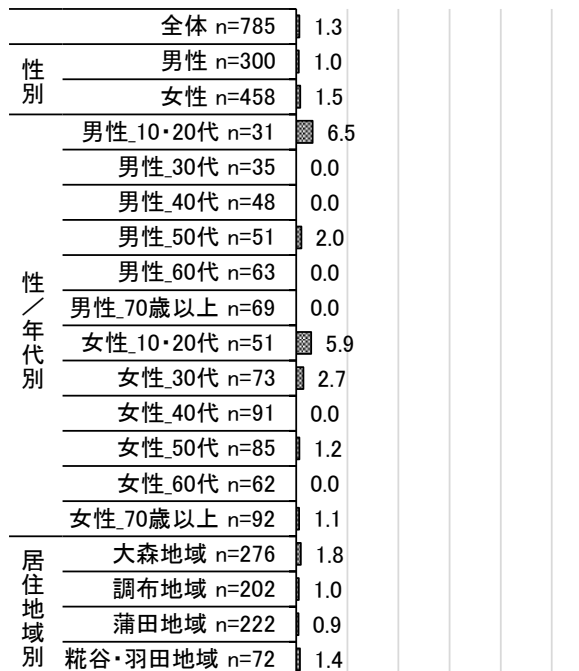
性／年代別でみると、「路上及び事業所の敷地内屋外」は男性 30 代、女性 40 代で 7 割台、男性 10・20 代、男性 40 代、女性 10・20 代、女性 30 代で 6 割台となっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「路上及び事業所の敷地内屋外」が最も高く、大森地域で 5 割前半となっている。



□学校、病院、児童福祉施設、
行政機関の庁舎の敷地内

0% 20% 40% 60% 80% 100%



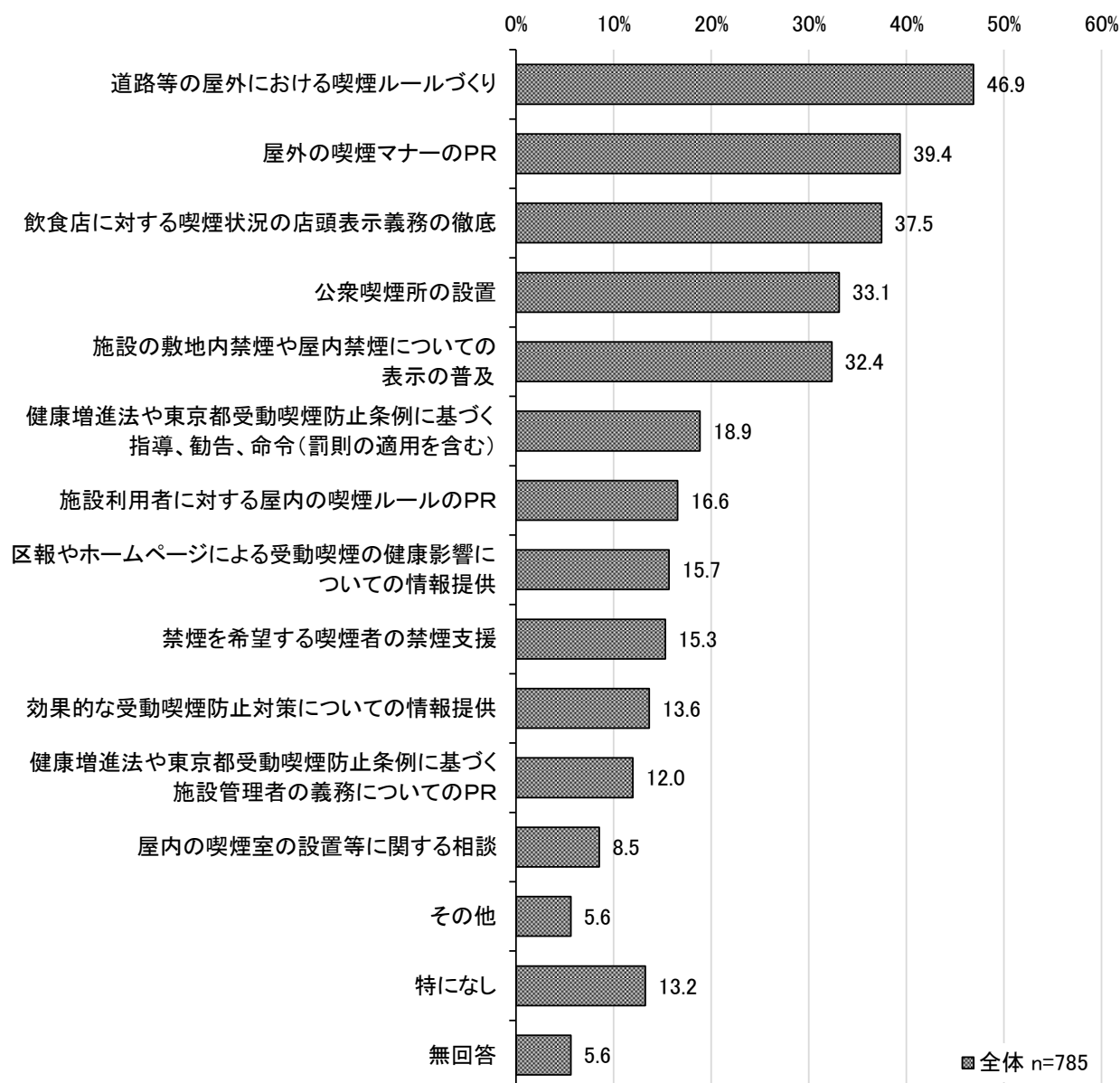
(4) 大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組

◇「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が5割弱で最も高くなっている

問 22 受動喫煙防止のために大田区に望むことは何ですか。(いくつでも)

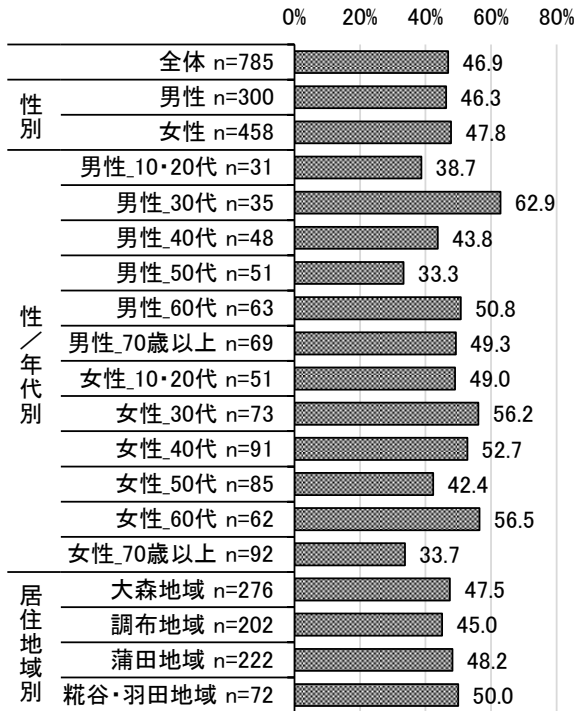
大田区が推進すべき、受動喫煙防止に向けた取組については、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が46.9%で最も高く、次いで「屋外の喫煙マナーのPR」が39.4%、「飲食店に対する喫煙状況の店頭表示義務の徹底」が37.5%となっている。

なお、「特になし」は13.2%となっている。

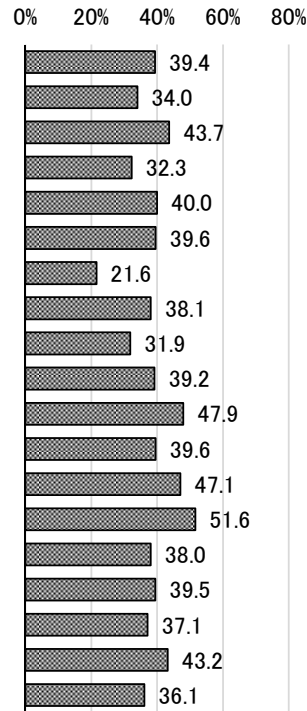


■性別・性／年代別・居住地域別

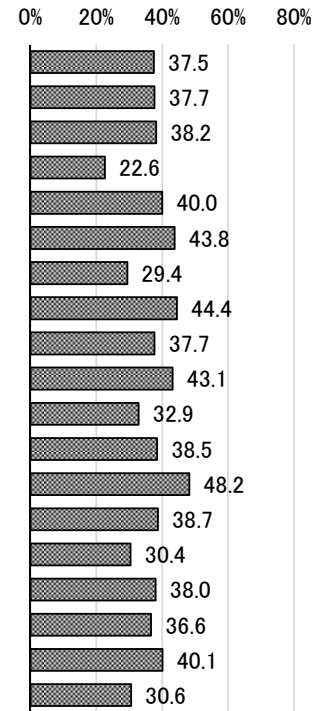
□道路等の屋外における喫煙
ルールづくり



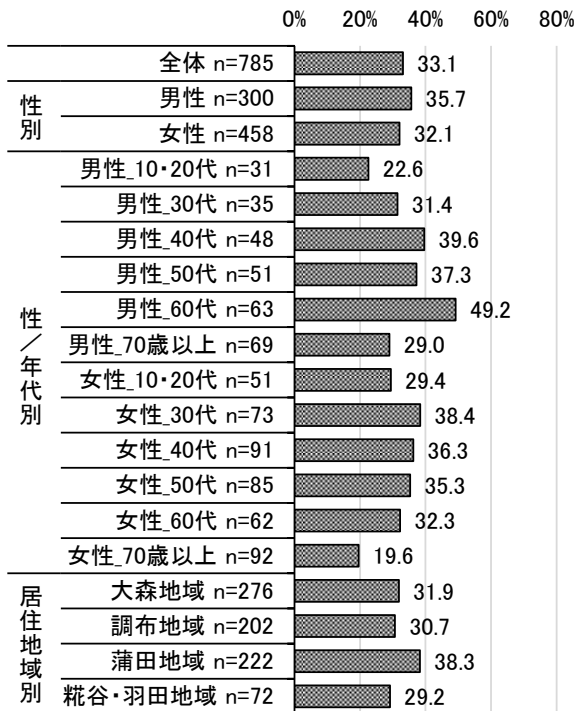
□屋外の喫煙マナーのPR



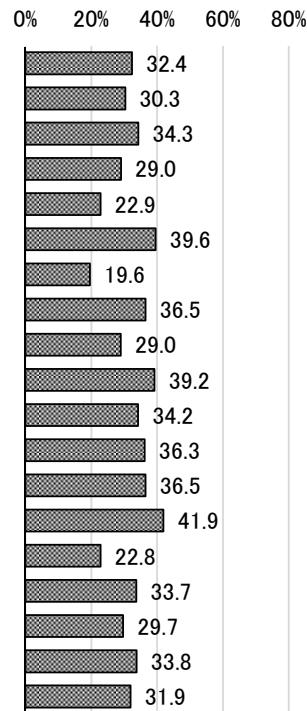
□飲食店に対する喫煙状況の
店頭表示義務の徹底



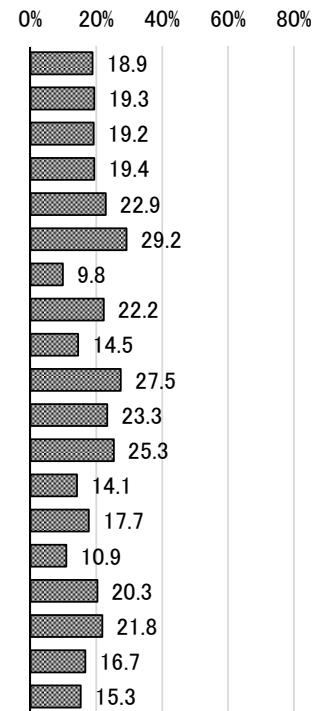
□公衆喫煙所の設置



□施設の敷地内禁煙や屋内禁
煙についての表示の普及



□健康増進法や東京都受動喫
煙防止条例に基づく指導、勸
告、命令(罰則の適用を含む)



性別で見ると、「屋外の喫煙マナーのPR」は男性が34.0%、女性が43.7%と、女性が9.7ポイント上回っている。

性／年代別で見ると、「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」は男性では30代で6割前半、女性では30代、60代で6割弱と高くなっている。「公衆喫煙所の設置」は男性60代で約5割と高くなっている。

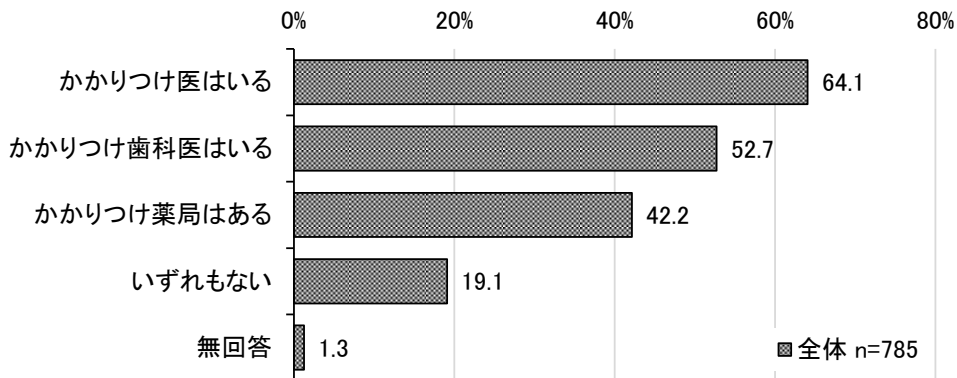
居住地域別で見ると、すべての地域で「道路等の屋外における喫煙ルールづくり」が最も高く、糀谷・羽田地域で5割となっている。

(1) かかりつけの医療機関

◇「かかりつけ医はいる」は6割半ばとなっている

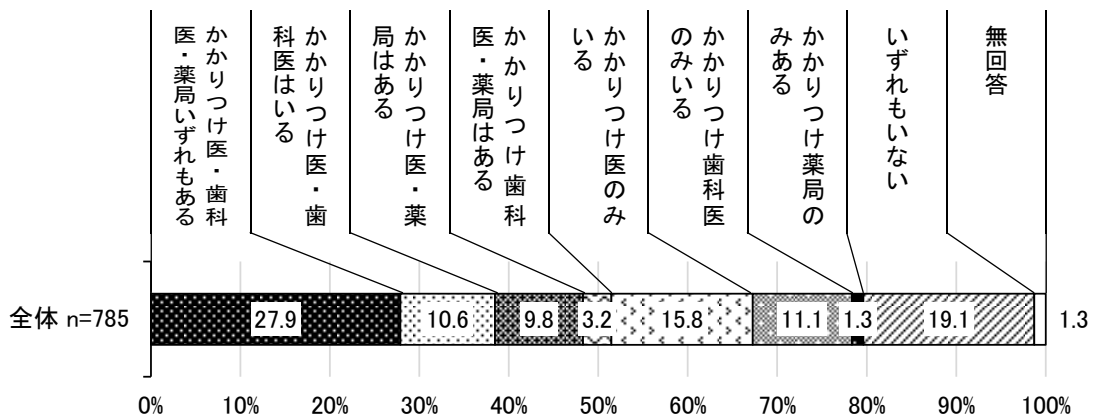
問 23 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。(いくつでも)

かかりつけの医療機関については、「かかりつけ医はいる」が64.1%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医はいる」が52.7%、「かかりつけ薬局はある」が42.2%となっている。
 なお、「いずれもない」は19.1%となっている。



■ かかりつけの医療機関の状況

かかりつけの医療機関の状況については、「かかりつけ医・歯科医・薬局いずれもある」が27.9%、「かかりつけ医のみいる」が15.8%となっている。

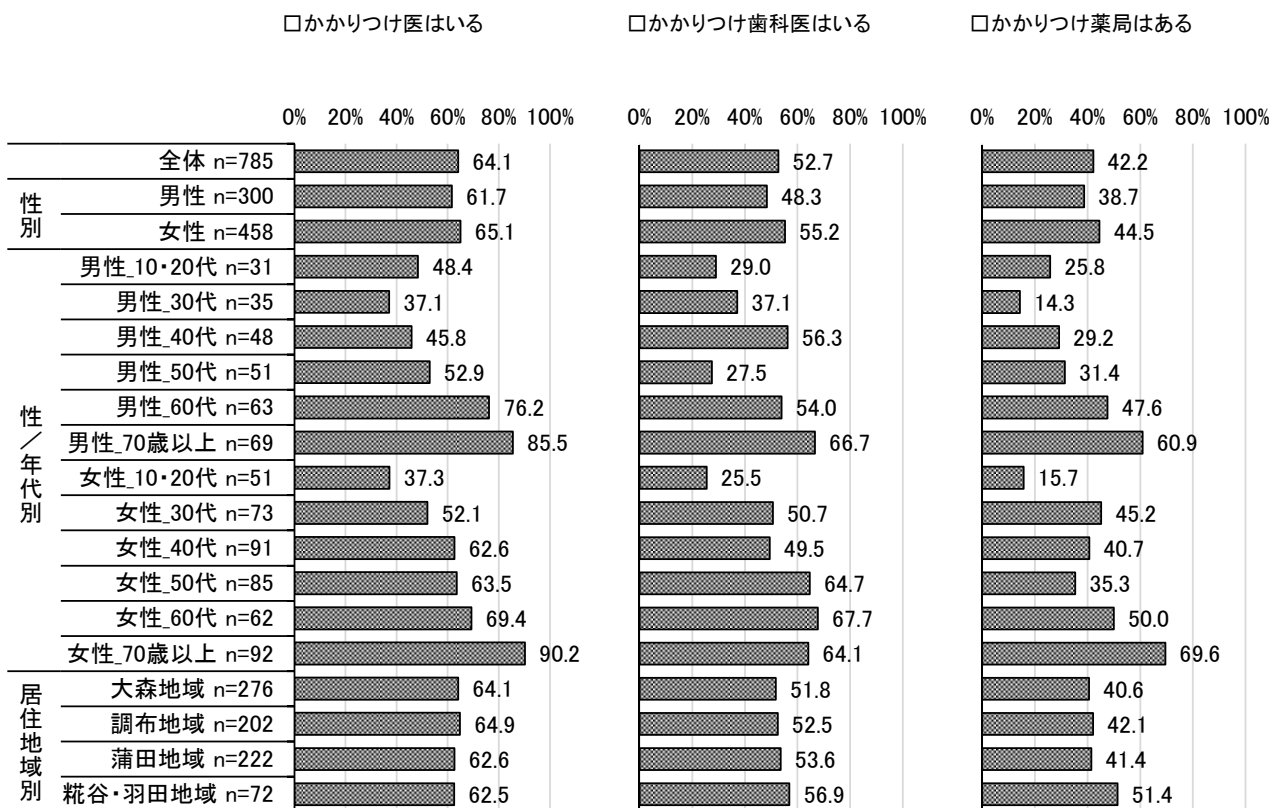


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「かかりつけ医はいる」は男性が61.7%、女性が65.1%と、女性が3.4ポイント上回っている。「かかりつけ歯科医はいる」は男性が48.3%、女性が55.2%と、女性が6.9ポイント上回っている。「かかりつけ薬局はある」は男性が38.7%、女性が44.5%と、女性が5.8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「かかりつけ医はいる」は男性では70歳以上で8割半ば、女性では70歳以上で約9割と高くなっている。「かかりつけ歯科医はいる」は男性では70歳以上で7割弱、女性では60代で7割弱と高くなっている。「かかりつけ薬局はある」は男性では70歳以上で約6割、女性では70歳以上で約7割と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「かかりつけ医はいる」が6割台となっている。



(2) 「在宅医療」の認知度

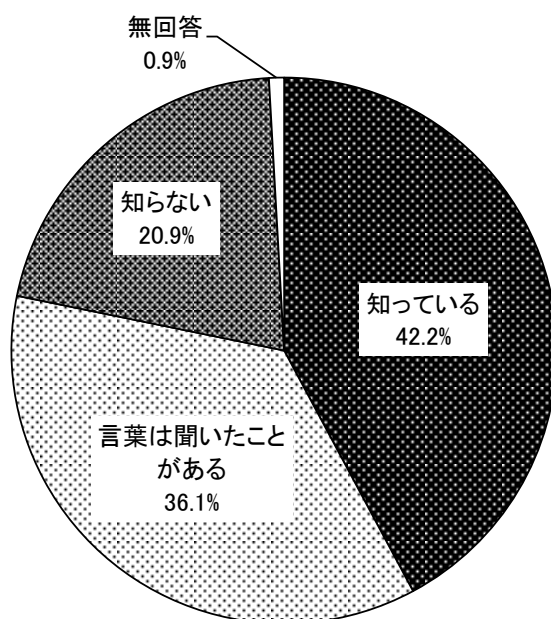
◇「知っている」は4割前半となっている

問 24 在宅医療の制度や仕組みについて知っていますか。(1つのみ)

※医師や看護師、薬剤師、理学療法士、ケアマネジャー、ホームヘルパーなど、医療や介護の専門職が連携して定期的にご自宅などを訪問し、チームとなって治療やケアを行うことで、住み慣れた自宅や施設での療養生活を支える仕組み

“在宅医療”の認知度については、「知っている」が42.2%で最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が36.1%、「知らない」が20.9%となっている。

全体 n=785

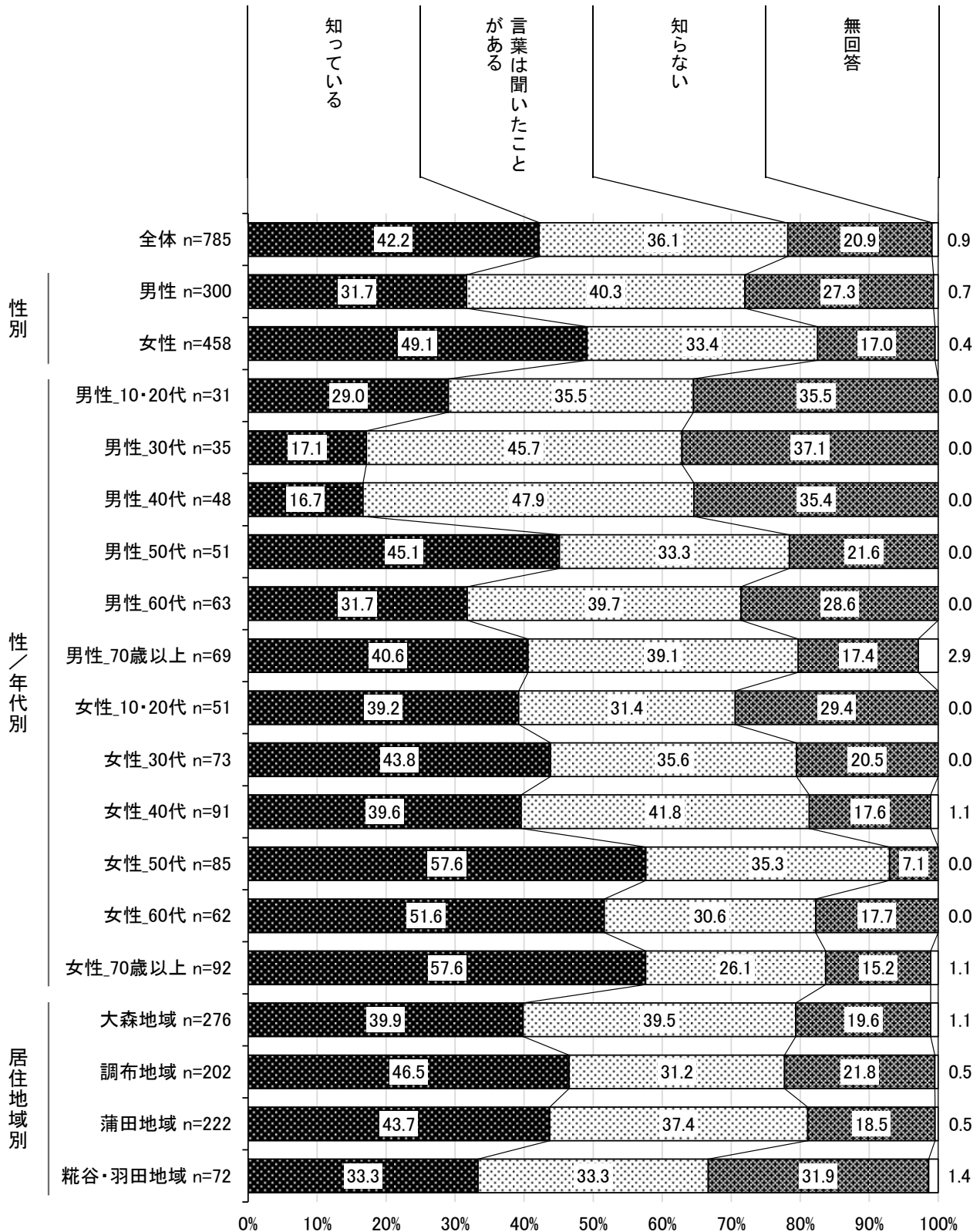


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「知っている」は男性が31.7%、女性が49.1%と、女性が17.4ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「知っている」は男性では50代、70歳以上で4割台、女性では50代から70歳以上で5割台となっており、すべての年代で女性が男性を上回っている。

居住地域別でみると、「知っている」は調布地域で5割弱と高くなっている。

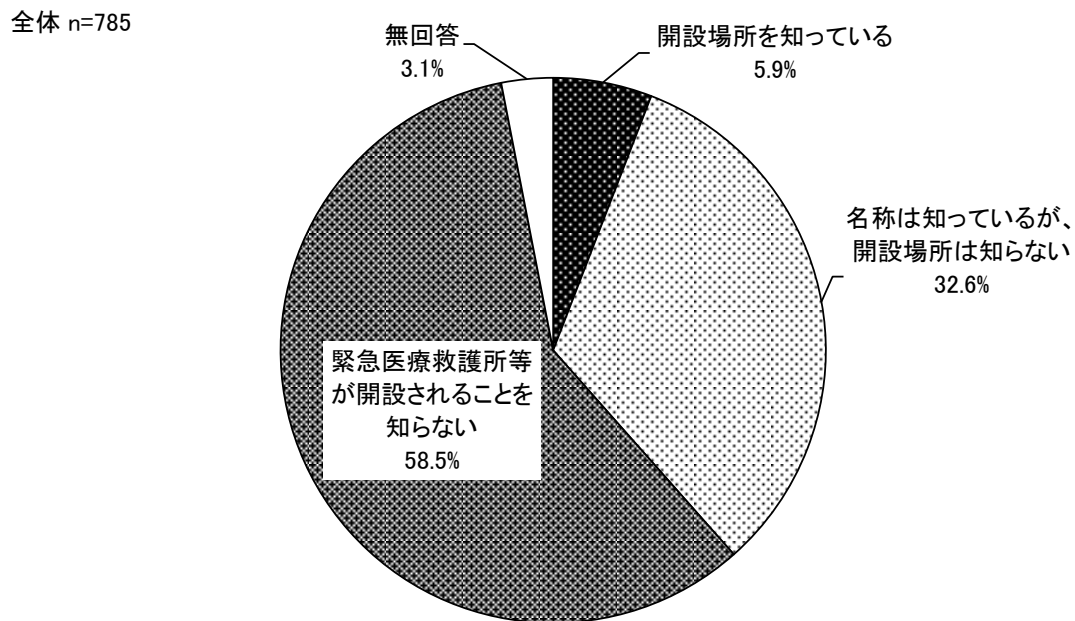


(1) 災害時の緊急医療開設場所の認知度

◇「開設場所を知っている」は1割未満となっている

問 25 区内で震度6弱以上の大地震が発生し、ライフラインが停止した場合、診療所等は休診し、緊急医療救護所（16か所）及び軽症者救護所（3か所）を開設することになっています。あなたは緊急医療救護所及び軽症者救護所の開設場所を知っていますか。（1つのみ）

災害時の緊急医療開設場所の認知度については、「緊急医療救護所等が開設されることを知らない」が58.5%で最も高く、次いで「名称は知っているが、開設場所は知らない」が32.6%、「開設場所を知っている」が5.9%となっている。

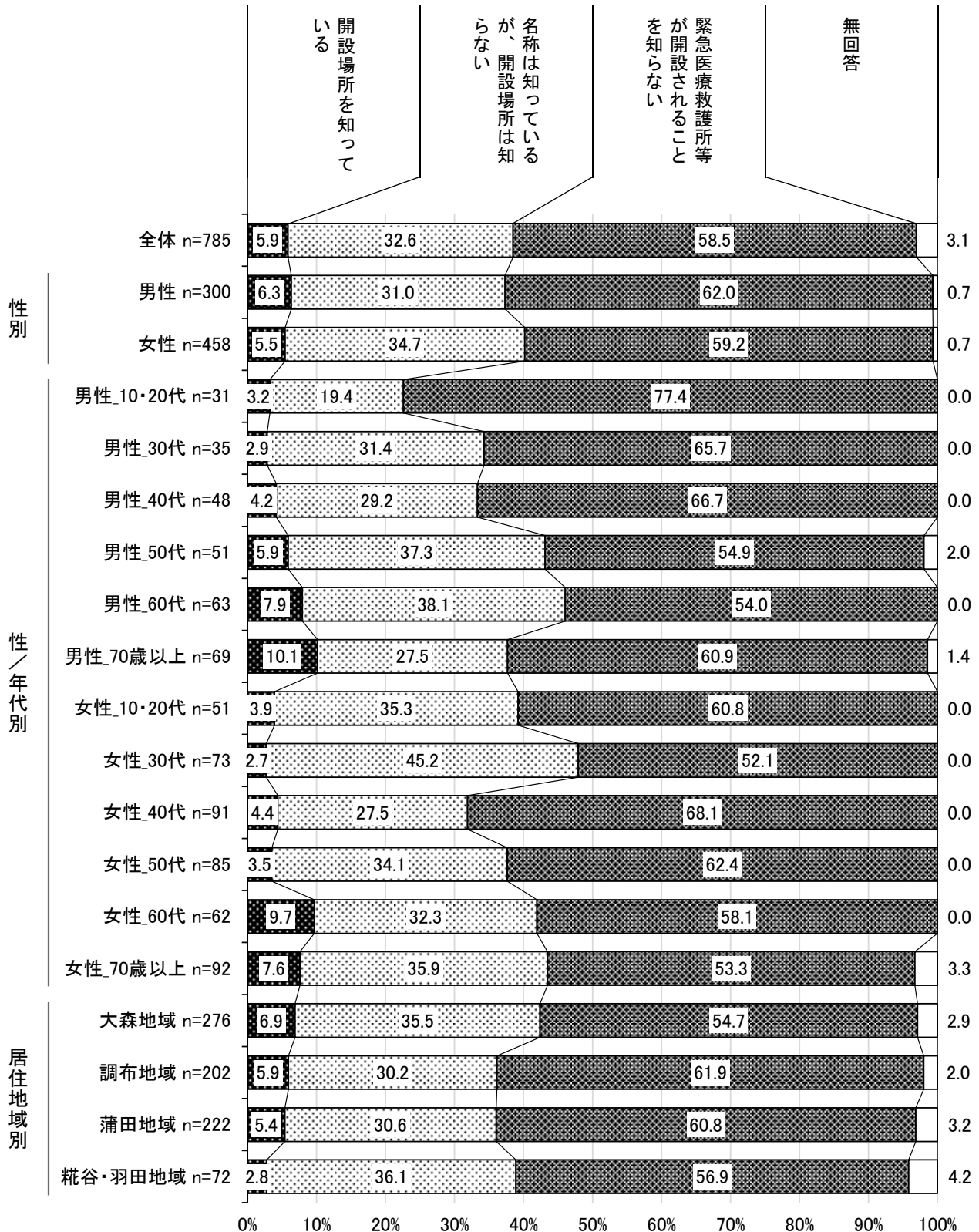


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「開設場所を知っている」は男性では70歳以上で約1割、女性では60代で約1割と高くなっている。

居住地域別でみると、「開設場所を知っている」は大森地域で1割弱と高くなっている。



13 食品ロス・フードドライブについて

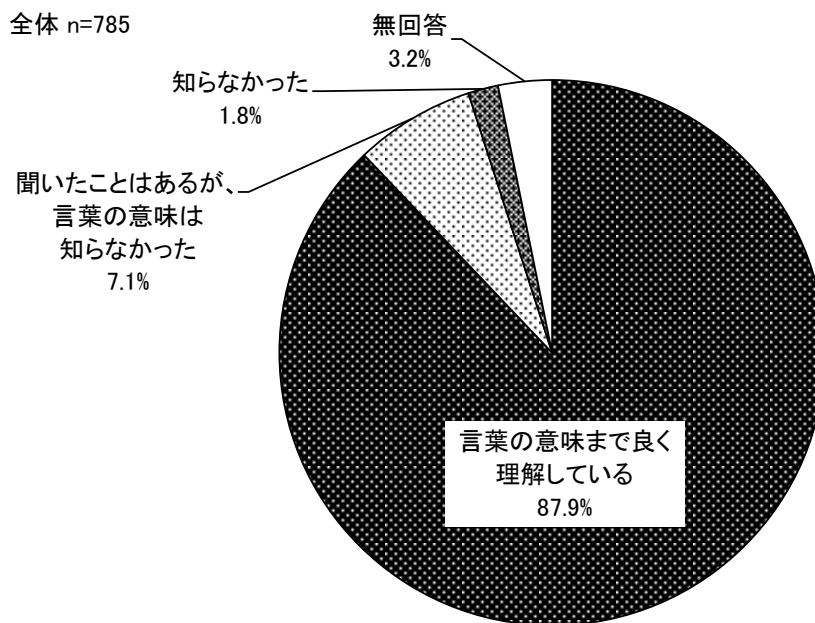
(1) 「食品ロス」の認知度

◇「言葉の意味まで良く理解している」は9割弱となっている

問 26 あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていますか。(1つのみ)

※食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品をいいます。

“食品ロス”の認知度については、「言葉の意味まで良く理解している」が87.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、言葉の意味は知らなかった」が7.1%、「知らなかった」が1.8%となっている。

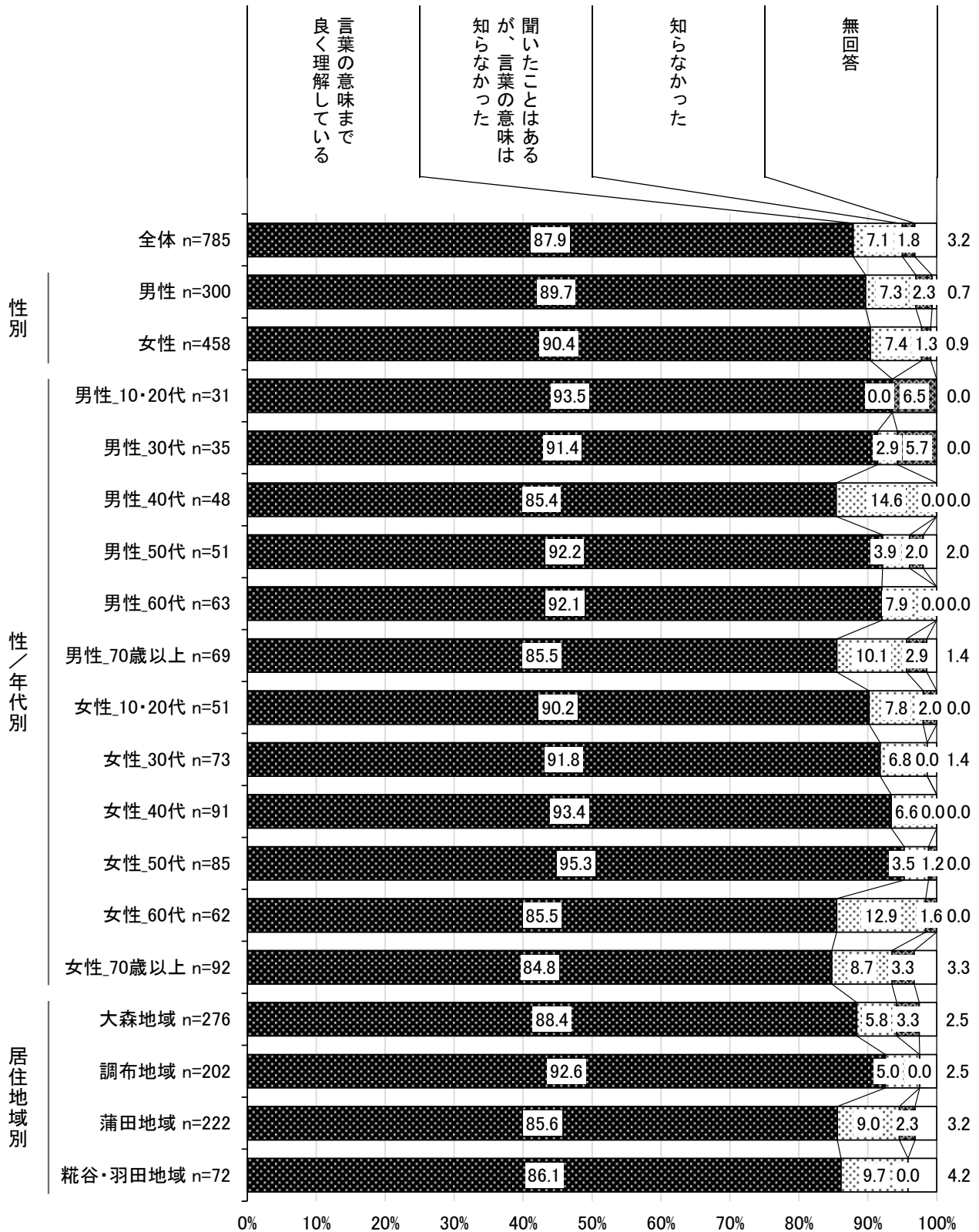


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、大きな差はみられない。

性／年代別でみると、「言葉の意味まで良く理解している」は男性10・20代、男性30代、男性50代、男性60代、女性10・20代から50代で9割台となっている。

居住地域別でみると、「言葉の意味まで良く理解している」は調布地域で9割前半と高くなっている。

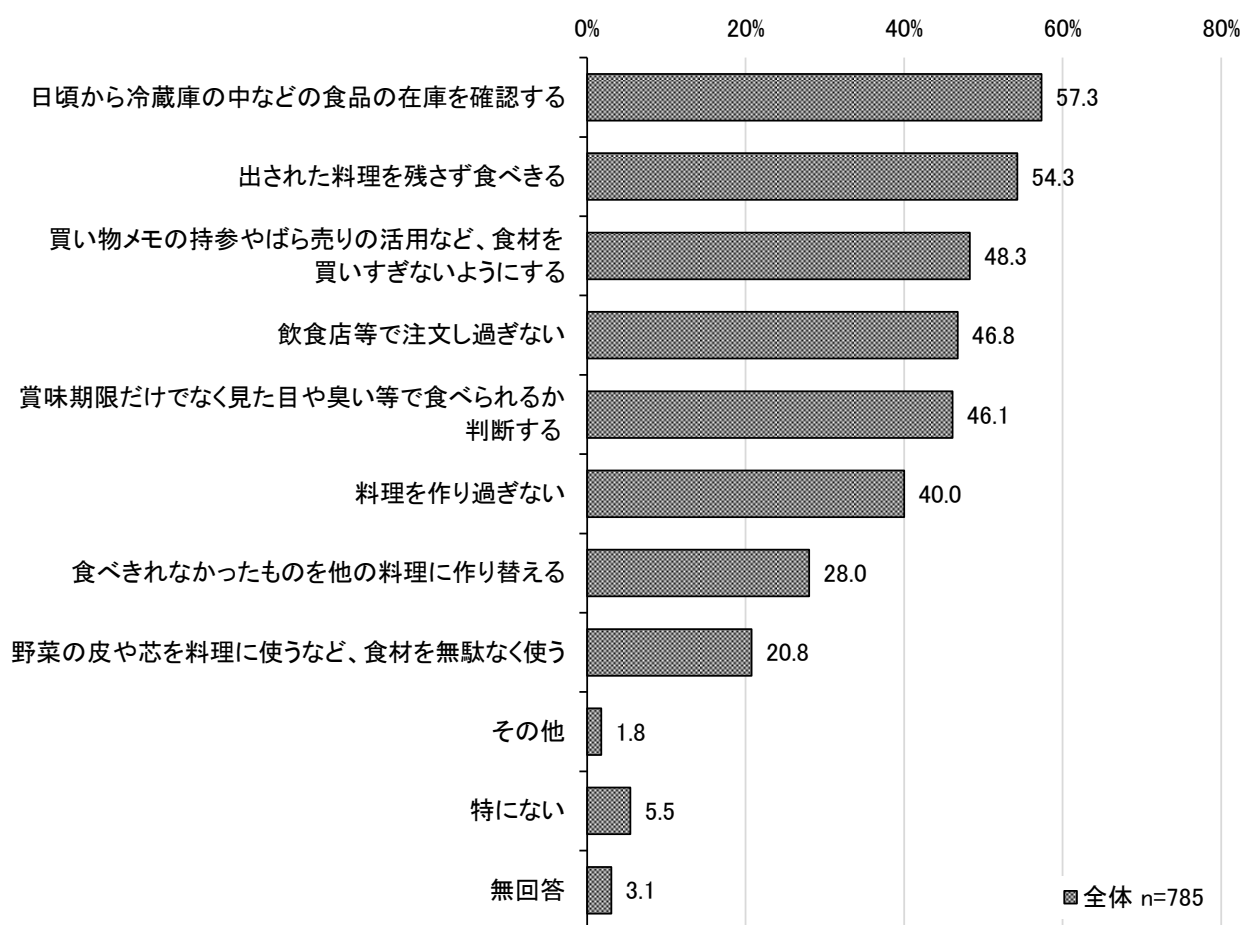


(2) 「食品ロス」を減らすための取組

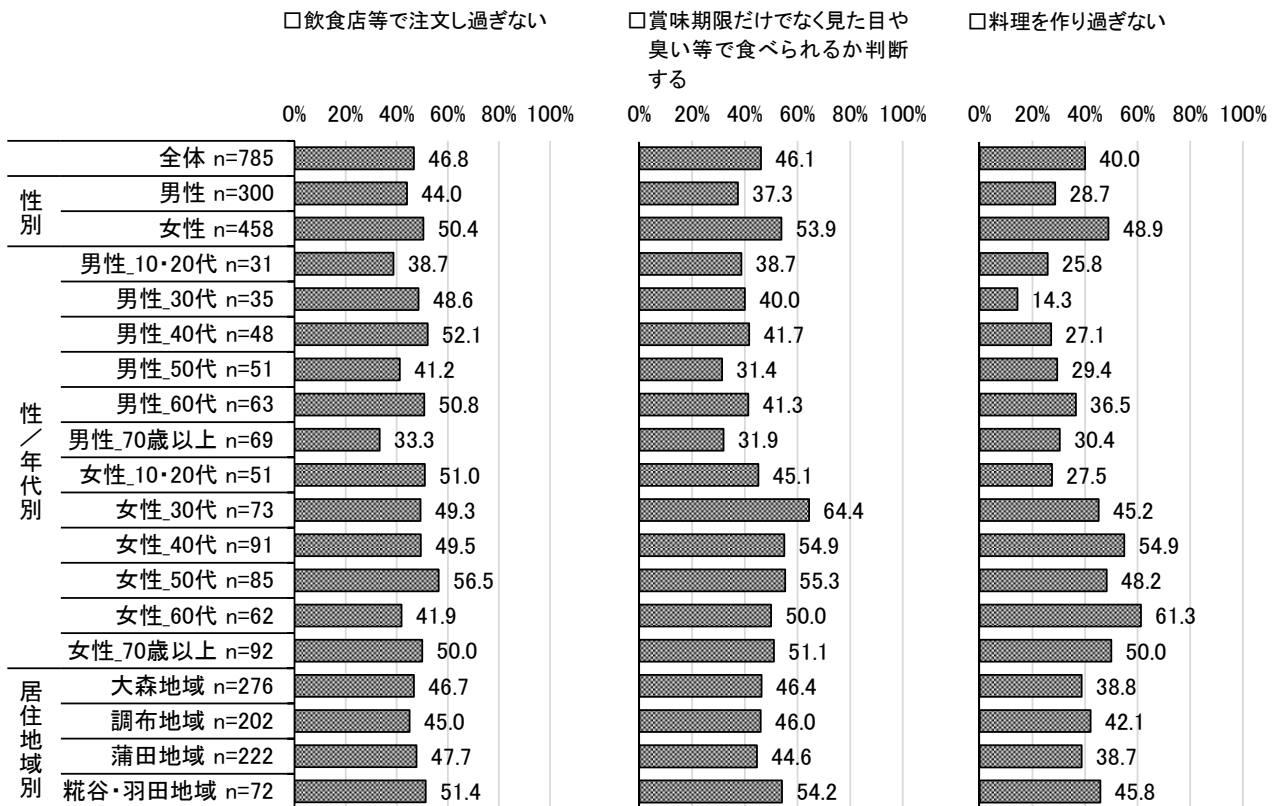
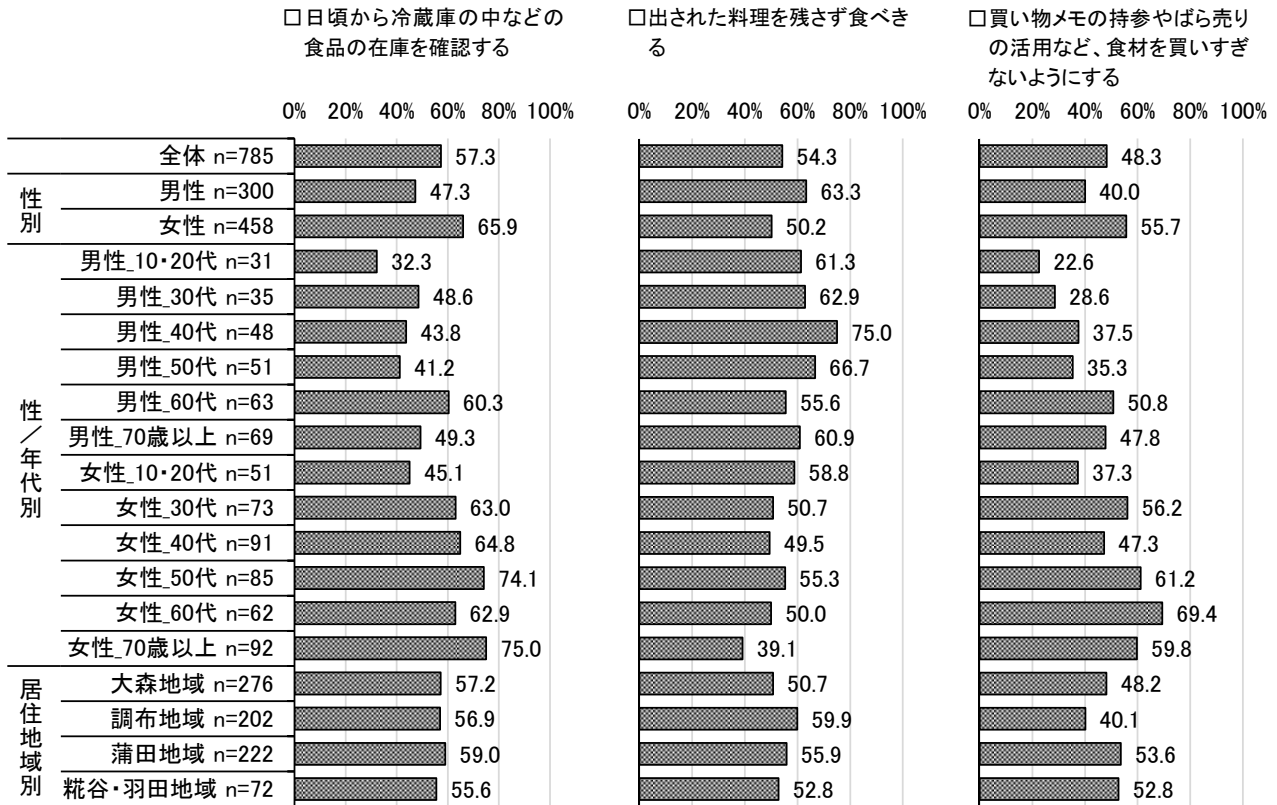
◇「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が6割弱で最も高くなっている

**問 27 あなたは、生活の中で「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。
(いくつでも)**

食品ロスを減らすための取組については、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が57.3%で最も高く、次いで「出された料理を残さず食べきる」が54.3%、「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」が48.3%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別（上位6項目）



性別でみると、男性では「出された料理を残さず食べきる」が最も高く、女性では「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高くなっている。「出された料理を残さず食べきる」は男性が63.3%、女性が50.2%と、男性が13.1ポイント上回っている。「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」は男性が47.3%、女性が65.9%と、女性が18.6ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」は女性50代、女性70歳以上で7割半ばと高くなっている。「買い物メモの持参やばら売りの活用など、食材を買いすぎないようにする」は女性60代で約7割と高くなっている。「賞味期限だけでなく見た目や臭い等で食べられるか判断する」は女性30代で6割半ばと高くなっている。

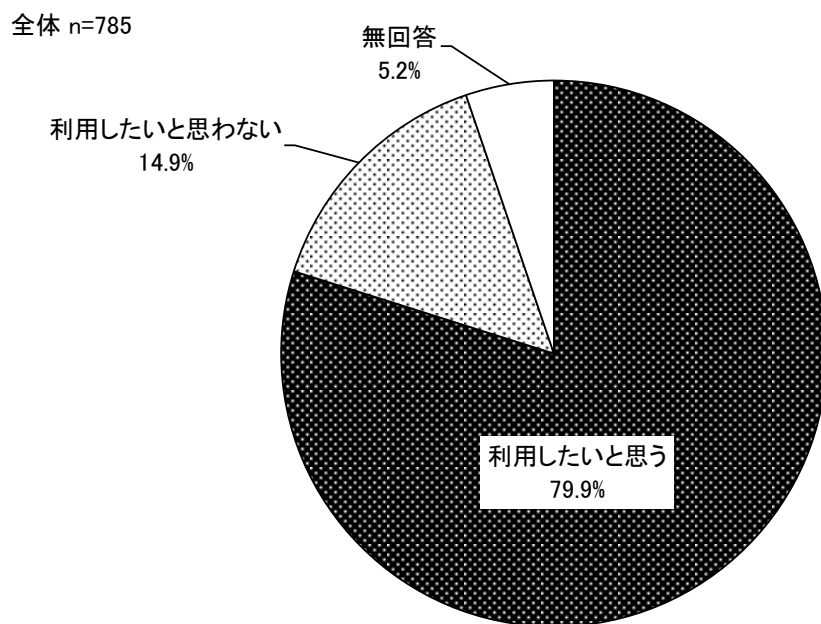
居住地域別でみると、大森地域、蒲田地域、糀谷・羽田地域では「日頃から冷蔵庫の中などの食品の在庫を確認する」が最も高く、調布地域では「出された料理を残さず食べきる」が最も高くなっている。

(3) 「食品ロス」の削減に取り組む店舗の利用意向

◇「利用したいと思う」は約8割となっている

問 28 食品ロス削減に取り組む飲食店や食料品小売店等の情報があれば、そのお店を利用したいと思いませんか。(1つのみ)

食品ロスの削減に取り組む店舗の利用意向については、「利用したいと思う」が 79.9%、「利用したいと思わない」が 14.9%と、「利用したいと思う」が 65.0 ポイント上回っている。

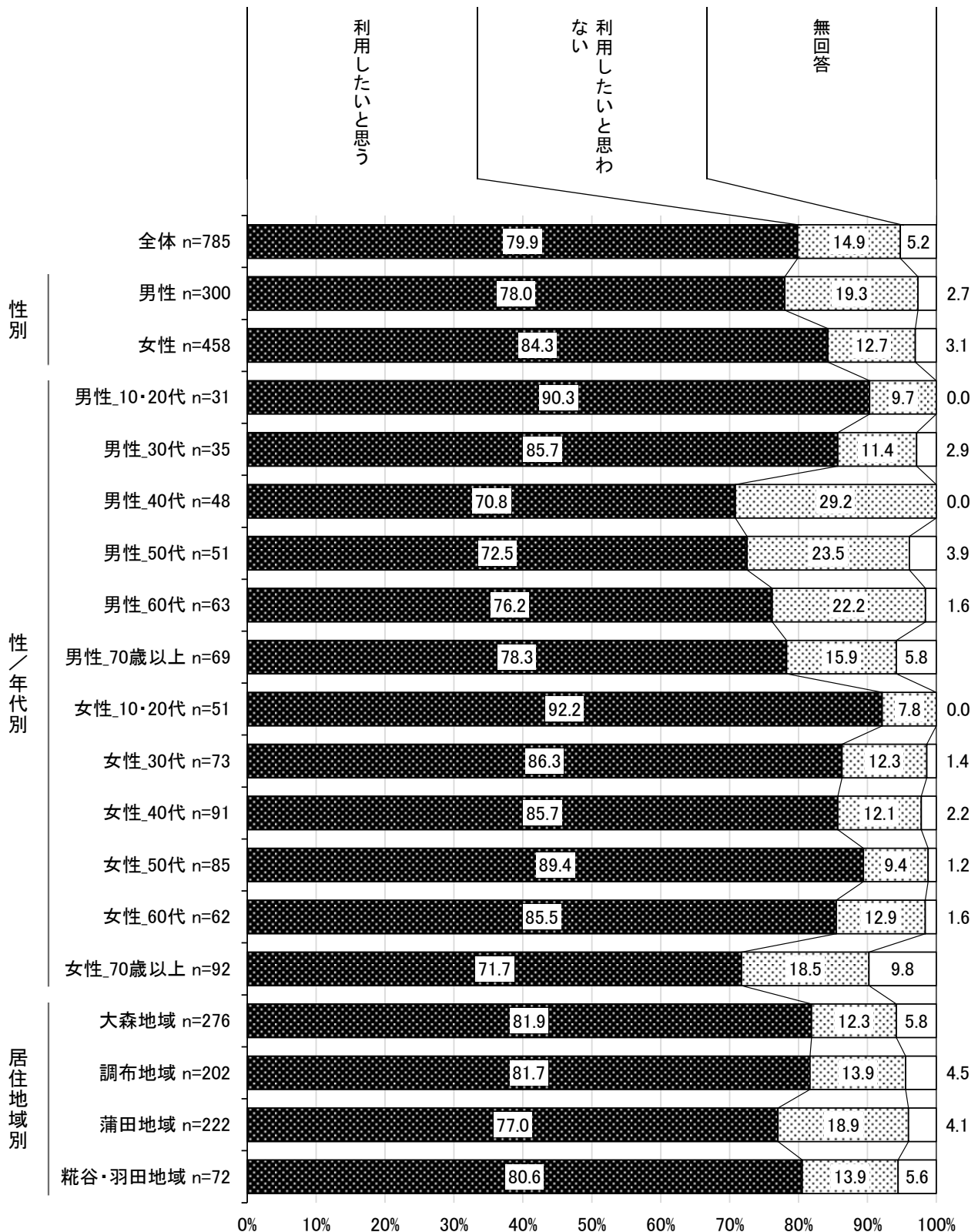


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「利用したいと思う」は男性が78.0%、女性が84.3%と、女性が6.3ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「利用したいと思う」は男性では10・20代で約9割、女性では10・20代で9割前半と高くなっている。

居住地域別でみると、「利用したいと思う」は大森地域、調布地域、糎谷・羽田地域で8割台となっている。



(4) 「フードドライブ」への提供意向

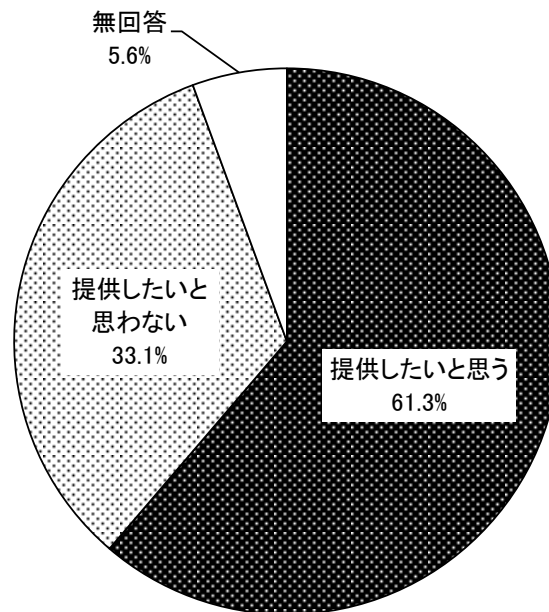
◇「提供したいと思う」は6割前半となっている

問 29 ご家庭の未利用食品を集めて、必要としている団体等に提供する活動を「フードドライブ」といいます。

あなたの家で未利用食品が出た際、フードドライブに提供したいと思えますか。(1つのみ)

フードドライブへの提供意向については、「提供したいと思う」が61.3%、「提供したいと思わない」が33.1%と、「提供したいと思う」が28.2ポイント上回っている。

全体 n=785

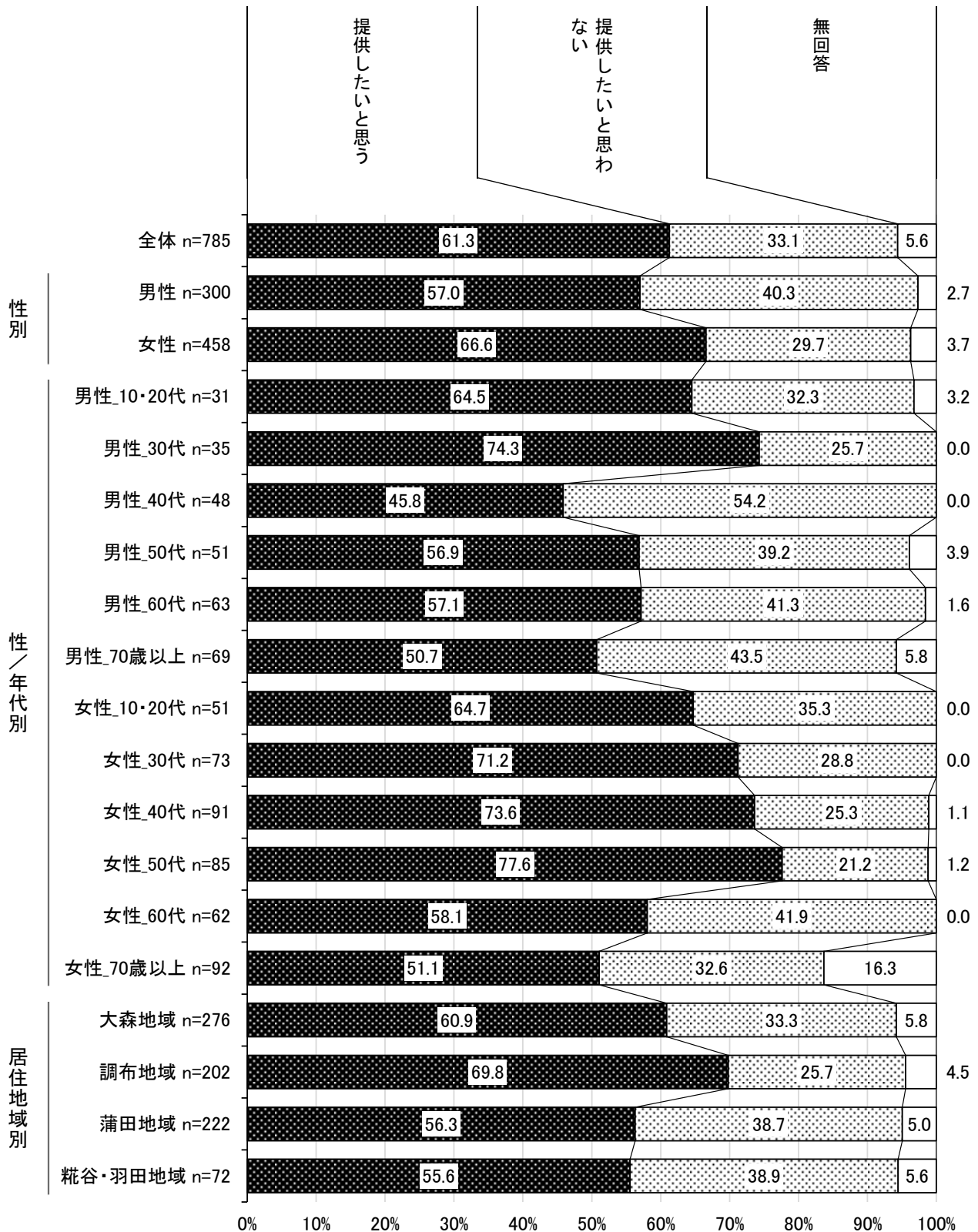


■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、「提供したいと思う」は男性が 57.0%、女性が 66.6%と、女性が 9.6 ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「提供したいと思う」は男性では 30 代で 7 割半ば、女性では 50 代で 8 割弱と高くなっている。

居住地域別でみると、「提供したいと思う」は調布地域で約 7 割と高くなっている。



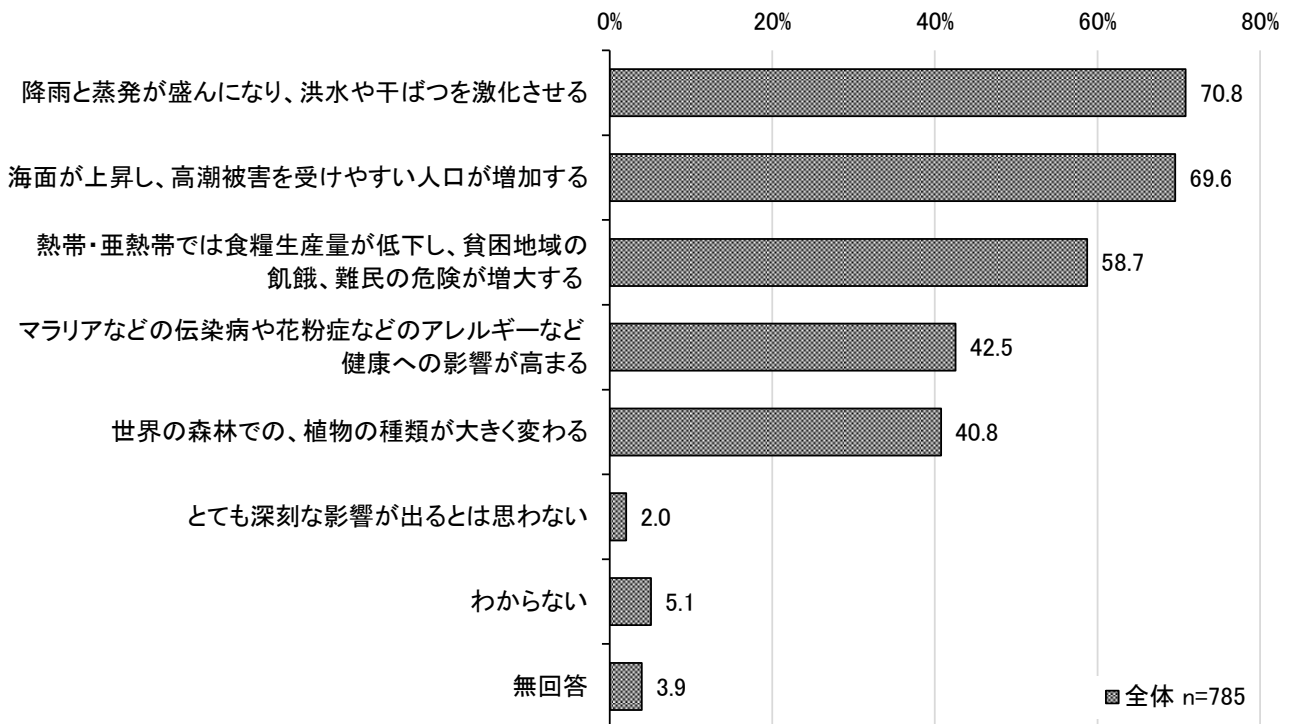
(1) 地球温暖化の問題意識

◇「降雨と蒸発が盛んになり、洪水や干ばつを激化させる」、「海面が上昇し、高潮被害を受けやすい人口が増加する」が約7割となっている

問 30 地球温暖化によって、自然界や人間生活に様々な影響が出ることが予測されています。あなたはどのようなことが問題であると考えますか。(いくつでも)

地球温暖化の問題意識については、「降雨と蒸発が盛んになり、洪水や干ばつを激化させる」が70.8%で最も高く、次いで「海面が上昇し、高潮被害を受けやすい人口が増加する」が69.6%、「熱帯・亜熱帯では食糧生産量が低下し、貧困地域の飢餓、難民の危険が増大する」が58.7%となっている。

なお、「とても深刻な影響が出るとは思わない」は2.0%となっている。



■性別・性／年代別・居住地域別

性別でみると、男性では「海面が上昇し、高潮被害を受けやすい人口が増加する」が最も高く、女性では「降雨と蒸発が盛んになり、洪水や干ばつを激化させる」が最も高くなっている。

性／年代別でみると、「降雨と蒸発が盛んになり、洪水や干ばつを激化させる」は男性60代、男性70歳以上で8割台と高くなっている。

居住地域別でみると、すべての地域で「降雨と蒸発が盛んになり、洪水や干ばつを激化させる」が最も高く、調布地域で7割半ばとなっている。

